

# 平成28年度業務実績報告書

平成29年6月  
独立行政法人国立美術館

# 目 次

I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上	3
1 美術振興の中心的拠点としての多彩な活動の展開	3
(1) 多様な鑑賞機会の提供	3
① 所蔵作品展	3
② 企画展	4
③ 東京国立近代美術館フィルムセンターの映画上映会・展覧会	6
④ 巡回展	7
(2) 美術創造活動の活性化の推進	7
① 新しい芸術表現への取組	7
② 公募団体等への展覧会会場の提供（国立新美術館）	9
(3) 美術に関する情報の拠点としての機能の向上	10
① 情報通信技術（ICT）を活用した展覧会情報や調査研究成果などの公表等	10
② 美術情報の収集、記録の作成・蓄積、デジタル化、レファレンス機能の充実	13
③ インフォメーションデータセンター（IDC）の確立	14
(4) 教育普及活動の充実	15
① 幅広い学習機会の提供（講演会、ギャラリートーク、アーティスト・トーク等）	15
② ボランティアや支援団体の育成等による教育普及事業	18
(5) 調査研究の実施と成果の反映・発信	21
① 調査研究一覧	21
② 調査研究成果の発信	21
(6) 快適な観覧環境の提供	23
① 高齢者、障害者、外国人等を含めた入館者本位の快適な観覧環境の形成	23
② 入場料金、開館時間等の弾力化	25
③ キャンパスメンバーズ制度の実施	28
④ ミュージアムショップ、レストラン等の充実	28
2 我が国の近・現代美術及び海外の美術を体系的・通史的に提示し得るナショナルコレクションの形成・継承	30
(1) 作品の収集	30
(2) 所蔵作品の保管・管理	32
(3) 所蔵作品の修理、修復	33
(4) 所蔵作品の貸与	34
3 我が国における美術館のナショナルセンターとして美術館活動全体の活性化に寄与	36
(1) 国内外の美術館等との連携・協力等	36
(2) ナショナルセンターとしての人材育成	37
(3) 国内外の映画関係団体等との連携等	38
II 業務運営の効率化	42
1 業務運営の取組	42
2 組織体制の見直し	44
3 契約の点検・見直し	44
4 共同調達の推進	45
5 給与水準の適正化等	46
6 情報通信技術を活用した業務の効率化	47

Ⅲ 予算（人件費の見積もりを含む）, 収支計画及び資金計画等 .....	48
1 自己収入の確保 .....	48
2 保有資産の有効利用・処分 .....	48
3 予算 .....	48
4 収支計画 .....	49
5 資金計画 .....	50
6 貸借対照表 .....	51
7 短期借入金 .....	51
8 重要な財産の処分等 .....	51
9 剰余金 .....	51
Ⅳ その他主務省令で定める業務運営に関する事項 .....	53
1 内部統制・ガバナンスの強化 .....	53
2 施設・設備に関する計画 .....	54
3 人事に関する計画 .....	55
4 関連公益法人 .....	56
別表 1 所蔵作品展 .....	57
別表 2 企画展 .....	57
別表 3 映画上映会（フィルムセンター） .....	60
別表 4 展覧会（フィルムセンター） .....	60
別表 5 地方巡回展・巡回上映等 .....	61
別表 6 調査研究一覧 .....	62
別表 7 展覧会図録における執筆 .....	68
別表 8 研究紀要における執筆 .....	71
別表 9 館ニュースにおける執筆 .....	73
別表 10 館外の学術雑誌, 学会等における調査研究成果の発信 .....	77
別表 11 所蔵作品等に関するセミナー・シンポジウムの開催 .....	95
別表 12 シンポジウムの開催等による国内外の優れた研究者等との人的ネットワークの構築 .....	96

（別紙 1）独立行政法人国立美術館の役職員の報酬・給与等について

## I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上

### 1 美術振興の中心的拠点としての多彩な活動の展開

#### (1) 多様な鑑賞機会の提供

##### ① 所蔵作品展

所蔵作品展は、研究成果、利用者のニーズ等を踏まえ、別表1のとおり実施した。  
各館の取組の特徴は以下のとおりである。

##### ア 東京国立近代美術館

(本館)

小企画展「近代風景～人と景色、そのまにまに～ 奈良美智がえらぶ MOMAT コレクション」で、所蔵作品の中から国内外で人気のアーティスト奈良美智が選んだ作品約60点を、奈良自身のコメントとともに展示した。人気アーティストを導き手として、特に美術館に普段来ない若い観客層に日本近代美術の魅力を知ってもらうとともに、サブカルチャーとの関係ばかりが強調されがちな奈良の作品と日本近代美術との連続性を示すことを目指すという今までにない方向性で取り組んだ展示であった。会期中には奈良本人による講演会を2回開催し、展示と合わせてターゲットとした若者層を含めて大変好評であった。

(工芸館)

平成27年度に開催した「近代工芸と茶の湯」続き、「近代工芸と茶の湯Ⅱ」を開催し、日本の工芸の発展と関わりの深い茶の湯への関心を高める機会とした。会場では、茶の湯のうつわを種別ごとに展示するだけでなく、作家や技法でまとめて展示したり、組み立て式の茶室を設置して実際に茶の湯のうつわを展示してそれぞれの役割と配置が見せたりするなど展示・構成に工夫した。また、借用作品を含め展示を撮影可能としたことがソーシャル・ネットワーキング・システム（以下、「SNS」という。）での拡散による広報効果に繋がり、新たな来館者呼び込むことができた。

##### イ 京都国立近代美術館

「展覧会とコレクションの連動」という視点で、企画展示室で開催された企画展に係るテーマを掲げ、所蔵作品（寄託品を含む）を活用して、コレクション展において、さまざまな特集展示や小企画を行った。また、「キュレトリアル・スタディズ」と題して開催している研究員の研究的テーマによる小企画として、キュレトリアル・スタディズ11「七彩に集った作家たち」を開催し、関連イベントとして、マネキン研究家・七彩創業70周年社史編纂メンバーの藤井秀雪氏と京都国立近代美術館長により「七彩を語る」という記念対談を行った。

##### ウ 国立西洋美術館

国立西洋美術館本館の世界文化遺産登録の効果により所蔵作品展の入館者が著しく増加し、総数では例年の約2倍、有料入館者数は例年の約4倍に達した。世界文化遺産に登録された本館に焦点をあてた小企画「ル・コルビュジエと無限成長美術館—その理念を知ろう—」を開催し、松方コレクションの寄贈返還に伴う美術館設立の経緯、ル・コルビュジエ建築の理念、そしてプロトタイプ無限成長美術館を基に設計された本館の特徴を紹介した。

また、多数の参加者が見込まれる「建築ツアー」は開催回数を月2回から4回に増やすなどの対応を行った。

##### エ 国立国際美術館

平成27年度の実績を大きく上回る目標値を設定しながらも、目標値を越える入館者を迎えることができたのは、同時開催した大規模動員展の影響が大きい。コレクション2では、「記憶／歴史」のセクションに、オランダの映像作家フィオナ・タンの《インヴェントリー》(2012年)という大規模な映像インスタレーションを展示した。本作品はイギリスの建築家ジョン・ソーンが収集した古典的彫像を陳列した邸宅（現在は美術館となっている）を撮影した作品で、同時開催していた「特別展 始皇帝と大兵馬俑」に併せての展観を意図した展示を行った。

## ② 企画展

企画展は、来館者のニーズに対応しつつ、以下の観点に留意して別表 2 のとおり実施した。

- イ 国際的視野に立ち、アジア諸地域を含め海外の主要美術館と連携し、確固たる評価を得ている世界の美術を紹介するとともに、我が国の作家や芸術的動向を海外に紹介する展覧会等に積極的に取り組む。
- ロ 展覧会テーマの設定や他の芸術文化との連携による展示方法等について方向性を提示することに取り組む。
- ハ メディアアート、アニメ、建築、ファッションなど我が国が世界から注目される新しい領域の芸術表現を積極的に取り上げ、最先端の現代美術への関心を促す。
- ニ 過去の埋もれていた作家・作品・動向の発見や再評価に取り組む。
- ホ その他

各館の取組の特徴は以下のとおりである。

### ア 東京国立近代美術館

(本館)

「トーマス・ルフ展」では、海外の主要美術館でも展覧会が開催されてきたトーマス・ルフの、初期から最新作に至る作品世界の全体を、日本では初めての大規模個展として展望した。本展の企画構成にあたっては、出品作の選定から展示構成まで、準備段階から作家の全面的な協力を得ることができ、その結果、ルフの作品を概観できるだけの出品内容となったことに加え、また本展が初めての発表となる最新作の展示も実現し、充実した構成の展示となった。また、作家自身の了解を得て会場内での写真撮影を可能としたことで、来館者による SNS 等での発信による広報効果を狙ったと同時に、インターネット上の各種画像を作品の素材として使用することで、今日のネット社会におけるイメージ流通における問題を提起するルフの作品に対する考察を促すことができた。

「endless 山田正亮の絵画」は、戦後日本の抽象絵画を代表する作家のひとりであり、かつ、近年、欧米圏でも注目を浴びつつある山田正亮の初の包括的な回顧展であり、山田正亮の残した制作ノートの検証、1,100点を超える作品に対する地道な実地調査を経て、山田正亮の画業を改めて客観的に捉える機会を提供した。また、文化庁より「平成28年度文化芸術振興費補助金（地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業）」の交付を受け、チラシ・ポスター、図録、会場内キャプション、会場配布物等の日英バイリンガル化及び外国人の来場者調査等を実施し、訪日外国人へも広く情報提供をすることができた。

(工芸館)

「芹沢銈介のいろは一金子量重コレクション」では、平成 26 年度に金子量重氏から受贈した芹沢作品 430 点と東京国立近代美術館工芸館（以下、「工芸館」という。）の旧蔵作品 24 点の展示により、芹沢の芸術性、そして「日本研究」という今後広く展開する可能性を持つ主題の検証を企図した。多様な形式と傾向を持つ新収蔵作品と、これまで芹沢銈介の代表作として紹介されることが多かった工芸館の旧蔵作品との相関関係を示しながら、一方が他方の資料に留まらず、並置することで双方の魅力が引き立つように、芹沢の制作の主要なテーマから「模様」「もの」「旅」の 3 つをキーワードとして選び、それに従って部屋毎、あるいはケース毎の設定を検討し、解説も多く配置するように努めた。

「革新の工芸―“伝統と前衛”，そして現代―」では、近代工芸の先駆者や戦後の工芸の発展を革新的に担った主要な作家らを紹介してその足跡を検証する一方で、伝統を担う現代作家や現代の造形を代表する作家らにも焦点を当て、日本工芸の将来を展望した。数々の日本人工芸家らが世界で活躍して国際的に注目を集め、工芸館でも国外から多くの来館者を迎える今日、本展では工芸館が戦後の重要な作品や現代を牽引する作家らの代表作品を収集し、近代工芸の

歴史的検証を旨としてコレクションの充実を図ってきた成果を積極的に示しながら、現代の工芸に対する評価を促す機会を提供することができた。

#### イ 京都国立近代美術館

「あの時みんな熱かった！アンフォルメルと日本の美術」では、1950年代半ばに、フランス人キュレーター・ミシェル・タピエが独自の概念「アンフォルメル（未定形）」から選抜し日本に持ち込んだ表現主義的な絵画が美術界に与えた影響を、単に様式的な側面から検証するのではなく、爆発的ともいえる流行をもたらした背景にまで切り込み、日本人にとってアンフォルメルとは何だったかという本質的問題を提起した。本展は、日本美術の1950年代から60年代にかけての表現主義的動向をテーマとした本格的な展覧会としては、平成10年の「草月とその時代」展（千葉市美術館、芦屋市立美術博物館）以来約20年ぶりのものであり、国内各紙でも取り上げられたほか、平成28年10月にはパレ・デ・ボザール（ベルギー・ブリュッセル）へも内容を再構成の上巡回し、浮世絵など近世以前の日本美術の知識を主としていた観客に対し、戦後日本美術の動向を伝えることに貢献した。

「茶碗の中の宇宙 樂家一子相伝の芸術」は、ロサンゼルス・カウンティ美術館（アメリカ・ロサンゼルス）、エルミターージュ美術館（ロシア・サンクトペテルブルク）、プーシキン美術館（ロシア・モスクワ）で開催された「樂—茶碗の中の宇宙展」の凱旋展であり、樂家の祖長次郎によって始められ、以後450年にわたって日本の陶芸の中でも他に類例を見ない独特の美的世界を作り上げてきた樂焼の世界を、初代から15代までの作品を展覧することで検証した。一子相伝でありながら、各々の代では、当代が「現代」という中で試行錯誤し創作を続けてきた「不連続の連続」という点に着目し、現代からの視点で初代長次郎始め、歴代の「今—現代」を見ることにより一子相伝の中の現代性を考察した。初代長次郎と当代である15代樂吉左衛門の作品に重点を置くことにより、より現代性を強調した新しい樂の世界を提示することができた。

#### ウ 国立西洋美術館

「日伊国交樹立150周年記念 カラヴァッジョ展」では、バロック絵画の創始者のひとりに数えられるカラヴァッジョの画業及びその美術史への影響を紹介した。カラヴァッジョを取り上げた展覧会としては本邦二度目の開催であることを踏まえ、一度目を上回る出品作品数、テーマ別の章構成などにより新機軸を打ち出した。彼に影響を受けた同時代及び次世代の画家たちの作品と併せて展示、比較を通じて彼の画業の歴史上の重要性や継承者たちによる変容の過程を鑑賞者に視覚的に分かりやすく提示することに努めた。また、カラヴァッジョの生涯にまつわる古文書史料も併せて出品し（いずれもイタリア国外初公開）、この画家の人生と芸術両面における全貌を紹介することにも努めた。世界初公開となる新発見作品《法悦のマグダラのマリア》（1606年）の展示は、世界各国で報道され話題となった。日本においてカラヴァッジョ研究の最先端が披露されたことにより、我が国における西洋美術の展覧会の学術的レベルの高さや意義を世界に発信する格好の機会となった。

「クラナハ展—500年後の誘惑」は、ドイツ・ルネサンスを代表する画家でありながら、日本における知名度はいまだ高くないクラナハの画業を、日本で初めて包括的に紹介する展覧会であり、共催者であるウィーン美術史美術館の全面的な協力を得て、クラナハの多岐にわたる画業を初期から晩年まで、テーマ別に分節しながら余すことなく紹介した。その内容は、ヨーロッパで近年に開催された一連の大規模なクラナハ展に匹敵するものともなった。また、本展固有の取組として、ピカソやデュシャンらの近代美術、ジョン・カリンや森村泰昌、更にイラン生まれのレイラ・パズーキによるコンテンポラリー・アートなど、クラナハの芸術に触発されて生みだされた後世の作品群を併置し、それによって500年前の絵画に宿る「誘惑」を今日的なものとして鑑賞者の前に浮かび上がらせる展示を実現した。

## エ 国立国際美術館

「森村泰昌：自画像の美術史―「私」と「わたし」が会うとき」は、日本の現代美術を代表する美術家・森村泰昌の地元・大阪の美術館では初となる大規模個展であった。1985年に制作された記念碑的な作品《肖像（ゴッホ）》から新作までを含む110点余に及ぶセルフ・ポートレート作品に加え、幼少時からのポートレートも紹介することで、美術史に触れるまでの森村の個人史（＝「わたし」）と、自らが登場することによって批評性をともないながら獲得した美術史（＝「私」）がクロスオーバーするという、森村がこれまで取り組んできた自画像の美術史の集大成とも言える構成を実現した。また写真作品以外にも森村にとっては初となる長編の映像作品も出品した。平成29年1月にはプーシキン美術館（ロシア・モスクワ）へ巡回してモスクワで初となる森村泰昌作品の紹介に寄与し、現地でもテレビ、雑誌、新聞、ネット等多数の媒体に取り上げられるなど高い関心を呼んだ。

「THE PLAY since1967 まだ見ぬ流れの彼方へ」は、1967年より関西を拠点に活動し、かたちに残る何かを「作る」のではなく「体験する」ことに取り組み続ける唯一無二の美術家集団プレイに焦点を当てた。かたちに残らない表現形態であるため、これまで美術館で取り上げることは難しいとされてきたが、本展では、印刷物・記録写真・記録映像・音声記録・原寸大資料などにより、その活動の全貌を展覧した。展示の最初に彼らを代表するプロジェクトである《雷》（1977-1986年）で建造された塔を4分の3のサイズで美術館内に資料として再現することで、それをきっかけに、「作品」そのものではなく、その痕跡としての膨大な資料類の展示に対し鑑賞者の関心を引きつけることに成功した。

## オ 国立新美術館

「MIYAKE ISSEY 展：三宅一生の仕事」は、世界的に活躍する日本人デザイナー・三宅一生の約半世紀にわたる仕事を紹介する、初の大展覧会であった。三宅一生の仕事の原点から現在進行形のものまで、その全貌を紹介する世界でも初めての試みとなった本展は、三宅の哲学やデザインのコンセプトだけでなく、プリーツマシーンを展示するなど、その創作の方法やプロセスも惜しみなく紹介することで、来場者がデザインやものづくりのさらなる可能性を感じられるような内容とした。実際にプリーツをつける機械や、二分の一サイズの服を着せつける体験コーナーを設け、楽しみながら理解するよう工夫した。

「ダリ展」では、20世紀美術を代表するスペイン生まれの巨匠サルバドール・ダリの、国内最大規模となる回顧展を実現した。一般的には、シュルレアリスム時代の「やわらかい時計」の印象が強い作家であるが、映像や書籍、版画、インスタレーションなど多様な領域にまたがって活躍し、またマスコミを十分に利用したことなど、現代美術家の起源ともいえる活動も紹介することで、知られざるダリのイメージを含む、総合的なダリ像を多くの観客に浸透させることができた。

## ③ 東京国立近代美術館フィルムセンターの映画上映会・展覧会

東京国立近代美術館フィルムセンター（以下、「フィルムセンター」という。）の映画上映会・展覧会は、別表3及び別表4のとおり実施した。

取組の特徴は以下のとおりである。

上映会「生誕100年 木下忠司の映画音楽」は、戦後日本映画の黄金期を質・量の両面において支えた映画音楽家・木下忠司が、平成28年に満100歳の誕生日を迎えることを機に開催したフィルムセンター初の映画音楽家特集であった。兄・木下恵介の監督作品の映画音楽で知られる木下忠司の、知られざる多彩な活動と特徴が明らかになるよう、製作時期、映像ジャンル、音楽ジャンルのいずれにおいても幅広く取り上げるプログラム構成とした。これにより、木下忠司の活動概要や特徴を明らかにするだけでなく、これまで注目されていなかったアニメーション分野における貢献、後進への影響等を明らかにすることができた。本企画発表後、全国各地の新聞にフィルムセンターでの木下忠司のインタビュー記事が掲載され、京都文化博物館での特集上映も始まるなど、本企画の意図を波及させることができた。

上映会「DEFA70周年 知られざる東ドイツ映画」では、旧東ドイツ唯一の公式映画製作機関 DEFA (Deutsche Film Aktiengesellschaft) の代表的な作家や作品を網羅した、日本で初めての DEFA 大回顧上映を実施した。本上映会では、旧東ドイツ映画の創造期から終焉までという歴史的視点を持って作品を検証・鑑賞できる構成をとりつつ、各時代の代表的な作家とその作品群を取り上げ、DEFA の特徴が明らかになるよう多岐にわたるジャンルの作品を取り入れた。とりわけ、公開が禁止された「禁止映画」を多くとりあげ、その時代状況や歴史的背景、作家の芸術表現についても理解を深められるよう、専門家によるトークイベントを開催した。アンケートや来場者分析からみられる成果として、従来の観客層とは異なる新たな層や学生層を開拓できたこと、日本ではあまり知られていなかった東ドイツ映画とその文化を広く紹介することが出来たこと、ドイツの歴史と社会・文化への理解を深めたことが挙げられる。

展覧会「戦後ドイツの映画ポスター」では、第二次世界大戦の終結後、政治対立により分断した東西ドイツそれぞれにおいて花開いた二つのグラフィズムを、1950年代後半から1990年までに制作された85点の映画ポスターを通じて紹介した。上記上映会の関連企画として催されたが、東ドイツのみならずデザイナー・グループ「ノーヴム」を起用した西ドイツにも注目することで、分断された二つの映画文化を浮き彫りにした。広報の面では、後援の駐日ドイツ連邦共和国大使館や協力の Goethe Institut / ドイツ文化センターの広報協力を得て、ドイツ文化への関心層に働きかけた。

#### ④ 巡回展

地方巡回展及び巡回上映等は、別表5のとおり実施した。

### (2) 美術創造活動の活性化の推進

#### ① 新しい芸術表現への取組

新しい芸術表現への取組については、各館以下のとおり実施した。

ア 東京国立近代美術館		
(本館)		
事業(展覧会等)名	ジャンル	取組内容
企画展「トーマス・ルフ展」	メディアアート	最新のデジタル技術を従来の写真表現に融合させるこの作家の先進的な取組を紹介した。
所蔵作品展「MOMAT コレクション」	映像	出光真子、田中功起、Chim↑Pom 等、近年収集してきた映像作品を積極的にコレクション展で公開した。また企画展「トーマス・ルフ展」開催にあわせて、ドイツ現代写真の特集を行い、鑑賞者の理解の一助とした。
(フィルムセンター)		
事業(展覧会等)名	ジャンル	取組内容
上映会「自選シリーズ 現代日本の映画監督5 押井守」	日本アニメーション、ゲーム、ミュージックビデオ	日本を代表するアニメーション監督の作品で、押井監督の経歴上重要な作品でありながら、映画館では本格的に上映されてこなかった短篇作品を含め収集・上映した。
展覧会「角川映画の40年」	アニメーション	劇映画だけでなく、1980年代からアニメーション映画にも進出した角川映画の一面を紹介した。
「映画におけるデジタル保存・活用に関する調査研究事業」(BDCプロジェクト)	日本アニメーション映画	「文化芸術振興費補助金(美術館・歴史博物館重点分野推進支援事業)」の交付を受け平成26年度から継続して実施している「映画におけるデジタル保存・活用に関する調査研究事業」(以下、「BDCプロジェクト」という。)において、所蔵作品の公開活用の調査・研究事業の一環として、デジタル化した戦前のアニメーション64作品をウェブサイト「日本アニメーション映画クラシックス」において公開した。また、フィルムセンター所蔵のアニメーション作家大藤信郎の生涯コレクション(映画関連資料)をデジタル化し、「日本アニメーション映画クラシックス」の中で「大藤信郎記念館」として公開した。

第 35 回ポルデノーネ無声映画祭における日本のサイレント映画特別上映（共催）	日本アニメーション映画	無声期の日本映画における多様性を紹介する共催事業で、アニメーション映画では『お伽噺 日本一 桃太郎』（山本早苗監督、1928 年）等桃太郎を扱った 3 本と、現存する日本最古のコマ撮り式アニメーション『なまくら刀』（幸内純一監督、1917 年）を上映した。
新千歳空港国際アニメーション映画祭 2016「日本アニメーション映画クラシックス」「政岡憲三を蘇らせる」（共催）	日本アニメーション映画	『漫画 あめやたぬき』（監督不詳、1931 年）等 9 本により BDC プロジェクトが「日本アニメーション映画クラシックス」において開始した日本の初期アニメーション作品のウェブ公開について紹介するとともに、『トラちゃんと花嫁』（1948 年）等 4 本により日本アニメーション映画の変革者・政岡憲三の業績を顕彰した。
<b>イ 京都国立近代美術館</b>		
事業（展覧会等）名	ジャンル	取組内容
企画展「ポール・スミス展 HELLO, MY NAME IS PAUL SMITH」	デザイン, ファッション	世界的に注目されているポール・スミスのデザインやファッションを紹介し、国内外にデザインやファッションの新しい動向を提示するとともに、同氏のインスピレーションに焦点を当て、ブランド立ち上げから今日に至るまでの軌跡をファッションだけでなく多彩な展示デザインと会場構成で紹介した。
<b>ウ 国立国際美術館</b>		
事業（展覧会等）名	ジャンル	取組内容
企画展「森村泰昌：自画像の美術史―「私」と「わたし」が出会うとき」	写真, 映像	日本を代表する現代美術家森村泰昌による写真, 映像作品を中心に展示した。
企画展「THE PLAY since 1967 まだ見ぬ流れの彼方へ」	現代美術	発泡スチロール製のイカダで川を下る、京都から大阪へ羊を連れて旅をするなど、形に残らない自然の中における「行為」を美術作品とした戦後前衛美術グループを検証する展覧会を開催。山頂に丸太材で一辺約 20m の三角塔を建て雷が落ちるのを 10 年間待ったという伝説的作品を館内に再現展示した。
所蔵作品展「コレクション 2」	現代美術	近年購入したオランダの映像作家フィオナ・タンによる大型ビデオ・インスタレーション作品《インヴェントリー》（2012 年）を展示した。古典的なギリシャ彫刻を題材とした作品であるため、地下 3 階で同時開催していた「特別展 始皇帝と大兵馬俑」に時期を合わせて展示した。
<b>エ 国立新美術館</b>		
事業（展覧会等）名	ジャンル	取組内容
企画展「MIYAKE ISSEY 展：三宅一生の仕事」	ファッション	国際的に活躍するファッション・デザイナーとして、常に時代の先頭を走ってきた三宅一生の初期から現在までの仕事を振り返った。会場のヴィジュアルのデザインを佐藤卓氏に、空間デザインを吉岡徳仁氏に依頼し、斬新なインスタレーションを実現した。
企画展「ダリ展」	絵画, 映像, アニメーション	シュルレアリスムを代表する画家のひとりであるダリは、斬新な映像作品や、ウォルト・ディズニーとのコラボレーションによるアニメーションなどでも才能を発揮した。本展覧会は、ダリの知られざる多彩な活動を紹介した点でも特筆に値する。
企画展「未来を担う美術家たち 19th DOMANI・明日展 文化庁新進芸術家海外研修制度の成果」	絵画, 写真, 陶芸, インスタレーション, メディアアート	絵画や写真, 陶芸, インスタレーションやメディアアートなど、多様な素材と表現の作家を選定し、様々なジャンルの新しい芸術の創出に取り組む現代美術家たちを紹介した。
企画展「国立新美術館開館 10 周年 草間彌生 わが永遠の魂」	絵画, コラージュ, 立体, パフォーマンス, 文学	世界的な現代作家である草間彌生は、前衛的な絵画や立体作品といった造形活動だけでなく、パフォーマンスや映像, 著述にも大きな足跡を残した。新作展と回顧展からなる本展覧会では、その多岐に渡る活動を、大規模に紹介した。

海外巡回展「ニッポンのマンガ *アニメ*ゲーム」バンコク展	マンガ、アニメーション、ゲーム	日本が世界に誇る視覚文化でありながら、これまで歴史的・包括的な紹介がなされてこなかった分野を取り上げた世界巡回展。平成 27 年度のミャンマー展に続いて、タイで開催した。
イベント 「TOKYOANIMA!2016」ほか	アニメーション	若い世代による新しいアニメーションを紹介した。(参加者数延べ 864 人) また、「インターカレッジアニメーションフェスティバル (ICAF) 2016」に特別協力し、若手の支援にも貢献した。(参加者数延べ 2,318 人)
イベント「国立新美術館 開館 10 周年記念ウィーク」	インスタレーション	建築家・デザイナーのエマニュエル・ムホーによるインスタレーション「NACT Colors—国立新美術館の活動紹介」では、企画展示室 1E の全体を使った大規模な展示を、300 人ほどのボランティアの手を借りて実現した。(入場者数：20,916 人) 100 色の紙を 6,000 ピース吊るした壮大な仕掛けは、SNS と連動して大きな話題を呼んだ。ほかにも乃木坂駅からの連絡通路等において石田尚志による映像インスタレーション等を展示した。
イベント「六本木アートナイト」	デザイン、音楽、映像、演劇、舞踊	様々な施設が集積する六本木の街に、多様な作品を点在させ、非日常的な体験を作り出すアートの祭典。生活の中でアートを楽しむという新しいライフスタイルの提案に寄与した。
		<b>計 19 件</b>

## ② 公募団体等への展覧会会場の提供（国立新美術館）

公募展団体数：計 69 団体

年間利用室数：延べ 3,500 室／年

稼働率：100%（目標：100%）

入館者数：1,200,190 人

- 1 公募団体等から寄せられた意見や要望も参考としつつ、公募展の効率的な開催準備と円滑な運営を図るため、以下の取組を実施。
  - ・作品搬入出時の車両の入退館時間の指定や駐車場の割振りを団体ごとに実施。
  - ・作品用エレベータの使用時間割振りや使用備品の事前配置等の徹底。
  - ・審査、展示等に必要な備品の充実。
  - ・展示作品の素材や陳列方法等について、施設の管理運営上問題の生じる可能性のある公募団体等との事前協議の徹底。
  - ・公募展運営サポートセンターにおいて、使用公募団体等に関する電話（国立新美術館公募展案内ダイヤル）への問い合わせ対応の実施。
  - ・公募展のポスター掲示や公募展開催案内チラシの作成及び配布による広報の実施。
  - ・館ホームページの公募展紹介ページに、文字情報に加えポスター等の画像情報を掲載することにより広報を充実。
  - ・公募展と企画展の観覧料の相互割引について、実施団体の情報を館内で周知。
- 2 館を使用する公募団体等が実施する教育普及活動に対し、講堂及び研修室の提供や運営管理上必要な助言、参加者の動線の確保等のサポートを実施。また、館ホームページへの情報掲載、館内でのチラシの配布及びポスターの掲示等により、普及・広報の支援を実施。
- 3 平成 30 年度に公募展示室を使用する 74 団体（野外展示場のみ使用団体を含む。）を決定。

### (3) 美術に関する情報の拠点としての機能の向上

#### ① 情報通信技術 (ICT) を活用した展覧会情報や調査研究成果などの公表等

##### ア ホームページアクセス件数

館名	アクセス件数 (ページビュー)	
	実績	目標
本部	2,372,478	5,952,350
東京国立近代美術館 (本館・工芸館・フィルムセンター含む)	5,581,777	11,613,099
京都国立近代美術館	3,639,831	2,360,880
国立西洋美術館	21,650,338	10,242,595
国立国際美術館	2,902,225	2,547,497
国立新美術館	16,041,650	10,701,915
計	52,188,299	43,418,336

##### イ 所蔵作品データ等のデジタル化と公開

館名	画像データ					テキストデータ					
	デジタル化件数		累積公開 件数	公開率		デジタル化件数		累積公開 件数	公開率		
	新規	累計		実績	目標	新規	累計		実績	目標	
東京国 立近代 美術館	本館	108	11,041	7,114	54.1%	57.2%	286	11,984	11,252	85.5%	87.4%
	工芸館	308	4,513	3,113	83.4%	33.7%	128	5,055	4,302*1	115.3%	98.4%
	フィルムセンター*2	—	—	—	—	—	5,567	169,730	—	—	—
京都国立近代美術館		214	7,897	3,881	31.5%	18.2%	650	14,401	13,100*1	106.3%	100.9%
国立西洋美術館		10,687	17,040*2	205	3.6%	3.8%	198	6,092	4,833	83.7%	85.7%
国立国際美術館		235	7,805	3,843	48.9%	49.8%	537	8,872	7,827*1	99.7%	98.7%
計		11,552	48,296	18,156	42.4%	35.2%	7,366	216,134	41,314	96.5%	94.0%

【注1】「デジタル化件数」は、各館のローカルシステムにおける画像及びテキストデータの登録件数である（フィルムセンターについては、ローカルシステムである NFCD への映画フィルム及び映画関連資料のテキストデータ登録件数を掲載している。）。

【注2】「累計公開件数」は、「独立行政法人国立美術館所蔵作品総合目録検索システム」(<http://search.artmuseums.go.jp/>)における画像及びテキストデータの公開件数である。

【注3】上表のほか、フィルムセンターでは「東京国立近代美術館フィルムセンター所蔵映画フィルム検索システム」(<http://nacd.momat.go.jp/>)において日本劇映画のテキストデータ 7,299 件を、国立西洋美術館では「国立西洋美術館所蔵作品データベース」(<http://collection.nmwa.go.jp/artizeweb/>)において作品のテキストデータ 5,691 件及び画像データ 5,500 件を、国立新美術館では「ANZAI フォトアーカイブ」(<http://db.nact.jp/anzai/>)においてアーカイブズ資料のテキストデータ 3,217 件をそれぞれ公開している。

※1 工芸館、京都国立近代美術館、国立国際美術館では、複数で一揃いの作品を個別に掲載しているため、テキストデータの公開率が高くなっている。

※2 国立西洋美術館では、1 作品あたりに複数の画像データを登録している例があるため、画像データ件数がテキストデータ件数を上回っている。また、画像データのデジタル化件数については、現行の収蔵作品管理システムを導入した平成 17 年度頃から平成 27 年度まで写真フィルムのスキャニング枚数を計上してきたが、平成 28 年度からはシステム上のデータ登録件数を計上することに変更したため、見かけ上の数値が大幅に増えることとなった。

## ウ 各館の特徴

### (ア) 法人全体

平成 26 年 6 月に策定した「国立美術館のデータベース作成と公開の指針」に基づき、理事長のもとに国立美術館 5 館の情報担当者により組織される「国立美術館のデータベース作成と公開に関するワーキンググループ」を設置しており、各館の課題の整理と今後の事業について継続的に協議を行っている。平成 28 年度は、特に関西 2 館が図書館システムを新規に導入した。また、各館収蔵作品の歴史的データを蓄積する方法について、入力仕様の検討を進めた。さらに、国立美術館の公開情報資源を一元的に検索・閲覧できるゲートウェイシステムの開発・公開を目指し、平成 28 年度はその試行版を開発した。

「独立行政法人国立美術館所蔵作品総合目録検索システム」については、新収蔵作品のテキストデータ・画像データを追加するとともに、著作権者に画像掲載の許諾を得る必要のある所蔵作品のうち、許諾を得た工芸〔グラフィックデザイン・工業デザイン〕の作品 659 点について画像データを新規登録した。また、平成 18 年度以降の収蔵作品について、あらためて著作権者情報の整備を行い、画像掲載許諾申請手続を開始した。

視認性や利便性の向上を図るため、平成 28 年 12 月に法人ホームページを全面的にリニューアルした。

なお、法人ホームページのページビュー数が目標件数（第 3 期中期目標期間平均実績）を大幅に下回っているが、これはアクセスの内容を精査し、近年急激に増加しているウェブページの自動巡回プログラム等によるアクセスを除外したことによるものであり、これによってホームページのより正確な閲覧状況を把握することができるようになった。

### (イ) 東京国立近代美術館

平成 27 年度に実施したホームページの大規模リニューアルを踏まえ、より親和性が高く、発信力のあるホームページになるよう、サイトトップ画面の掲載画像を多彩にするなど工夫に努めた。また、通常の展覧会情報に加え、「声ノマ 全身詩人、吉増剛造展」では担当研究員のインタビュー記事を掲載し、「endless 山田正亮の絵画」では PR 動画を作成して公開した。なお、リニューアルに伴い、利用者によりわかりやすいよう情報の階層を整理した結果、利用者が求める情報に辿りつくまでのクリック数（ウェブサーバへのアクセス数）が減り、複数回のクリックを必要としていた前システムよりも、結果的にウェブサーバへのアクセス数が減少した。このため、目標件数（前システムを運用していた第 3 期中期目標期間平均実績）を下回っている。

SNS では Facebook と Twitter を継続し、画像の添付や投稿回数を増やすなど配信に注力した。

フィルムセンターでは、平成 25 年度に開始したフィルムセンターのホームページ上での所蔵資料公開事業「NFC デジタル展示室」において、「無声期日本映画のスチル写真」シリーズの 2 回（第 3、4 回）の特集展示を行った。また BDC プロジェクト主導のもと、国立情報学研究所（NII）との共同開発によりウェブサイト「日本アニメーション映画クラシックス」を構築し、日本の初期アニメーション作品を動画配信した。映画関連資料についても BDC プロジェクトとの連携のもと、アニメーション作家大藤信郎のコレクションや戦前期の貴重な映画雑誌のデジタル化作業を実施し、大藤信郎の旧蔵コレクション画像については上記「日本アニメーション映画クラシックス」にて紹介した。また平成 27 年度に実施した所蔵映画ポスター 5,000 点のデジタル化により作成されたデジタル画像を NFCD に登録した。

### (ウ) 京都国立近代美術館

ホームページにおいて、各展覧会の基本情報や講演会、教育普及関連のイベントの案内・報告、美術館ニュースや研究論集の内容紹介、更には「友の会」の行事報告などを行った。コレクション・ギャラリー（所蔵作品展）については、展示替えごとに出品リストや解説を掲載するだけでなく、著作権に支障のない範囲で出品作品の画像を掲載し、情報のさらなる

充実に努めた。また、前年度から開始した Facebook による情報発信でも展覧会に関わるトピックをこまめに発信した。

#### (エ) 国立西洋美術館

平成 27 年度に設置した「国立西洋美術館出版物リポジトリ」において『国立西洋美術館報』初号（1967 年）から 45 号（2011 年）までを遡及入力して公開した。また欧米における紙本作品貸出のスタンダードを示す『紙本作品貸出のためのガイドライン：2015 年デジタル版』（アメリカ版画評議会編）の日本語訳版を公開し、全国の学芸員への提供に努めた。本ガイドラインは版画素描学芸員国際諮問委員会を通じた海外関係者との交流により国立西洋美術館研究員が翻訳する運びとなったものである。

また、外部利用者向けの無線 LAN 環境について、一般来館者向けの区域及び研究資料センター閲覧室に設置し、無料のサービス提供を開始した。

さらに、休止中のスマートフォン向けアプリケーション「Touch the Museum」の後継サービスとして、国立西洋美術館研究員が所蔵作品について解説するギャラリー・トークの映像を制作し、グーグル社のスマートフォン・アプリ及びウェブサイトを通じて試験公開した。なお、映像に英語字幕をつけることにより多言語化に対応した。

このほか、東京文化財研究所と「美術工芸品を中心とする文化財情報の国内外への発信にかかる基盤形成事業」に関する協定を結び、国立西洋美術館が持つ情報発信の手法と経験を活用し、東京文化財研究所所有の日本国内の美術情報を国際的な学術情報基盤へ提供する事業の推進に取り組んだ。

#### (オ) 国立国際美術館

平成 27 年度に引き続き、平成 28 年 4 月から 6 月にかけて、公式 Ustream チャンネルにてイベント「森村泰昌連続講座『新・美術寺子屋／自画像の話』」（計 6 回）の様態を同時中継した。

また、平成 28 年 12 月より Instagram アカウントを開設した。同時期に開幕した「THE PLAY since 1967 まだ見ぬ流れの彼方へ」では会場撮影可能とし、設定したハッシュタグとともに SNS への写真投稿を積極的に促すキャンペーンを実施した。

さらに、業務の円滑化を図るため、展示室内に Wi-Fi を導入した。今後は、ネットワークを利用した作品など、多様化する現代美術作品への活用も想定している。

このほか、老朽化したデータ保管用サーバをリニューアルした。容量を 6TB から 12TB へと増やし、映像など大容量化する作品データにも対応できるようにした。

#### (カ) 国立新美術館

展覧会情報検索サービス「アートコモンズ」では日本国内の美術館、画廊、美術団体から継続的に展覧会情報を収集し、検索に供している。平成 28 年度には 4,411 件（新規 3,661 件、更新 750 件）の展覧会情報を約 1,400 か所から収集し、累計で 39,829 件の展覧会情報を提供した。

平成 28 年 3 月末にリニューアルしたホームページは、国立新美術館の活動をわかりやすく伝えるとともに、スマートフォンに対応する等、現在のインターネット利用者の状況を踏まえたデザインとし、更にインターネットからのサイバー攻撃を避けるため、攻撃の糸口となる脆弱性を極力無くすようなシステム構成となっている。

ICT 技術により美術館サービスの向上を図る試みとして、東京大学/YRP ユビキタス・ネットワークング研究所の坂村健教授の協力により、「交通系 IC カードを用いた展覧会入場実験」、「機械翻訳を用いた多言語デジタルサイネージ」、「展覧会解説パネルの多言語化」を実施した。

## ② 美術情報の収集、記録の作成・蓄積、デジタル化、レファレンス機能の充実

### ア 図書資料等の収集

館名		収集件数	累計件数	図書室利用者数	
				実績	目標
東京国立近代美術館	本館	2,844	137,536	2,260	2,263
	工芸館	1,122	26,927	238	306
	フィルムセンター	1,448	46,447	3,418	3,681
京都国立近代美術館		1,533	28,169	—	—
国立西洋美術館		1,135	50,522	405	383
国立国際美術館		988	42,631	—	—
国立新美術館		4,903	146,905	30,017	24,392
計		<b>13,973</b>	<b>479,137</b>	<b>36,338</b>	<b>31,025</b>

【注】東京国立近代美術館は本館 4 階、京都国立近代美術館は 4 階、国立西洋美術館は 1 階、国立国際美術館は地下 1 階に図録等を閲覧できる情報コーナーを設けているが、入館者が自由に閲覧できるようにしているため、当該コーナーについては、利用者数の把握はしていない。

### イ 特記事項

#### (ア) 東京国立近代美術館

##### (本館)

平成 24 年度からの 60 周年事業の一環である 60 年史のデータ集成及び編集作業を進めて、ミュージアム・アーカイブの整備をあわせて進め、法人文書ファイル管理簿等との整合性が図れるよう関係部署との調整を行って、図書検索システムでの情報管理を継続して行った。また、「海外日本美術資料専門家（司書）の招へい・研修・交流事業」を「平成 28 年度文化庁文化芸術振興費補助金（地域の核となる美術館・歴史博物館創造活動支援事業）」を得て実現し、海外から 9 名の招へい者を得て、平成 28 年 12 月 9 日に公開ワークショップを開催した。さらに平成 29 年 2 月 9 日にはアンサー・シンポジウム「JAL2016WS「日本美術の資料に関わる情報発信力の向上のための提言 III」への応答—“またもや”感を越えて」を開催し、後日「日本美術の資料に関わる情報発信力の向上のための課題解決についての提案」を策定した。以上の活動については『公開ワークショップ「日本美術の資料に関わる情報発信力の向上のための提言 III」報告書』と題する報告書を刊行し、広く関係各位と共有することに努めた。

##### (工芸館)

企画展開催時に重点的に関連資料を収集する工芸館の方針に則り、平成 28 年度はマルセル・ブロイヤー並びにバウハウスに関する図書資料の購入に努めた。中には工芸館の所蔵作品と同時代の貴重な資料も含まれており、デザインをテーマとした展覧会での展示等、多義的な活用が期待される。また、元工芸課長であった長谷部満彦氏旧蔵の書籍の寄贈を受けた。これにより、近代工芸の基本的な資料のほか、工芸館の収蔵作品の要の一つであるクリストファー・ドレッサーや、重要無形文化財保持者である富本憲吉についての貴重書を多数収蔵することができた。

##### (フィルムセンター)

平成 28 年度は戦前の『映画教育／活映』をはじめとする雑誌の復刻版のほか、書籍、雑誌、ポスター、ミニコミ系出版物などを購入した。また、図書資料以外に、浦山桐郎監督の旧蔵資料 572 点、株式会社ロシア映画社より寄贈のソビエト映画資料 2,524 点、映画文献の翻訳家故・奥村昭夫氏の旧蔵洋書 3,111 点、ハワイ・ジャパニーズ・センターよりハワイの日本映画上映館で使用されたポスター 15 点等の寄贈を受けた。

図書所蔵情報の公開については、例年進められている新着本の登録のほか、前年度に開始された図書室内の映画雑誌のオンライン目録への登録に本格的に着手し、主要な映画雑誌の所蔵情報を公開した。

(イ) 京都国立近代美術館

平成 29 年度開催予定の企画展（「戦後ドイツの映画ポスター」，「絹谷幸二展」）の事前調査，コレクションの調査研究及び障害者の美術館活用を促進する教育普及活動のための図書を購入した。また，平成 30 年度の所蔵展覧会図録の書誌情報の一般公開を目指し，外部業者によるデータベースへの入力を開始した。

(ウ) 国立西洋美術館

松方コレクションに関する研究資源公開の一環として，国立西洋美術館所蔵の松方コレクション売立目録数冊を電子化し，図書館システムを通じて一般に公開した。

ル・コルビュジエの建築関連資料 3 万 5 千点を利用できる有償データベース「Le Corbusier Plans」（株式会社 Echelle-1）の利用契約を結び，研究資料センターにおいて閲覧に供した。新しい学術資源へのアクセスが可能になったことにあわせ国立西洋美術館ウェブサイト上の学術情報資源ガイド「学術情報案内」を更新し，美術情報の拠点として美術史及び関連諸学に関する情報の収集と提供に努めた。

図書室の設置準備を進める京都国立近代美術館・国立国際美術館の担当者らと国立西洋美術館の知見を共有し，法人内での課題や情報の共有に努めた。このほか西洋美術に関する情報・資料を収集し，事業の推進に役立てるとともに外部利用者への提供に努めた。アート・ディスプレイ・グループ目録への参加を通じて美術情報分野における国際貢献に努めた。

(エ) 国立国際美術館

国内外の現代美術に関連する図書資料等を中心に収集を継続した。特に，企画展や所蔵作家関連の文献に加え，国際展に関する文献などの収集を積極的に行った。また，平成 30 年度の所蔵書誌情報の一般公開を目指し，外部業者によるデータベースへの入力を開始した。

(オ) 国立新美術館

日本の展覧会図録を中心に網羅的，遡及的収集に努め，国内約 400，国外約 100 の美術館・博物館と展覧会図録の相互寄贈関係を維持している。また，海外拠点 4 か所に日本で開催された展覧会の図録を送付する「JAC (Japan Art Catalog) プロジェクト」を引き続き実施した。このほか，平成 28 年度までに寄贈された複数の個人からの大口寄贈資料についての整理作業を進め，更に所蔵資料のうち脆弱なものの一部についてデジタル化を行った。

なお，来館者にアトライブラリーの利用を促すための掲示を，展示室や講演会開催時の講堂ロビーに設置する等の取組を継続して行っている。

③ インフォメーションデータセンター (IDC) の確立

平成 20 年度に，国立美術館 5 館全体において VPN (Virtual Private Network : 暗号化された通信網) を導入して以降，情報ネットワークの安定化・高速化を実現している。また，外部データセンターが提供するサーバ機能を利用し，多重化した光回線による VPN の二重化等ネットワーク構成を刷新した。これにより平成 29 年度以降更に安定したネットワーク稼働を維持することが可能となる。

#### (4) 教育普及活動の充実

##### ① 幅広い学習機会の提供（講演会、ギャラリートーク、アーティスト・トーク等）

館名		実施回数	参加者数	
			実績	目標
東京国立近代美術館	本館	433	10,284	9,520
	工芸館	168	3,841	2,671
	フィルムセンター	168	13,201	13,801
京都国立近代美術館		83	5,816	3,431
国立西洋美術館		296	12,087	17,073
国立国際美術館		63	4,788	3,296
国立新美術館		139	17,670	15,823
計		1,350	67,687	65,615

#### 各館の特徴

##### (ア) 東京国立近代美術館

###### (本館)

館内のブランディング戦略プロジェクトチーム（23 ページ参照）において策定した最終答申における「対話と多様性のある所蔵品ギャラリー」空間を実現するため、既存のプログラムをよりよく運用できるよう工夫を加えた。ギャラリー内で使用するためにデザインされた折り畳み椅子 20 脚を所蔵品ガイドなどの解説プログラムに新たに導入した。これにより、対話鑑賞がより快適に行えるようになり、高齢者も参加しやすくなった。

学芸員による所蔵品ギャラリーでの解説プログラムを「キュレーター・トーク」の名称に統一し、これまで不定期だったところを毎月実施することとした。

学校との連携においては、平成 27 年度に引き続き、東京都中学校美術教育研究会との共催で、休館日を利用して中学校教員に対する 1 日研修を行った。平成 28 年度はギャラリートークが実際に行えるようになるための「1 日研修」というフォーマットを完成させたので、平成 29 年度以降に他館でも実施する見通しである。

児童向けの取組については、申込制の子ども向けプログラムとして、4・5 歳児対象の「おやこでトーク」、小学校 1～4 年生対象の「こども美術館」、小学校 5 年生～中学生対象の「トークラリー」と、例年通り幅広い年齢層に向けて展開した。「こども美術館」及び「トークラリー」は、東京国立近代美術館の夏休み企画「KIDS★MOMAT 2016」として、工芸館及びフィルムセンターと共同で広報を行った。

###### (工芸館)

ギャラリートークやタッチ&トークなど、様々な対象者を想定した多彩な教育普及事業を展開した。児童生徒を対象とした事業として新たに「キュレーターに挑戦！」を、また家族を対象とした事業として「五感！交歓！名探偵！」を実施した。「キュレーターに挑戦！」は、東京都図画工作研究会等との研究授業や昨年度実施した「写真教室」並びに平成 16 年から夏期に実施しているワークシート「工芸図鑑」等において観察した児童の発達段階と作品に対する関心の在り様の分析から考案したものである。また 100 年後の工芸のために普及啓発実行委員会（「平成 28 年度文化芸術振興費補助金（地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業）」採択事業実施団体）等との連携により、「出張タッチ&トーク～工芸館がやってきた！」、「工芸制作ワークショップ」を実施した。

###### (フィルムセンター)

大ホールの 6 企画で計 54 回、小ホールの 2 企画で 5 回、計 59 回のトーク・イベント（講演会、舞台挨拶を含む）を行った。また、教育普及を目的とする上映イベントでは、小中学生を対象とする「こども映画館」と「ユネスコ『世界視聴覚遺産の日』記念特別イベント」といっ

た恒例行事に加え、フィルムセンターが近年復元した作品を研究員の講演つきで上映する特別イベント「『日本南極探検』デジタル復元版特別上映会」と、展覧会関連企画として「『角川映画の40年』関連上映・トークイベント 崔洋一監督来訪！上映&トーク」を開催した。

平成14年度から毎年開催している「こども映画館」では、映画の上映前後に研究員がフィルムや上映作品を解説し、上映終了後に映写室、展示室の見学を行う形式で開催した。上映については、子どもたちが日常のテレビやDVDなどでは接する機会の少ない作品や、弁士・伴奏付きの上映方法などを取り入れ、豊かな映画文化への関心を促すことを試みた。また、特別展示「NFCコレクションでみる 日本映画の歴史」における児童生徒向けの「ジュニア・セルフガイド」や、大学等の学生がフィルムセンターで映画の上映会または展覧会を観覧したことを証明する「鑑賞証明カード」を継続して配布した。

このほか、京都国立近代美術館及び国立国際美術館において共催事業を実施した。京都国立近代美術館においては、映画上映「NFC 所蔵作品選集 MoMAK Films 2016」を4回にわたり実施した。5月の上映「映画監督 三隅研次」では石原興（映画監督）によるアフタートークを行った。7月の上映「キューバ映画特集」では企画展「キューバの映画ポスター 竹尾ポスターコレクションより」にあわせたテーマを設け上映作品をピックアップした。国立国際美術館においては第13回中之島映像劇場「極私的映画への招待」を開催し、3名の映像作家の長編映画の紹介を通じて、極めて私的なことが映画作品という開かれた表現において共有されることについて再考した。これらの共催事業は、関西におけるフィルムセンター所蔵フィルムの定期的な上映拠点の形成に寄与している。

#### (イ) 京都国立近代美術館

講演会、ギャラリートーク、ワークショップ等を通じて、展覧会を多様な角度から楽しむ機会を提供した。とりわけ、これまで美術館経験の少ない人びとの来館を促す取組が多かった点が今年度の活動の特徴である。

「オーダーメイド：それぞれの展覧会」では、ゲーム感覚で参加者が選んだ作品を中心に解説を行う「選択の多い鑑賞ツアー」や、小中学生にキュレーションを体験してもらう内容のワークショップを実施した。「ポール・スミス展 HELLO, MY NAME IS PAUL SMITH」では、メンズファッションの歴史という観点からポール・スミスの重要性を考察するトークセッションを開催した。「メアリー・カサット展」では、閉館後の親子向け鑑賞会「キッズ・ナイト・ミュージアム」を開催し、リラックスした雰囲気の中で鑑賞を楽しみ、美術館を身近に感じてもらう機会となった。

学校との連携においては、これまで同様、学習支援という立場からきめ細かなサポートを行った。とりわけ展示構成を工夫した「オーダーメイド：それぞれの展覧会」では、博物館学や建築学の授業での活用例が目立った。解説に際しては先方のニーズに応じた内容となるよう配慮した。また、「ミュージアム・アクセス・ビュー」と連携した鑑賞ツアーを年2回開催し、視覚障害という垣根を越えて美術作品を楽しむ機会を創出した。

#### (ウ) 国立西洋美術館

本館の世界遺産登録後の混雑を想定して、常設展（所蔵作品展）を無料開放する「ファン・デー」は中止し、その他のプログラムについても時間・日程や募集方法などを変更して実施した。これによりプログラム参加者数が平成27年度より減少した。一方、入館者が少なくなる金曜日の夜間開館を利用してボランティアスタッフの自主企画により「金曜ナイトトーク」を開始した。また、国立西洋美術館の所蔵作品を中心に、毎回特定のテーマを設けて美術作品を紹介する「ファン・ウィズ・コレクション」では、世界遺産登録によって初めて国立西洋美術館を訪れる来館者のために、本館の特徴に焦点をあてた小企画展「ル・コルビュジエと無限成長美術館—その理念を知ろう—」を開催し、それに関連したプログラムを実施した。

「美術館でクリスマス」、企画展関連講演会やスライドトークなどは例年同様に多くの参加があった。また、企画展では例年どおり小中学生を対象としたガイドブック「ジュニア・パスポート」を展覧会ごとに作成し、チケットとして無料配付した。

児童を対象とした事業である「どうぶじゅつ」は例年のように好評で、リピーターはもちろん初めて参加する親子も多く見られた。春は「あかるいところ★くらいところ」と題して絵の中の光に焦点をあて、秋は「セイビのたてもの再発見！2016」と題して本館の特徴に焦点をあてたプログラムを、それぞれ実施した。

#### (エ) 国立国際美術館

「森村泰昌：自画像の美術史—『私』と『わたし』が出会うとき」においては、森村泰昌氏本人による連続講座を開催し、館外部での講座を合わせ合計10回開催した。「特別展 始皇帝と大兵馬俑」では、講師を招いての記念講演会や、夏休み特別企画としてキッズ・デーを設け、オリジナルワークシートの配布や親子向けミニレクチャー、「なつやすみびじゅつあー」を行った。「THE PLAY since1967 まだ見ぬ流れの彼方へ」では、資料の重要性和芸術が再び歴史化される状況そのものに目をむけたシンポジウム「芸術の（再）歴史化：作品と資料体のあいだで」を行った。また夜間開館の延長に伴い、夜間にギャラリー・トークを開催した。

また、終日又は2日間にわたり集中してテーマに取り組むワークショップでは、第一線で活躍するデザイナーを講師に招き、高校生以上を対象に、ポスターデザインの解説から簡単な制作を通してポスターのデザインについてあらためて考え直す「ポスターの魅力 — ポスターをつくろう」、現代美術作家と大学教員を講師に招き、小学校の教職員を対象に、図画工作の指導に対する心理的な負担を少しでも軽減する試みとして「先生、もう悩まないでください！ 図工なるべく避けたい体質改善プログラム」を開催した。

児童を対象としたものについては、例年どおり小中学生を対象とした鑑賞ツアー「こどもびじゅつあー」、「なつやすみびじゅつあー」、「びじゅつあーすぺしゃる」を開催し、子どもたちが幼少期より美術作品に親しみ、作品鑑賞を享受できる機会を提供した。

さらに、スクールプログラムで来館した児童生徒が、開催されている展覧会を問わず、鑑賞補助教材として作品鑑賞時に常時使用できる『アクティビティ・ブック』を発行した。このほか、学校団体等による団体鑑賞の受入を行い、オリエンテーション、ギャラリートークなどを実施した。

#### (オ) 国立新美術館

平成29年1月21日に開館10周年を迎えたことを記念し、イベント「国立新美術館 開館10周年記念ウィーク」（1月20日～30日）を開催した。期間中には、建築家エマニュエル・ムホーによるインスタレーション「NACT Colors—国立新美術館の活動紹介」や映像作家石田尚志による映像インスタレーションの展示をはじめ、アーティスト・ワークショップ、狂言公演、ロビーコンサート、シンポジウム、建築ツアー等、多彩なプログラムを実施し、様々なアート表現を紹介した。平成28年度の新規事業としては、外部から講師を招いて行う従来のアーティスト・ワークショップのほか、インターン育成のため、教育普及室スタッフを講師として、インターン企画による山の日ワークショップを開催した。また教育普及室スタッフによる海外では2回目となるワークショップを「ニッポンのマンガ\*アニメ\*ゲーム バンコク展」開催に伴いバンコクにて行った。さらに、金曜日の夜間開館時間中のスペシャルトーク、10周年記念ウィークの建築ツアー等も新たな試みであった。また、美術館ロビーというオープンな場で行うアーティスト・ワークショップも平成27年度に引き続き実施し、参加人数を増やした。平成28年度は車いすの方や知的障害を持った方も飛び入りで参加できるプログラムも行った。

## ② ボランティアや支援団体の育成等による教育普及事業

### ア ボランティアによる教育普及事業

館名		ボランティア登録者数	ボランティア参加者数(延べ人数)	教育普及事業参加者数
東京国立近代美術館	本館	43	612	5,305
	工芸館	33	365	2,632
京都国立近代美術館		33	—	—
国立西洋美術館		40	787	6,003
国立国際美術館		6	3	69
国立新美術館		65	113	6,518
計		220	1,880	20,527

#### 各館の特徴

##### (ア) 東京国立近代美術館

本館では、本館ガイドスタッフ5期生11名の養成研修を終え、順次所蔵品ガイドへ参加してもらった。また、ガイドスタッフ1期・4期生のガイドスキルチェックを行った。館の最終答申にある「対話と多様性」を担うガイドスタッフの役割について、フォローアップ研修で伝え共有した。

工芸館では、8期メンバーの養成研修が終了し、新たに7名が加わった。100年後の工芸のために普及啓発実行委員会の協力要請により、タッチ&トークやささまざまなワークショップを実施するプログラム「出張タッチ&トーク～工芸館がやってきた！」をボランティアの協力のもと、地域の図書館や美術館において開催した。

##### (イ) 京都国立近代美術館

京都市内博物館施設連絡協議会及び京都市教育委員会が主催する「京都市博物館ふれあいボランティア養成講座」の受講・修了者が所属する、京都市博物館ふれあいボランティア「虹の会」から継続してボランティアを受け入れ、来館者へのアンケート調査回収、集計に携わってもらうことで、ボランティアの経験、知識の向上等に協力した。

##### (ウ) 国立西洋美術館

ボランティアスタッフがプログラムの企画・実施を全て行う「ボランティアート」は、予約不要で気軽に立ち寄れることなどから子どもから大人まで年齢を問わず多くの来館者が参加した。また、ボランティアスタッフの自主企画により新たに開始した「金曜ナイトトーク」にも参加者が集まった。研修に関しては、現スタッフへの研修に加えて平成29年度から活動を開始するボランティアスタッフ研修生(40名)に約10か月間の養成研修を行い、国立西洋美術館の研究員による講義やギャラリートークの実践などを行った。また、現ボランティアスタッフ自身による自主研修も行った。

##### (エ) 国立国際美術館

ボランティアスタッフを大学生・短期大学生から広く募った。資料室の整理、教育普及プログラムのサポートなど美術館運営の補助業務に従事することを通じて、美術館活動に接する機会を提供している。

##### (オ) 国立新美術館

学生ボランティアである「サポート・スタッフ」として、65名の大学生・大学院生が登録した。10周年記念ウィークの建築ツアーでは、日本設計の協力による研修を積んだ後、サポート・スタッフにもガイドツアーの話し手を担当してもらった。自身が主体的に美術館についてガイドすることにより、美術館についての理解を深めたとともに、より能動的な姿勢が生まれた。

## イ 支援団体等の育成と相互協力による事業

### (ア) 東京国立近代美術館

#### (本館)

- ・三菱商事株式会社との連携により、障害者のための鑑賞プログラムとして、閉館後「茶碗の中の宇宙 樂家一子相伝の芸術」の障害者特別鑑賞会を実施した（1件1回、参加人数115名）。
- ・大丸松坂屋と連携し、「茶碗の中の宇宙 樂家一子相伝の芸術」のナイトツアーを実施した（1件1回、参加人数73名）。

#### (工芸館)

- ・アセット婦人画報社と連携し、レクチャー「芹沢銈介の造形」を開催した（1件1回、参加人数45人）。
- ・公益財団法人ポーラ伝統文化振興財団と共催し、所蔵作品展「動物集合」においてMOVIE + Touch&Talkを開催した（1件1回、参加人数48人）。
- ・100年後の工芸のために普及啓発実行委員会、小石川図書館、高輪図書館分室、四谷図書館、練馬区立美術館、篠崎こども図書館及び日本工芸会と連携し、「出張タッチ&トーク～工芸館がやってきた！」を実施した（1件15回、参加人数201人）。
- ・100年後の工芸のために普及啓発実行委員会及び日本工芸会と連携し、「工芸制作ワークショップ」を実施した（1件2回、参加人数30人）。

### (イ) 京都国立近代美術館

- ・京都市立芸術大学との共催によるコンサート「京都国立近代美術館ホワイエコンサート」を開催した（1件、2回、参加人数279人）。
- ・OKAZAKI LOOPS 実行委員会との連携によるDJイベント「京都岡崎音楽祭 OKAZAKI LOOPS 2045」を開催した（1件1回、参加人数217人）。
- ・ミュージアム・アクセス・ビューと連携し、視覚障害のある方と対話をしながらアートを体感する鑑賞ツアーを開催した（1件2回、参加者52人）。
- ・NPO 法人日本ラテン文化振興協会と連携し、「キューバの映画ポスター 竹尾ポスターコレクションより」の関連イベントとして、ダンスイベント「サルサ・ナイト@MoMAK」を開催した（1件1回、参加人数364人）。
- ・一般社団法人WORLD ART DAIALOGUEと連携して、市民が文化芸術についての知識を深め、Wikipediaに情報を提供するプロジェクト「Wikipedia ARTS」を開催した（1件、1回、参加人数20人）。
- ・京都市内4館連携協力協議会「京都ミュージアムズ・フォー」の連携事業として、講演会「茶碗の中の宇宙」（講師：松原学芸課長）を開催した（1件1回、参加人数150人）。

### (ウ) 国立西洋美術館

- ・東京文化会館との共催により、「まちなかコンサート 芸術の秋、音楽さんぽ」及び「ナイト・ミニコンサート」を実施した（2件4回、参加人数652人）。
- ・国立西洋美術館を含む上野公園内及び周辺の文化施設を中心メンバーとする上野「文化の杜」新構想実行委員会の開催イベント「TOKYO 数寄フェス」において、下記の事業を実施した。
  - 特別講座「美を語る」（対談及びミニコンサート）（1件1回、参加人数100人）
  - コンサート「ル・コルビュジエに捧げる音楽の贈りもの ～サティ・バッハ・パッヘルベル・クセナキス～」（1件3回、参加人数600人）
- ・トーキョーノーザンライツフェスティバル実行委員会との共催により、「国立西洋美術館×トーキョーノーザンライツフェスティバル 2017 特別企画」として映画『マリー・クロ

- ヤー『愛と芸術に生きて』特別試写会及び「日本・デンマーク外交関係樹立 150 周年記念 スケーエン：デンマークの芸術家村」展講演会を実施した（1 件 1 回，参加人数 96 人）。
- ・平成 29 年 2 月 24 日から始まったプレミアムフライデーに合わせて，文化庁，朝日新聞社，上野の杜ナイトプロジェクト実行委員会との共催で，「フライデー・ナイト・ミュージアム@上野」で以下のイベントを開催した。
  - ―ミニコンサート「FRIDAY NIGHT CONCERT」（1 件 2 回，参加人数 450 人）
  - ―「日本・デンマーク外交関係樹立 150 周年記念 スケーエン：デンマークの芸術家村」ギャラリートーク（1 件 2 回，参加人数 55 人）
  - ―講演会「美術館体験のデザイン」（1 件 1 回，参加人数 120 人）
- ・三菱商事株式会社との連携により，障害者のための鑑賞プログラムとして，閉館後「日伊国交樹立 150 周年記念 カラヴァッジョ展」の障害者特別鑑賞会を実施した（1 件 1 回，参加者 171 人）。

(エ) 国立国際美術館

- ・公益財団法人ダイキン工業現代美術振興財団と協力し，国立国際美術館ミュージアムコンサート「中国楽器の饗宴」を開催した（1 件 1 回，参加人数 218 人）。

(オ) 国立新美術館

- ・企業協賛金を活用して，以下の事業を実施した。
  - ―館主催コンサート等（「ICEP（International Community Engagement Program）カルテットと楽器指導支援プログラム 参加校による演奏」，「日本を代表する国際的ジャズピアニスト 佐藤允彦 ソロ・コンサート～印象派風に～」，「アーリーオータム・ジャズコンサート」，「五嶋みどりと楽器指導支援プログラム参加校，楽器指導支援ボランティア，えびな少年少女合唱団&リトルキャロル（合唱），ジアイ・シー（Piano）による演奏」，「国立新美術館 音楽の楽しみ「弦楽四重奏の魅力」」，「国立新美術館 開館 10 周年記念ウィーク 仲道郁代コンサート」，「国立新美術館 開館 10 周年記念ウィーク 山本東次郎家一門狂言公演」）を開催した（7 件 7 回，参加人数 2,709 人）。
  - ―託児サービスを提供した（34 回）。
  - ―JAC プロジェクトを実施した。
  - ―教育普及事業としてワークショップ，講演会及びシンポジウムを開催，鑑賞ガイドを作成した。
- ・政策研究大学院大学学生向けガイダンスを実施した（1 件 2 回，参加人数 43 人）。
- ・三菱商事株式会社との連携により，障害者のための鑑賞プログラムとして，閉館後「オルセー美術館・オランジュリー美術館所蔵 ルノワール展」の障害者特別鑑賞会を実施した（1 件 1 回，参加者 284 人）。

(カ) その他（各館共通）

東京の美術館・博物館等 79 施設が参加する共通入館券事業「東京・ミュージアムぐるっとパス 2016」及び関西の美術館・博物館等 82 施設が参加する「ミュージアムぐるっとパス・関西 2016」に参加し，所蔵作品展観覧料の無料化又は割引や，企画展観覧料の割引などを実施した。

## (5) 調査研究の実施と成果の反映・発信

### ① 調査研究一覧

各館において、下記のとおり調査研究を実施した。個々の調査研究については別表 6 を参照。

館名		調査研究件数
東京国立近代美術館	本館	21
	工芸館	11
	フィルムセンター	22
京都国立近代美術館		12
国立西洋美術館		15
国立国際美術館		15
国立新美術館		15
計		111

#### 特記事項

##### ア 東京国立近代美術館

- ・第 35 回ポルデノーネ無声映画祭において、岡島尚志（フィルムセンター主幹）が、無声映画の発掘や評価に際立った貢献を果たしたとしてジャン・ミトリ賞を受賞した。

##### イ 国立西洋美術館

- ・陳岡めぐみ（主任研究員）が、芸術若しくは文学における卓抜な創造活動、またはフランスをはじめ世界における芸術と文学の発展に著しく貢献したとして、フランス共和国より芸術文化勲章シュヴァリエ（Chevalier de l'Ordre des Arts et des Lettres）を受勲した。

##### ウ 国立国際美術館

- ・山梨俊夫（館長）が、芸術各分野において、優れた業績を挙げたとして、平成 28 年度（第 67 回）芸術選奨の評論等部門において文部科学大臣賞を受賞した。
- ・植松由佳（主任研究員）が、平成 27 年度に担当した展覧会「ヴォルフガング・ティルマンス Your Body is Yours」の企画と構成が評価され第 11 回西洋美術振興財団賞・学術賞に選ばれた。
- ・「森村泰昌：自画像の美術史―「私」と「わたし」が会うとき」図録が、森村作品を回顧的に振り返る構成や、作品の迫力を余すことなく伝える製本を高く評価され第 58 回全国カタログ展でフジサンケイビジネスアイ賞【図録部門】（部門賞 銀賞）を受賞した。

### ② 調査研究成果の発信

#### ア 館の刊行物による調査研究成果の発信

各館において、下記のとおり展覧会図録，研究紀要，館ニュース等を刊行し，研究成果を発信した。それぞれの項目における研究員の執筆事項については別表 7～9 を参照。

館名	展覧会図録		研究紀要	館ニュース	パンフレット・ガイド等	その他	
	実績	目標					
東京国立近代美術館	本館	5 冊	1	6	1	2	
	工芸館	2 冊			4 冊程度	3	0
	フィルムセンター	1 冊			1 冊程度	5	9
京都国立近代美術館		6 冊	6 冊程度	1	5	5	1
国立西洋美術館		4 冊	4 冊程度	1	4	3	2
国立国際美術館		6 冊	4 冊程度	0	6	2	1
国立新美術館		5 冊	6 冊程度	1	1	3	2
計		29 冊	30 冊程度	4	27	26	8

【注】「パンフレット・ガイド等」には、小企画展の内容や所蔵作品の解説を掲載したパンフレット、子ども向けの鑑賞ガイド等が含まれる。

イ 館外の学術雑誌，学会等における調査研究成果の発信

各館において，下記のとおり学会，学術雑誌等において研究成果を発信した。それぞれの項目における研究員の執筆事項については別表 10 を参照。

館名		学会等発表 件数	論文等発表件数			
			学術書籍，研究 報告書等の発行	学術誌論文掲載 【査読有り】	学術誌論文掲載 【査読無し】	その他
東京国立 近代美術館	本館	32	10	1	16	35
	工芸館	9	0	0	3	21
	フィルムセンター	19	3	0	2	11
京都国立近代美術館		8	1	0	9	16
国立西洋美術館		13	6	4	13	19
国立国際美術館		8	4	0	7	5
国立新美術館		14	4	1	7	17
計		103	28	6	57	124

ウ インターネットによる調査研究成果の発信

(ア) 東京国立近代美術館

- ・『研究紀要』の収録論文をホームページ上で掲載した。
- ・フィルムセンターでは，ウェブページ「NFC デジタル展示室」において，「無声期日本映画のステル写真」シリーズの第 13 回「日活京都篇①1910 年代」，第 14 回「日活京都篇②1920 年代」を公開した。また，BDC プロジェクトの一環として，デジタル化されたコレクションの活用において，デジタル発信にかかる有用性や課題を検証するために，日本の戦前アニメーション映画並びに映画関連資料を「日本アニメーション映画クラシックス」としてウェブ公開した。また，フィルムセンターホームページ内及び新たに開設した BDC ブログページにて，調査研究の情報を発信した。

(イ) 国立西洋美術館

- ・前年度に設置した「国立西洋美術館出版物リポジトリ」において『国立西洋美術館報』初号（1967 年）から 45 号（2011 年）までを遡及入力して公開した。また『紙本作品貸出のためのガイドライン：2015 年デジタル版』を公開し，全国の学芸員への提供に努めた。本ガイドラインは版画素描学芸員国際諮問委員会を通じた海外関係者との交流により国立西洋美術館研究員が翻訳する運びとなったものである。

(ウ) 国立新美術館

- ・ホームページにおいて『平成 27 年度活動報告』，『ダリ展ジュニアガイド』，『てくてくマップ（改訂版）』を新たに公開し，地域連携の一貫として『六本木アートナイト・プログラム一覧』と『ATRo マップ』を公開した。

エ 所蔵作品等に関するセミナー・シンポジウムの開催

館 名		開催回数
東京国立近代美術館	本館	1
	工芸館	2
	フィルムセンター	1
京都国立近代美術館		0
国立西洋美術館		0
国立国際美術館		0
国立新美術館		—
計		4

※詳細については別表 11 を参照。

(6) 快適な観覧環境の提供

館 名		観覧環境に対する満足度調査における「良い」以上の回答率
東京国立近代美術館	本館	87.2%
	工芸館	89.4%
	フィルムセンター	99.4%
京都国立近代美術館		73.4%
国立西洋美術館		73.0%
国立国際美術館		73.9%
国立新美術館		70.3%

① 高齢者、障害者、外国人等を含めた入館者本位の快適な観覧環境の形成

※多言語化に向けた取組件数：53 件（施設ごとにカウント。以下、多言語化に向けた取組には下線を付する。）

〈平成 28 年度の新規実施事項〉

- ・所蔵作品展・企画展における展示解説（章解説パネル・キャプション・作品リスト等）の多言語化（日本語・英語に加え中国語・韓国語に対応）
- ・所蔵作品展・企画展における多言語音声ガイドの導入（日本語・英語・中国語・韓国語に対応）
- ・無料 Wi-Fi の提供開始【東京国立近代美術館（本館），京都国立近代美術館，国立西洋美術館，国立国際美術館】
- ・電話による展覧会情報案内（ハローダイヤル）の多言語化（日本語・英語・中国語・韓国語・ポルトガル語・スペイン語）【東京国立近代美術館，国立西洋美術館，国立新美術館】
- ・多言語対応の案内用デジタルサイネージの設置【東京国立近代美術館（本館），国立西洋美術館，国立新美術館】
- ・館案内表示の多言語化（日本語・英語・中国語・韓国語に対応）【東京国立近代美術館（工芸館），国立西洋美術館】
- ・国立美術館 5 館紹介パンフレットの多言語化（日本語版に加え英語版を作成）【法人本部】
- ・東京国立近代美術館の中長期的な広報活動の方向性について担当横断的な議論・検討を行うブランディング戦略プロジェクトチームにおいて、平成 28 年度には 6 回の会合の場を持ち、最終答申を策定【東京国立近代美術館（本館・工芸館）】
- ・視覚障害者向け音声ガイド付き上映会の実施【東京国立近代美術館（フィルムセンター）】
- ・「ミュージアム 3DAYS フリーパス・関西」の英語版に参加【京都国立近代美術館】

- ・「建築探検マップ」を全面改定版した「世界遺産パンフレット」（日本語・英語・中国語・韓国語）の作成・配布【国立西洋美術館】
- ・常設展ガイドとして利用できる iPhone/iPod Touch・Android 携帯端末専用アプリ「Touch the Museum」の後続サービスとして、グーグル「Arts&Culture」 アプリによる常設展ガイドの無料配信の実施【国立西洋美術館】
- ・中央インフォメーションにおける外国人来館者向けの翻訳サービス「SMILE CALL」を導入【国立新美術館】
- ・講演会、シンポジウム等における手話通訳の導入【国立新美術館】

〈各館共通の継続実施事項〉

- ・多言語による館案内表示
- ・多言語による館内リーフレット、ミュージアムカレンダー等の配布
- ・英語による館内放送の実施（一部を除く）
- ・多目的（身体障害者用）トイレ、エレベータ（エスカレータ）、スロープ（手摺り）の設置
- ・車椅子の貸出、ベビーカー（国立西洋美術館は除く）の貸出
- ・身体障害者用駐車スペース（国立国際美術館は除く）の提供
- ・自動体外式除細動器（AED）の設置
- ・盲導犬、介助犬の同伴による観覧
- ・観覧者の休憩のための椅子を展示室に配置
- ・オストメイト（人工肛門、人工膀胱保有者）対応の設備を設置

〈各館ごとの継続実施事項〉

- ・クレジットカード及び電子マネー（Suica 及び PASMO 等）による観覧券の窓口販売【東京国立近代美術館（本館・工芸館）、国立西洋美術館、国立新美術館】
- ・インフォメーションカウンターに筆談ボードを設置【京都国立近代美術館、国立西洋美術館、国立新美術館】
- ・授乳室の設置【京都国立近代美術館、国立国際美術館、国立新美術館】
- ・東京都が実施する「ウェルカムカード」に参加し、外国人来館者の所蔵作品展観覧料を割引【東京国立近代美術館、国立西洋美術館】
- ・地下鉄の対象の乗車券の提示により割引等を実施するサービス「ちかとく」の英語版に参加【東京国立近代美術館（本館・工芸館）、国立西洋美術館】
- ・館内サインの拡大、所蔵作品展における「重要文化財」のキャプション表示の追加、ホームページ上の重要文化財作品の特設解説ページ設置、所蔵作品展・企画展における小中学生向けこどもセルフガイドの配布【東京国立近代美術館（本館）】
- ・作品名・作家名にふりがなを入れた会場キャプションの設置及び作品リストの配布、夏季所蔵作品展における児童生徒を対象とした「セルフガイド」（日本語・英語）及び一般観覧者向けの「鑑賞カード」の作成・配布【東京国立近代美術館（工芸館）】
- ・特別展示「NFC コレクションでみる 日本映画の歴史」における児童生徒向けの「ジュニア・セルフガイド」の配布【東京国立近代美術館（フィルムセンター）】
- ・美術館ニュース『見る』の配布、共催展における児童生徒向けガイドの配布、多言語対応の案内用デジタルサイネージの設置、免震装置付有機 EL 照明による展示ケースの設置【京都国立近代美術館】
- ・企画展における児童生徒向けの「ジュニア・パスポート」を配布、館広報物（館ニュース『Zephyros』の最新号及びバックナンバー）の配布及びホームページ掲載、企画展示室内における解説パネル文面の拡大印刷版冊子の配置【国立西洋美術館】
- ・安全仕様のキッズルーム（地下 1 階）の設置、同所における幼児向け絵本常設【国立国際美術館】

- ・点字ブロック（正門から正面入口，地下鉄口から西入口（インターホンを設置））及び点字表示（エレベータ内ほか）の設置，補聴器等への磁気誘導無線システムの講堂内への設置（専用受信機 10 台），ロビー等の館内ディスプレイでの展覧会や講演会等の情報表示，託児サービスの実施，文字を大きくし見易くしたフロアガイド「大きな文字の利用案内」の館内配布，無料 Wi-Fi の提供，企画展における児童生徒向け鑑賞ガイドの配付及び子ども向け施設ガイド『てくてくマップ』の配布及びホームページ公開【国立新美術館】

## ② 入場料金，開館時間等の弾力化

〈平成 28 年度の新規実施事項〉

- ・所蔵作品展における夜間開館を拡充（毎週金曜日に加え，毎週土曜日も 20 時まで夜間開館を実施）【東京国立近代美術館（本館），京都国立近代美術館，国立西洋美術館，国立国際美術館】
- ・所蔵作品展における夜間開館時間の観覧料を一部無料化【京都国立近代美術館，国立西洋美術館，国立国際美術館】
- ・自主企画展等における夜間開館を拡充（毎週金曜日に加え，毎週土曜日も 20 時まで夜間開館を実施）【国立国際美術館，国立新美術館】
- ・上映会「UCLA 映画テレビアーカイブ 復元映画コレクション」において，学生証の提示により各回先着 20 名まで 30 歳以下の高校生，大学生，専門学校生及び社会人学生の観覧料を無料化【東京国立近代美術館（フィルムセンター）】
- ・世界遺産登録の影響による混雑緩和を図るため，秋の企画展閉会日以降の開館日から春の企画展開催日までの開館日（金・土曜日を除く。）における開館時間を 17 時から 30 分延長し，通年で 17 時 30 分までの開館に変更【国立西洋美術館】
- ・京成電鉄株式会社の都内フリー乗車券「下町日和きっぷ」による観覧料割引を実施【国立西洋美術館】

〈各館共通の継続実施事項〉

- ・文化の日における所蔵作品展の観覧料を無料化（11 月 3 日）
- ・所蔵作品展，自主企画展及びフィルムセンターの展覧会における高校生以下及び 18 歳未満の観覧料を無料化

〈各館ごとの継続実施事項〉

ア 東京国立近代美術館

- ・国際博物館の日に関連し，所蔵作品展の観覧料を無料化（5 月 15 日）【本館】
- ・国際博物館の日に関連し，自主企画展の観覧料を無料化（5 月 1 日）【工芸館】
- ・国際博物館の日における展覧会の観覧料を無料化（5 月 18 日）【フィルムセンター】
- ・毎月第一日曜日における所蔵作品展の観覧料を無料化【本館・工芸館】
- ・東京都が実施する「家族ふれあいの日」に参加し，毎週土曜，日曜に優待券を提示した高校生以下の子どもを連れた家族に所蔵作品展及びフィルムセンターの展覧会の観覧料割引を実施
- ・地下鉄の対象乗車券提示で割引等を実施するサービス「ちかとく」による所蔵作品展の観覧料割引を実施【本館・工芸館】
- ・「東京マラソン 2017」イベントガイド持参者に対する所蔵作品展・自主企画展の観覧料（個人一般）割引を実施【本館・工芸館】
- ・JAF 会員証提示による観覧料（個人一般）割引を実施【本館・工芸館】
- ・企画展（「安田靉彦展」，「声ノマ 全身詩人，吉増剛造展」，「トーマス・ルフ展」，「endless 山田正亮の絵画」，「茶碗の中の宇宙 樂家一子相伝の芸術」）及び上映会（「第 38 回 PFF」）において，各種観覧料割引を実施【本館・フィルムセンター】

- ・年始は1月2日から開館し、所蔵作品展の観覧料を無料化し、図録やオリジナルグッズをプレゼント【本館・工芸館】
- ・以下のとおり臨時開館及び開館時間延長を実施【本館・工芸館】
  - ー桜花期に臨時開館を実施（4月4日、3月27日）
  - ーゴールデンウィークに臨時開館を実施（5月2日）
  - ー一年始に臨時開館を実施（1月2日）
- ・上映会において原則平日19時からの夜間上映を実施【フィルムセンター】

#### イ 京都国立近代美術館

- ・国際博物館の日における展覧会の観覧料を無料化（5月18日）
- ・企画展を開催しない土曜日における所蔵作品展の観覧料を無料化
- ・「関西文化の日」（11月19日、20日）における所蔵作品展の観覧料を無料化
- ・京都国立博物館、京都市美術館、京都文化博物館と組織する「京都ミュージアムズ・フォー」において、各館の友の会と相互割引を実施
- ・奈良国立博物館、国立民族学博物館の各友の会と相互割引を実施
- ・近隣の京都市美術館、細見美術館と連携し、相互割引を実施
- ・JAF 会員証提示による所蔵作品展の観覧料（個人一般）割引を実施
- ・朝日新聞グループ 朝日友の会、京都新聞 トマト倶楽部、神戸新聞 ミントクラブ、神姫バス ニコパクラブ、山陽新聞 さん太クラブ、中国新聞 ちゅーピーくらぶ、阪急阪神カード及び京阪カードの情報誌・ホームページに展覧会情報を掲載するとともに観覧料割引を実施
- ・上記割引のほか、企画展（「ポール・スミス展 HELLO, MY NAME IS PAUL SMITH」、  
「メアリー・カサット展」、  
「茶碗の中の宇宙 樂家一子相伝の芸術」）において、各種観覧料割引を実施
- ・以下のとおり臨時開館及び開館時間延長を実施
  - ー一年始に臨時開館を実施（1月3日、4日）

#### ウ 国立西洋美術館

- ・国際博物館の日における所蔵作品展の観覧料を無料化（5月18日）
- ・毎月第二・第四土曜日における所蔵作品展の観覧料を無料化
- ・東京都が実施する「家族ふれあいの日」に参加し、毎月第三土曜、日曜に優待券の提示による所蔵作品展の観覧料を無料化
- ・地下鉄の対象乗車券提示で割引等を実施するサービス「ちかとく」による所蔵作品展の観覧料割引を実施
- ・上野公園での「創エネ・あかりパーク 2016」の開催に伴い、本館のライトアップ及び所蔵作品展の観覧料無料化を実施（11月2日、3日）
- ・上野地区内の文化施設相互の連携を深め、商業施設を含めた同地区内の回遊性を高めるため、平成27年度に引き続き「UENO WELCOME PASSPORT—上野地区文化施設共通入場券—」を発行（平成28年1月2日～5月31日。総販売部数4,565冊（うち国立西洋美術館販売部数445冊））。更に、平成28年7月の世界遺産登録を記念した「UENO WELCOME PASSPORT 国立西洋美術館世界遺産登録記念—上野地区文化施設共通入場券—」を発行（平成28年8月15日～平成29年1月31日。総販売部数8,464冊（うち国立西洋美術館販売部数565冊））。いずれも所蔵作品展観覧に加え、企画展割引も適用
- ・上記による割引のほか、企画展（「日伊国交樹立150周年記念 カラヴァッジョ展」、  
「クラナハ展—500年後の誘惑」、  
「シャセリオー展—19世紀フランス・ロマン主義の異才」）において、各種観覧料割引を実施
- ・以下のとおり臨時開館及び開館時間延長を実施
  - ーゴールデンウィークに開館時間を延長（4月30日（20時まで）、5月1日（18時まで））及び臨時開館を実施（5月2日）

- 会場内の混雑緩和を図るため、開館時間を 20 時まで延長（6 月 1 日，2 日，4 日，7～9 日，11 日）
- 第 40 回世界遺産委員会において、国立西洋美術館の世界文化遺産登録の審議が行われる予定だったため開館時間を 20 時まで延長（7 月 16 日～18 日）。また、7 月 17 日に国立西洋美術館を含む「ル・コルビュジエの建築作品—近代建築運動への顕著な貢献—」が、世界遺産に登録され来館者が増えたことから、会場内の混雑緩和を図るため、8 月の金曜日の開館時間を 20 時 30 分まで延長（8 月 5 日，12 日，19 日，26 日）
- 「創エネ・あかりパーク 2016」の開催に伴い、所蔵作品展の開館時間を 20 時まで延長（11 月 2 日，3 日，5 日）
- 会場内の混雑緩和を図るため、臨時開館を実施（1 月 10 日）
- 桜花期に臨時開館を実施（3 月 27 日）

#### エ 国立国際美術館

- ・国際博物館の日に関連し、所蔵作品展の観覧料を無料化（5 月 14 日）
- ・毎月第一土曜日に、所蔵作品展の無料観覧を実施
- ・「関西文化の日」（11 月 19 日，20 日）における所蔵作品展の観覧料を無料化
- ・朝日新聞グループ 朝日友の会，阪急阪神カード，京阪カード及び大阪市交通局の情報誌・ホームページに展覧会情報を掲載するとともに観覧料割引を実施
- ・近隣ホテルと連携し、ホテル利用者のうち、希望者に入場割引券を配布し、展覧会広報を行うとともに観覧料割引を実施
- ・国立国際美術館開催の展覧会の半券持参等により、提携ホテルで特典が受けられるよう近隣ホテルとの連携を強化
- ・上記割引のほか、企画展（「特別展 始皇帝と大兵馬俑」，「日伊国交樹立 150 周年特別展 アカデミア美術館所蔵 ヴェネツィア・ルネサンスの巨匠たち」，「クラーナハー500 年後の誘惑」，「おとろえぬ情熱，走る筆。ピエール・アレシンスキー展」）において、各種観覧料割引を実施
- ・以下のとおり臨時開館及び開館時間延長を実施
  - ゴールドデンウィークに臨時開館を実施（5 月 2 日）
  - 夏休み期間中に臨時開館を実施（7 月 19 日）

#### オ 国立新美術館

- ・国際博物館の日（5 月 18 日）における自主企画展の観覧料を無料化
- ・共催展において、高校生無料観覧日を設定（9 月 17 日～19 日，3 月 18 日～20 日）
- ・共催展において、政府による美術品補償制度の還元策として、高校生の無料観覧を実施（4 月 30 日～6 月 26 日までの土曜日・日曜日，計 20 日間）
- ・開館 10 周年を記念し、開催中の企画展の観覧料の無料化を実施（1 月 21 日）
- ・六本木アート・トライアングル参加館（森美術館，サントリー美術館）との観覧料の相互割引及び共通マップの作成・配布
- ・地下鉄の対象乗車券提示で割引等を実施するサービス「ちかとく」による企画展の観覧料割引を実施
- ・公募団体展と企画展の観覧料の相互割引を実施（特に自主企画展において、65 歳以上の割引料金として大学生団体料金を適用し、高齢者の観覧料を低廉化）
- ・隣接する政策研究大学院大学との連携を深めるため、自主企画展において同大学の学生の観覧料の無料化若しくは学生証の提示による観覧料の弾力化を実施
- ・上記割引のほか、企画展（「オルセー美術館・オランジュリー美術館所蔵 ルノワール展」，「日伊国交樹立 150 周年特別展 アカデミア美術館所蔵 ヴェネツィア・ルネサンスの巨匠たち」，「ダリ展」，「国立新美術館開館 10 周年 草間彌生 わが永遠の魂」 「国立新美術館開館 10 周年 チェコ文化年事業 ミュシャ展」）において、各種観覧料割引を実施

- ・以下のとおり臨時開館及び開館時間延長を実施
  - ―会場内の混雑緩和を図るため、臨時開館を実施（5月6日、8月16日）
  - ―会場内の混雑緩和を図るため、開館時間を20時まで延長（8月6日、13日、20日、11月19日、26日、12月3日、10日）
  - ―「六本木アートナイト」（10月21日～23日）の開催に伴い、開館時間を22時まで延長（10月21日、22日）
  - ―中学生以下の子どもとその保護者（高校生以上）を対象に臨時開館を実施（3月28日）

### ③ キャンパスメンバーズ制度の実施

国立美術館全体の事業として平成18年12月から実施している、大学、短期大学、高等専門学校及び専修学校等を対象とした会員制度「国立美術館キャンパスメンバーズ」については、会員が求める情報がより確認しやすくなるよう平成29年3月に特設サイト（パソコン版、モバイル版、スマートフォン版）のリニューアルを行った。また、制度の周知のために会員校において学生に配布できるようチラシを大幅に増刷するなど、会員校の利便性を高めるための情報発信を強化し、制度の利用促進に努めた。その結果、平成28年度の利用者数は法人全体で101,674人となり、平成27年度（77,532人）に比べ大幅に増加した。

### ④ ミュージアムショップ、レストラン等の充実

ミュージアムショップについては、各館所蔵作品の図版を使用したポストカードや図柄を活用したオリジナルグッズの開発に努め、ホームページにおいて展覧会図録やグッズの情報を紹介するなどの広報宣伝を行った。レストランについては、企画展にちなんだ特別メニュー等を提供した。平成28年度の各館の特徴的な取組は以下のとおりである。

#### ア 東京国立近代美術館

- ・本館ミュージアムショップにおいて、「美術館の春まつり」期間限定で、地元千代田区との連携により、千鳥が淵の桜で染色したスカーフやハンカチ、手袋、コースターなどを販売した。この売上の一部は桜の保全活動「さくら基金」に活用されることになっている。
- ・レストランにおいて、「美術館の春まつり」など館内イベントに合わせてテラス営業を開始した。手軽なメニューを安価に提供し利用者から好評であった。
- ・工芸館ミュージアムショップにおいて、所蔵作品展「近代工芸と茶の湯Ⅱ」開催中、関連グッズ（茶箱セット、建水等）を販売した。また、展示作品（「茶室」）の模型（内田繁デザイン研究所監修）を販売した。

#### イ 京都国立近代美術館

- ・ミュージアムショップにおいて、所蔵作家「上野リチ」の作品を用い、オリジナル筆箋やクリアファイルを開発、販売した。また、展覧会ごとに関連書籍及び展覧会にちなんだ商品を提供したほか、京都在住作家コーナーを拡充した。
- ・レストランでは、各企画展に関連したオリジナルのデザートやカクテル、お抹茶セットを販売した。また、周辺ライトアップイベントへの協力やワークショップ（テラリウム作り）を実施した。「キューバの映画ポスター 竹尾ポスターコレクションより」関連イベントの「サルサ・ナイト@MoMAK」開催時には、ラテンをイメージしたカクテルとおつまみを提供し、売上の全額となる135,000円を平成28年熊本地震災害義援金として日本赤十字社に送金した。

#### ウ 国立西洋美術館

- ・ミュージアムショップにおいて、以下の取組を実施した。
  - ―世界遺産登録を記念して、ル・コルビュジエによるスケッチや国立西洋美術館の外観をモチーフにしたトートバック、お菓子（ゴーフル・おこし・チョコクランチ・フィナンシェ）、

ハンドタオルや手ぬぐい、マグカップなどの日用品、消しゴムやノートなどの文具等、来館者のニーズも踏まえた新商品の開発・販売を行った。

- 世界遺産登録を記念して、1959年の創建時の本館を特集した小型のモノクロ写真集「国立西洋美術館 1959—写真で振り返る創建時の本館」（日本語版・英語版）を販売した。
- 台東区内の郵便局と協力してオリジナルフレーム切手「世界遺産登録記念 国立西洋美術館」を作成し、ミュージアムショップでも販売した。
- 10月29日～30日に開催した「国立西洋美術館 世界遺産登録記念 フェスティバル in 台東」（会場：上野恩賜公園竹の台広場）に、ミュージアムショップが出店したほか、臨時販売所でオリジナルフレーム切手を販売した。
- 世界遺産登録記念の取組の一環として、館内のミュージアムショップだけでなく、近隣商業施設と連携し、タイアップ企画を実施した。本館外観をモチーフとしたオリジナルのロゴを共通イメージとして、上野駅構内や商業施設に掲げる懸垂幕やフラッグ、期間限定商品や掛紙のデザインへと展開した。また、登録記念ピンバッジを作製・販売し、その売り上げの一部は国立西洋美術館へ寄附を受けた。

#### エ 国立国際美術館

- ・レストランにおいて、各企画展の開催に合わせて特別メニューを提供した。さらに観覧券提示による割引も実施した。

#### オ 国立新美術館

- ・ミュージアムショップにおいて、「香」、「模型」など国立新美術館をモチーフとしたグッズの開発、販売した。また、10周年を記念して1階ショップレジ什器を装飾した。

## 2 我が国の近・現代美術及び海外の美術を体系的・通史的に提示し得るナショナルコレクションの形成・継承

### (1) 作品の収集

館名		購入点数	購入金額(円)	寄贈点数	年度末所蔵作品数	年度末寄託品数
東京国立近代美術館	本館	108	490,201,200	100	13,154	231
	工芸館	13	66,728,880	37	3,732	90
京都国立近代美術館		153	1,237,639,200	54	12,325	847
国立西洋美術館		13	663,129,942	1	5,772	319
国立国際美術館		242	503,692,657	43	7,851	102
計		529	2,961,391,879	235	42,834	1,589

館名	平成28年度の収集方針
東京国立近代美術館	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1970年代以降の日本と海外の作品の収集</li> <li>・日本の美術に多大な影響を与えた海外作家の作品の収集</li> <li>・1900-1940年代の日本画作品の収集</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本工芸の近代化を示す作品の補充</li> <li>・戦後から現代にいたる伝統工芸や造形的な表現、クラフト等の重要作品の収集</li> <li>・近・現代の欧米の工芸及びデザイン作品の収集</li> </ul>
京都国立近代美術館	<ul style="list-style-type: none"> <li>・美術・工芸作品について、近・現代日本美術史の骨格を形成する代表作及び作家の各時期において重要な位置を占める記念的作品、我が国の美術史に組み込まれていくことになる現代美術の秀作の積極的収集、優れた写真作品の収集、前衛的傾向を示す海外の美術作品の収集</li> <li>・京都を中心とする関西ないし西日本の地域性に立脚した所蔵作品の充実</li> </ul>
国立西洋美術館	<ul style="list-style-type: none"> <li>・15～20世紀ヨーロッパ絵画の収集</li> <li>・ドイツ・フランドル・イタリア・フランスを中心としたヨーロッパ版画のコレクションの充実</li> <li>・国内に残る旧松方コレクション作品の情報収集</li> </ul>
国立国際美術館	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1945年以降の日本の現代美術作品の系統的収集の継続</li> <li>・国際的に注目される国内外の同時代の美術作品の収集の継続</li> </ul>

#### 特記事項

##### ア 東京国立近代美術館

###### (本館)

###### 〈購入〉

特別購入予算により、理知と抒情を兼ね備えた作風で日本にも大きな影響を与えたスイスの画家パウル・クレーの油彩1点、昭和戦前期に独自の存在感をもった作品を描いた鬚光の油彩1点を収蔵した。また、通常予算により1930年代に日本とアメリカを往復しながら都会生活の哀歎を描いた野田英夫の代表作1点や、1960年代のいわゆる反芸術的傾向を代表する作家である赤瀬川原平の作品3点、コンセプチュアル・アートの第一人者として国際的に活躍した河原温の作品54点、1900年前後のアメリカで刊行されたカメラ雑誌『カメラ・ノーツ』に収載された写真作品44点などを収蔵した。

###### 〈受贈〉

戦前から戦後にかけて清新な作風で注目された山本丘人の日本画9点及び抒情的な作風で知られる清宮質文のガラス絵等6点、京都画壇の重鎮竹内栖鳳が皇居を描いた日本画作品1点をそれぞれ個人所蔵家より受贈した。また、戦前期にプロレタリア芸術運動に参加し、社会的テーマを扱った版画を制作した小野忠重の木版画15点、戦後に前衛的な手法で社会問題を描いた桂川寛の作品20点、粘り強い写実で知られる麻生三郎の油彩画1点を、それぞれご遺族から受贈した。

(工芸館)

〈購入〉

特別購入予算により、明治時代の漆工界を代表する池田泰真の《網代鶴蒔絵衣桁掛屏風》(1868-1903年頃)を収蔵した。通常予算では、重要無形文化財保持者である藤本能道の早期の色絵磁器作品や黒田辰秋の髷漆茶器、陶芸界で活躍する樂吉左衛門と市野雅彦、鍍金の畠山耕治の現代造形作品を収蔵した。デザインの分野では、近代デザイン史において最も重要なデザイナーの一人であるマルセル・ブロイヤーの《ティートローリー》(1932年)、《サイド・チェア B6》(1928年)ほかの貴重な美術作品及び書籍・印刷資料を収蔵した。

〈受贈〉

明治時代から昭和初期頃にかけての金工界を代表する大島如雲の《鍍銅大膽瓶》(1908年)を受贈した。また、現代の漆芸を代表する大場松魚や田口善国、室瀬和美らの茶器、藤沼昇の竹工芸による大作花籃等、重要無形文化財保持者らの伝統工芸作品を受贈した。現代工芸の分野では、草間喆雄のファイバーワーク《The Flow》(2013年)や漆芸の栗本夏樹と笹井史恵のオブジェ作品を収蔵した。デザインでは、気鋭のプロダクト・デザイナーの一人である城谷耕生の《Carrara フリースタンド》(2008年)ほかの作品を受贈した。

イ 京都国立近代美術館

〈購入〉

特別購入予算により、並河靖之《藤図花瓶》(明治期)を含む、主に明治時代に制作された超絶技巧の工芸 106 点を購入した。七宝をはじめ、安藤禄山の象牙彫刻、正阿弥勝義の金工作品、12代西村總左衛門や飯田新七らによる刺繍絵画など、一度海外流失してしまった日本の優品を収蔵できたことは、京都国立近代美術館のコレクションの充実とともに、国立の美術館としての役割を果たすという点からも意義のある購入であった。

〈受贈〉

京都画壇で活躍し、京都美術協会の設立においても重要な役割を果たした久保田米僊の日本画計 12 点を受贈した。また、京都画壇の重鎮であり日展でも活躍した山口華楊の膨大なスケッチをご遺族から受贈した。これらは、所蔵作品展や企画展における活用が期待でき、かつ、回顧展開催の上でも必要不可欠なものである。

ウ 国立西洋美術館

〈購入〉

特別購入予算により、印象派とともに活動したフランスの画家エドガー・ドガの油彩画《舞台袖の3人の踊り子》(1880-85年頃)を購入した。ドガの作品はパステル画を2点所蔵しているが、パステル画は保存上の理由により展示機会が限られるため油彩画の収蔵が課題となっていた。今回の購入により、松方コレクションを中核とするフランス近代美術のコレクションが一層充実した。

〈受贈〉

個人収集家の橋本貫志氏より、18世紀フランスで製作された指輪《星が浦》(18世紀)の寄贈を受けた。平成24年度にも橋本氏の宝飾品コレクション866点の寄贈を受けたが、《星が浦》は亡き夫人の思い出に関わる作品として唯一橋本氏が手元にとどめていたものである。今回の寄贈によって、橋本氏の宝飾品コレクション全点が国立西洋美術館に収蔵されたことになる。

エ 国立国際美術館

〈購入〉

特別購入予算により、フェリックス・ゴンザレス＝トレス《無題(ラスト・ライト)》(1993年)及びヴォルフガング・ティルマンズ《真実研究所(大阪)》(2015年)等 17 作品で構成される「大阪インスタレーション 1987・2015」を購入した。いずれも 1990 年代以降の美術

に多大な影響を与えた作家であり、国内での所蔵例も限られているため、今回の作品収集は大きな成果と言える。また、映像やパフォーマンスといった新しい表現方法による優れた作品を購入することで、多様化する現代美術にいち早く対応し、コレクションの幅を一層広げることができた。

〈受贈〉

古橋悌二によるビデオ・インスタレーション作品《LOVERS》（1994年）を受贈した。本作は、1995年に35歳で逝去した古橋の遺作であり、今なお国内外の美術に影響を与え続ける代表作である。そのほか、国内の個人コレクターより作品14を受贈した。作品の特徴としては、畠山直哉《アトモス #03407》（2003年）をはじめ、村瀬恭子、森千裕、竹川宣彰といった過去に国立国際美術館で開催された展覧会の出品作家によるものが含まれる。また、和紙による立体造形で知られる榎尾正次の彫刻5点を、作家ご本人より受贈した。これらの受贈により、特に国内の戦後美術に関してコレクションの欠落を補うことができた。

## （2）所蔵作品の保管・管理

### ① 収蔵庫等の狭隘・老朽化への対応

#### ア 東京国立近代美術館

（本館）

収納率：約140%

従来どおり、館外の倉庫2ヶ所に作品の一部を預けること、年間約200点の作品貸与と年間約800点の所蔵作品展示により作品を庫外に出すことで最低限やりくりしているが、これをもってしても新規収蔵作品の保管場所を確保することができなくなっている。特に大型作品の収蔵がきわめて困難となっており、作品の配置の見直しなど工夫を続けているが、抜本的な対策なしには解決は難しい状況となっている。

（工芸館）

収納率：約180%

平成28年度に民間倉庫の利用を開始し、各収蔵室の床面を埋めていた大型作品の多くと、棚に収納していた作品のうち展示頻度が低いものを移送した。これにより、収納率は従来の約200%から約180%に低減した。

#### イ 京都国立近代美術館

収納率：約190%

従来収蔵庫で収蔵できない分については民間業者の倉庫を借りて一時的に保管しているが、平成28年度より更に2箇所外部倉庫を借りたため、収納率は従来の約200%から約190%に低減した。

#### ウ 国立西洋美術館

収納率：約80%

学芸課全員による収蔵庫内の一斉整理整頓・清掃において、不用品の処分等を行うことにより、使用可能なスペースを新たに確保し、収納効率を上げた。保存修復室職員が保存環境の見回りを行い清掃や整理整頓を適宜実施しているほか、不規則に置かれた彫刻作品の整理整頓を行うことで、使用可能スペースを広げ、収納効率を上げた。また、一部の彫刻作品の梱包材料や梱包方法の改良を行い、適切な保管環境を保つよう心掛けた。

#### エ 国立国際美術館

収納率：約100%

限られた空間において作品を収納するため、作品を重ねる、立てる等の状態で保管することができる収納箱を作成した。配置の見直しを定期的に行ない、空間を最大限活用できるよう努

めた。また、過密な収納状態による作品への負担を極力軽減するため、劣化を抑制する梱包材を活用して安全に作品を保管できるよう工夫を行っている。

## ② 保存環境の整備等と防災対策の推進・充実

東京国立近代美術館本館では、平成28年10月20日に地震発生を想定した避難訓練を実施した。工芸館では、平成29年3月16日に火災発生を想定した避難訓練を実施した。フィルムセンターでは、平成28年8月9日に地下3階収蔵庫での作業者等を対象に地下3階に設置されている消火設備の操作訓練及び避難訓練を実施し、平成29年1月17日に火災発生を想定した自衛消防避難誘導訓練を実施した。フィルムセンター相模原分館では、平成28年5月31日に火災発生を想定した消火設備の操作訓練及び避難訓練を実施し、平成28年11月29日に火災発生を想定した通報訓練及び避難訓練を実施した。

京都国立近代美術館では、平成29年2月6日に消防避難訓練を実施した。

国立西洋美術館では、平成28年11月7日に火災発生を想定した消防訓練を上野消防署と合同で実施し、平成29年3月30日に地震を想定した防災訓練を実施した。

国立国際美術館では、平成28年12月26日にミュージアムショップやレストランの職員、看視スタッフも交え、館内での火災を想定した火災訓練を実施したほか、平成28年度施設整備費補助金によりGR型受信盤など自動火災報知設備を更新した。

国立新美術館では、平成28年11月22日に地震及び火災発生を想定した避難訓練を実施し、訓練後に消火器及びAEDの使用体験を実施したほか、平成29年2月14日に地震及び火災発生を想定した避難訓練を実施し、訓練後に屋内消火栓の使用体験を実施した。

## (3) 所蔵作品の修理・修復

館名		修理・修復点数
東京国立近代美術館	本館	27点（絵画19点、彫刻1点、資料・その他7点）
	工芸館	17点（工芸17点）
京都国立近代美術館		7点（絵画7点）
国立西洋美術館		212点（絵画19点、素描3点、版画156点、彫刻13点、工芸21点）
国立国際美術館		380点（絵画7点、水彩1点、彫刻3点、写真2点、資料・その他367点）

### 特記事項

#### ア 東京国立近代美術館

##### (本館)

特別修復予算により、奥村土牛《胡瓜畑》（1927年）、《鴨》（1936年）、中村大三郎《三井寺》（1939年）、吉岡堅二《椅子による女》（1931年）、中村正義《源平海戦絵巻》全5図（1964年）の修復を行った。《胡瓜畑》は画面に発生したカビの除去と、シミの処置、額を含めた全体の洗浄を行った。《鴨》はシミの除去と剥落止めを行い、額装から発表当初の形式である軸装へと改めた。《三井寺》は本紙の裂けの進行を防ぐため解体修理を行い、あわせてゆがみの生じていた額を新調した。《椅子による女》は絵具層の亀裂と剥落を処置するとともに、自館でも他館でもガラスケースの外に展示されることが多いことを踏まえ、露出額を改め、低反射アクリルをはめた額を新調した。《源平海戦絵巻》は、脆弱な絵具層の接着を中心に処置した。いずれも所蔵作品展で比較的活用頻度が高く、貸出依頼もある作品である。どの作品も鑑賞性が著しく改善された上、今後より安全な状態での展示公開が可能となった。

##### (工芸館)

特別修復予算により、最も活用頻度の高い森口華弘の友禅作品3点と山田貢の友禅作品1点のカビや変色、洗い張り、裏地の交換等の修復を実施した。また、漆工作品では、館内外での活用が顕著ながら銀蒔絵の焼けの激しかった六角紫水《金胎蒔絵唐花文鉢》（1935年頃）及び傷や欠損が目立った磯矢阿伎良《花文棚》（1930年）、更に平成26年度から継続して修復を実施している鈴木長吉《十二の鷹》（1893年）の、3羽ずつの漆塗りの架（脚部一式と止ま

り木4本のうちの1本)の現状保存修復を行った。金工作品では、多年の展示等活用によって錆の進行状況が懸念されていた長野埜志の作品7点と高橋敬典、畠春斎各1点の茶の湯釜の保存修復を実施した。

#### イ 京都国立近代美術館

特別修復予算により、昨年度特別購入予算で購入したものの状態が悪かった福田平八郎《緋鯉》(1930年)と横山大観《飛泉》(1929年)を修理、表具し、よりよく鑑賞できる状態にした。後者は、平成30年度に予定している「横山大観展(仮称)」の目玉作品となると考えている。また、状態の悪化によりしばらく展示ができなかった粥川伸二《西婦倭装図》(1919年頃)、額装に問題がありやはり展示ができなかった土田麦僊《西洋少女像》(1923年頃)、最近貸出が続いて状態が悪化していた小川千甕《田舎楽》(1919年頃)及び菊池契月《少女》(1920年)、購入時から状態が悪かったヨシダミノル《The Blue Tulip》(1964年頃)の修理、表装のし直しをした。いずれも貸出依頼の多い作品であり、安全に貸出をすることができるようになった。

#### ウ 国立西洋美術館

絵画作品については、特別修復予算により、ポール・ゴーガン《ブルターニュ風景》(1888年)に作品の構造自体を補修・強化する修復作業を施した。これにより作品寿命が延びるとともに、作品活用の方が広がる可能性を与えた。彫刻作品は、貸出予定作品や既存作品のメンテナンスとして、引き続き洗浄・修復を行う一方、教育普及事業の一環として実施された盲学校生徒対象の彫刻触察鑑賞の事前準備・事後メンテナンスとして修復も行った。版画素描作品では、継続的に既存・新収蔵作品の保存修復作業を行うと同時に、平成27年度に寄贈をうけた彩飾写本の現状調査、一時保管作業を行い、今後の保存修復作業計画立案の作業を、特別修復予算を利用して行った。工芸作品は、指輪コレクションや新収蔵作品の保存方法をより安全なものに改善しながら、状態調査や今後の保存修復作業の必要性を図り、必要なものには保存修復作業を施した。

#### エ 国立国際美術館

特別修復予算により、アンゼルス・キーファー《星空》(1995年)や今井俊満《混沌》(1957年)等、巨大な絵画作品の修復を行った。大型作品に関する作業は時間と労力を要することから、実行できたことは大きな成果であった。

### (4) 所蔵作品の貸与

館名		貸出		特別観覧	
		件数	点数	件数	点数
東京国立近代美術館	本館	63	226	154	376
	工芸館	34	291	29	73
京都国立近代美術館		49	326	48	110
国立西洋美術館		15	63	77	151
国立国際美術館		25	106	23	63
計		186	1,012	331	773

#### 特記事項

##### ア 東京国立近代美術館 (本館)

「東山魁夷 自然と人、そして町」(九州国立博物館ほか)に14点を、「生誕110年 吉岡堅二展」(田辺市立美術館)に8点を、「生誕130年記念 藤田嗣治展—東と西を結ぶ絵画—」(名古屋市美術館ほか)に8点を、「拝啓 ルノワール先生 — 梅原龍三郎に息づく師の教え」

(三菱一号館美術館ほか)に9点を、「生誕140年 吉田博展」(千葉市美術館ほか)に9点を貸与するなど、いずれも個展において各作家を回顧する際に欠かせない作品を貸出し、その顕彰に寄与した。海外での展覧会へも、「ポロック展」(スイス、バーゼル美術館)に1点を、「芸術家と帝国」(ナショナル・ギャラリー・シンガポール)に1点を、「あの時みんな熱かった!アンフォルメルと日本の美術」(ベルギー、パレ・デ・ボザール)に7点を、「田中功起展」(サンフランシスコ・アジア美術館)に1点を貸与するなどした。

#### (工芸館)

文化庁主催「日本のわざと美」展—重要無形文化財とそれを支える人々—(島根県立古代出雲歴史博物館)に40点を貸与した。また、渋谷区立松濤美術館ほか4館を巡回した「最初の人間国宝 石黒宗麿のすべて」をはじめ、広島県立美術館、茨城県陶芸美術館、石川県輪島漆芸美術館、石川県立美術館等へも主たる出品者として作品貸与を行った。グラフィック及び工業デザインでは、金津創作の森アートコアミュージアム-1で開催された「ジャパン・モダンの奔流展:戦後日本デザイン・復興から頂点へ」のほか、愛知県陶磁美術館や平塚市美術館等へ作品貸与を行った。海外ではパリ日本文化会館(フランス・パリ)が主催開催した「森口邦彦—伝統と革新」に4点を貸与した。

#### イ 京都国立近代美術館

「夢二と京都の日本画」(静岡市美術館)に竹下夢二《河岸の落日》(大正初期)等計12点を、「日本におけるキュビズム—ピカソ・インパクト」(鳥取県立博物館ほか)に黒田重太郎《マドレーヌ・ルパンチ》(1922年)等計12点を、「彫金家清水南山—広島が生んだ近代金工の巨匠」(広島県立美術館)に清水南山《獅子文小箱》(1928年)等計7点を貸与した。

#### ウ 国立西洋美術館

ファール美術館(フランス・モンパリエ)、オルセー美術館(フランス・パリ)、ワシントン・ナショナル・ギャラリー(アメリカ・ワシントンD.C.)を巡回した展覧会「フレデリック・バジール」にモネ《並木道(サン＝シメオン農場の道)》(1864年)を貸与した。学術的意義が高く、開催の機会が稀な画家を取り上げた展覧会に出品した意義は大きい。また国内でも、「松方コレクション展—松方幸次郎 夢の軌跡—」(神戸市博物館)に対しモネ《ヴェトゥイユ》(1902年)やムンク《雪の中の労働者たち》(1910年)、ブラングイン《共楽美術館構想俯瞰図、東京》(制作年不詳)等計23点を、「拝啓 ルノワール先生 — 梅原龍三郎に息づく師の教え」(三菱一号館美術館ほか)に対しルノワール《横たわる浴女》(1906年)やドガ《背中を拭く女》(1888-92年頃)等計11点を貸与するなど、意欲的な展覧会に対し展覧会の核となるような作品を多数出品し、展覧会の実現に協力した。

#### エ 国立国際美術館

個展では、「小川信治—あなた以外の世界のすべて」(千葉市美術館)、「石垣定哉」(三重県立美術館)、「第20回平和美術展 後藤靖香展」(はつかいち美術ギャラリー)「サイ・トゥオンブリーの写真—変奏のリリシズム—」(DIC川村記念美術館)などに貸与し、日本各地における現代美術の展覧会開催に貢献した。

「あの時みんな熱かった!アンフォルメルと日本の美術」(京都国立近代美術館)に対し20点を貸与し、そのうち4点は同展覧会の巡回先であるパレ・デ・ボザール(ベルギー・ブリュッセル)へも出品された。

そのほか海外への貸与ではパソ・インペリアル美術館(ブラジル・リオデジャネイロ)で開催された「コンテンポラリーの出現・日本の前衛美術1950-1970」、台北市立美術館(台湾・台北)で開催された「台北ビエンナーレ2016」、釜山市立美術館(韓国・釜山)で開催された「釜山ビエンナーレ2016」、メゾン・ダイヤー(スイス・イヴェルドン・レ・バン)で開催された「Pop Art, mon Amour」等に貸与した。

### 3 我が国における美術館のナショナルセンターとして美術館活動全体の活性化に寄与

#### (1) 国内外の美術館等との連携・協力等

##### ① 国内外の美術館関係者との研究会の開催や研究者との交流等

- シンポジウムの開催等による国内外の優れた研究者等との人的ネットワークの構築

館名		国内外の研究者の招へい等に基づく セミナー・シンポジウムの開催回数
東京国立近代美術館	本館	3
	工芸館	1
	フィルムセンター	3
京都国立近代美術館		3
国立西洋美術館		5
国立国際美術館		5
国立新美術館		3
計		23

※詳細については別表 12 を参照。所蔵作品等に関するセミナー・シンポジウムの開催については 23 ページ及び別表 11 を参照。

#### 特記事項

- ・国立美術館本部より、ICOM 大会、CIMAM 年次総会等の国際会議へ出席した。
- ・日豪美術館学芸員交流においては、応用芸術・科学博物館からファッション&ドレス部シニア・キュレーターを招へいし、日本国内で活動する服飾専門キュレーター、研究者との交流や日本国内にある服飾関係の研究機関、大学などの視察、デザイナーや工房の訪問等の機会を設けた。

##### ② 我が国の作家、美術作品による展覧会開催のための海外の美術館との連携・協力

###### ア 東京国立近代美術館

###### (本館)

- ・パソ・インペリアル美術館（ブラジル・リオデジャネイロ）において開催された「コンテンポラリーの出現・日本の前衛美術 1950-1970」（主催：独立行政法人国際交流基金、パソ・インペリアル美術館、会期：平成 28 年 7 月 14 日～8 月 28 日）に、鈴木主任研究員が企画協力した。
- ・独立行政法人国際交流基金の共催で MAXXI 国立 21 世紀美術館（イタリア・ローマ）において開催された「日本の住宅：1945 年以降の建築と暮らし」（主催：独立行政法人 国際交流基金、MAXXI 国立 21 世紀美術館、会期：平成 28 年 11 月 9 日～平成 29 年 2 月 26 日）において、保坂主任研究員がキュレーターの一人を務めた。

###### イ 京都国立近代美術館

- ・平成 28 年 7 月 29 日から 9 月 11 日にかけて開催した「あの時みんな熱かった！アンフォルメルと日本の美術」の内容を再編し、「日本・ベルギー友好 150 周年記念 あの時みんな熱かった！アンフォルメルと日本の美術」（会場：パレ・デ・ボザール（ベルギー・ブリュッセル）、会期：平成 28 年 10 月 14 日～平成 29 年 1 月 22 日）を独立行政法人国際交流基金、パレ・デ・ボザールとの共催により開催した。浮世絵など近世以前の日本美術の知識を主としていた観客に対し、戦後日本で流行した表現主義を、洋画だけでなく日本画、書、陶芸、染織など 58 点の作品で紹介した。
- ・パリ日本文化会館（フランス・パリ）において開催された「森口邦彦－隠された秩序」（主催：独立行政法人国際交流基金、パリ日本文化会館、会期：平成 28 年 11 月 16 日～12 月 17 日）に対し、特別協力を行った。

ウ 国立国際美術館

- ・平成 28 年 4 月 5 日から 6 月 19 日にかけて開催した「森村泰昌：自画像の美術史―「私」と「わたし」が会うとき」の内容を再編した「森村泰昌 自画像の歴史」（会場：プーシキン美術館（ロシア・モスクワ），会期：平成 29 年 1 月 30 日～4 月 9 日）に対し特別協力を行った。プーシキン美術館側の担当である写真部門キュレーターと密接に連絡をとりながら、モスクワでは初となる森村泰昌の作品が、鑑賞者に効果的に伝わるように内容を再構成した。

エ 国立新美術館

- ・平成 27 年 6 月 24 日から 8 月 31 日にかけて開催した「ニッポンのマンガ＊アニメ＊ゲーム」の内容を再編した「ニッポンのマンガ＊アニメ＊ゲーム バンコク展」（会場：バンコク国立絵画館（タイ・バンコク），会期：平成 28 年 7 月 16 日～8 月 28 日）をタイ文化省芸術局、バンコク国立絵画館との共催により開催した。複製原画、場面写真、映像、ゲーム、フィギュア、コスチューム、更に制作過程がわかる資料など様々な媒体を展示することで、日本のマンガ・アニメ・ゲームのさらなる魅力や奥深さを提示した。

③ 全国的美術館等との人的ネットワークの形成等

ア 地方巡回展の開催（再掲）

地方巡回展及び巡回上映等は、別表 5 のとおり実施した。

イ 企画展・上映会等の共同主催・共同研究

館名	共同主催件数	共同研究件数	
東京国立近代美術館	本館	2	3
	工芸館	2	4
	フィルムセンター	6	6
京都国立近代美術館	3	7	
国立西洋美術館	3	4	
国立国際美術館	1	4	
国立新美術館	5	6	
<b>計</b>	<b>22</b>	<b>34</b>	

ウ 国内外の美術館等との保存・修復に関する連携・協力等

東京国立近代美術館において、日本画作品の新しい修復方法について東京文化財研究所と情報交換を行ったほか、国際専門会議や学会等への参加を通じて保存修復に関する情報交換を行った。

(2) ナショナルセンターとしての人材育成

① 美術教育の一翼を担うナショナルセンターとしての活動

ア 教育普及活動の充実に資する教材やプログラムの開発

鑑賞教材「国立美術館アートカード」について、各館からを学校へ貸出を行うほか、教員の研修などの機会をとらえて紹介するなど、国立美術館全体として取り組んだ。

イ 美術館を活用した鑑賞教育の充実のための指導者研修の実施等

11 年目となる「美術館を活用した鑑賞教育の充実のための指導者研修」は、ニーズを踏まえて新たに高校教諭を対象に加えた。また、より広く研修成果を共有するため、冊子として発行してきた研修記録を平成 23 年度からウェブサイトで公開しているが、平成 28 年度は読みやす

さに重点を置いてサイトを大幅にリニューアルした。(本研修は「教員免許状更新講習」としても実施している。)

- ・参加人数：99名（小学校教諭 17名，中学校教諭 36名，高等学校教諭 21名，指導主事 4名，学芸員 19名，その他 2名）
- ・会期：平成 28 年 8 月 1 日，2 日（2 日間）
- ・会場：東京国立近代美術館（8 月 1 日），国立新美術館（8 月 2 日）
- ・教員免許状更新講習：受講者 9 名（全員に履修証明書を授与）
- ・参加者の満足度：97%（目標：96.6%）

工芸館では，東京都図画工作研究会との連携授業を実施し，その検証を行った。

京都国立近代美術館では，京都市教育委員会と京都市図画工作教育研究会との共催で，小学校教員を対象に鑑賞教育の指導力向上のための講座を開催した。外部講師を招いての講演会，鑑賞の授業案を実際に考えるグループワーク等を実施し，合計で 36 名の参加者があった。

国立国際美術館では，大阪府教育センター，大阪市教育センターと連携して，美術館における鑑賞活動を児童生徒の学びにつなげることをねらいとして，夏季研修会を実施した。また，「鑑賞学習を通じた学びを考える会」を継続して実施し，全校種の教職員を対象として，鑑賞学習を通して児童生徒にもたらされる学びを念頭に指導案を検討した。

国立新美術館では，港区ミュージアムネットワークへ参加し，港区図工教員との交流ワークショップを行った。

## ② 今後の美術館活動を担う中核的人材の育成

館名		キュレーター研修 受入人数	インターンシップ 受入人数	博物館実習 受入人数
東京国立近代美術館	本館	1	6	—
	工芸館	2	3	—
	フィルムセンター	—	2	15
京都国立近代美術館		0	2	—
国立西洋美術館		0	9	—
国立国際美術館		1	8	—
国立新美術館		0	10	—
計		4	40	15

## (3) 国内外の映画関係団体等との連携等

① 映画フィルムの収集については，以下のとおり実施した。

館名	購入本数	購入金額（円）	寄贈本数	年度末 所蔵本数	年度末 寄託本数	
東京国立近代美術館	フィルムセンター	155	146,134,920	1,222	79,509	8,018

館名	平成28年度の収集方針
東京国立近代美術館	フィルムセンター 映画を，芸術作品，文化遺産，歴史資料として網羅的に収集することを目標に，日本映画の収集等優先順位を設けながら，以下の点に留意して収集。 ・ボーンデジタル作品のうち，希少性や保存上緊急度の高い作品，上映事業や国際交流事業に必要な作品の収集 ・フィルム複製における技術データの保存に向けた適切な複製物の作成 ・初期カラーの試みを反映した作品の収集と復元 ・70 mmフィルム等大型映画の適切な保存・復元に向けた作業の継続

特記事項

〈購入〉

上映企画に合わせ，加藤泰監督作品『風と女と旅鴉』（1958年）等 11 作品・24 本の映画フィルム並びに押井守監督作品『うる星やつら 2 ビューティフル・ドリーマー』（1984年）

等 10 作品・11 本の映画フィルム及びデジタル作品 8 作品の上映用素材及び保存用素材を購入した。また、残存素材の欠落から長らく上映の機会がなかった『夏子の冒険』（中村登監督、1952 年）について、海外での共催上映を念頭に、欠落部分を字幕で補ったデジタル用上映素材を購入した。

〈受贈〉

亀井文夫監督作品を中心に製作してきた日本ドキュメントフィルムをはじめ、斉藤プロダクション、アズマックス、ユニモト、企画制作パオ等、インディペンデント系の文化・記録映画製作会社からの原版類及び 1970 年代の自主製作映画を代表する『バイバイ・ラブ』（藤沢勇夫監督、1974 年）等インディペンデント系の劇映画及びアニメーション映画の原版類やプリントを受贈した。また、関西において江戸時代の朝鮮通信使等の歴史を発掘してきた辛義秀氏の貴重なフィルム・コレクション 75 本を受贈した。

② 映画フィルムの保管・修復・復元については、以下のとおり実施した。

館名		修理・修復本数
東京国立近代美術館	フィルムセンター	69 本（映画フィルムデジタル復元 13 本、ノイズリダクション等 19 本、不燃化作業 37 本）

特記事項

映画フィルムのデジタル復元については、国産三原色カラーシステムであるコニカラーを採用した作品『ジャズ娘誕生』（春原政久監督、1957 年）に、所蔵する可燃性オリジナルネガからスキヤニングしたデータに修復を施し、鮮やかな色彩を再現した。従来の写真化学的な復元（アナログ復元）を実行するために必要な技術データの更新と保存を図るため、『時をかける少女』（大林宣彦監督、1983 年）について、同作の撮影監督・阪本善尚氏及び公開当時本作のタイミングを担当したフィルムセンター技術スタッフが、カット単位による色彩調整を行いニュープリントを仕上げた。

所蔵フィルムからの不燃化・複製化については、『限りなき前進』（内田吐夢監督、1937 年）可燃性プリントから音抜き・ノイズ処理により音ネガを作成し、不燃性の画ネガと合わせてプリント作成するとともに、欠落部分の説明字幕と通常の字幕を英語で入れた。『清水港は鬼より怖い』（加藤泰監督、1952 年）では、所蔵 35 mm プリントと神戸映画資料館所蔵 16 mm を照合して最長版を作成した。

映画関連資料については、劣化・損傷の恐れがあるシナリオ等冊子に対して中性紙の保存ケースを制作して長期保存を図っている。また公開・貸出頻度の高いと思われる日本映画ポスターを中心に和紙を用いた簡易修復、酸性紙が劣化したプレス資料に対する脱酸化作業、接着したスチル写真の剥離作業やクリーニングなど紙資料の保存のための措置を講じている。

③ 映画フィルム等の貸与等については、以下のとおり実施した。

● 映画フィルム

館名		貸出		特別映写観覧		複製利用	
		件数	本数	件数	本数	件数	本数
東京国立近代美術館	フィルムセンター	102	267	58	228	40	102

● 映画関連資料

館名		貸出		特別観覧	
		件数	点数	件数	点数
東京国立近代美術館	フィルムセンター	7	86	42	542

特記事項

映画フィルムの海外への貸与については、例年どおり、韓国映像資料院（国際フィルム・アーカイブ連盟（FIAF）加盟機関）等、韓国の映画機関への貸与を行った。国内における貸与

については、平成 29 年が国産アニメーション映画の劇場公開から 100 年を迎える記念の年であることから、広島国際アニメーションフェスティバルに対して日本の初期アニメーション 31 本を貸与したことを筆頭に、アニメーション映画の貸与が多かった。その他一般社団法人コミュニティシネマセンターが主催する国内巡回上映「永遠のオリヴェイラ マノエル・ド・オリヴェイラ監督追悼特集」に対し、フィルムセンターで所蔵する同監督作品 2 本を全国 9 会場での上映に貸与するなど、映画に関わる様々な団体や機関へフィルムの貸与を通して協力した。

映画フィルムの特別映写については、日本映画監督協会や日本映画映像文化振興センター等の映画関連団体から申請を受けるとともに、デューク大学やイエール大学の海外機関を含め、東京大学、京都大学、大阪大学等の幅広い研究教育機関からの申請に対応した。

映画フィルムの複製利用については、著作権者等によるデジタル化に加え、和歌山県立近代美術館主催の巡回展「動き出す！絵画」への協力など、美術館での展示上映に対する利用許可が特徴的だった。また、朝日新聞社からは、戦前に同社若しくは関連会社が製作していた子供向けニュース映画について、フィルムセンターで所蔵する全 32 本に対し複製利用の申請を受けた。

映画資料の貸出については、日本でも数少ない常設の映画関連展示施設である鎌倉市川喜多映画記念館へ多数貸し出したほか、ドイツのバーデン＝ヴュルテンベルク歴史館に対し日本における米国ユニヴァーサル社関連の資料 6 点を貸与した。資料の特別観覧については、出版社・教育機関・テレビ局等の要望に対して資料画像の提供や熟覧などの形で所蔵資料へのアクセスに応じているが、国産アニメーション 100 年に関連して、黎明期のアニメーション作品『なまくら刀』のフィルムコマ抜き画像の提供が目立った。

「所蔵映画フィルム検索システム」については、平成 28 年度中に日本劇映画の作品情報 159 件を新たに公開し、公開件数は累計 7,299 件となった。

- ④ 平成 28 年 10 月 22 日に、ユネスコ「世界視聴覚遺産の日」記念特別イベント「無声映画遺産とアーカイブ」を開催した。詳細については別表 11 を参照。
- ⑤ 海外における共催上映の実施については、以下のとおり実施した。
  - ・フォンダツィオーネ・チネテカ・ディ・ポローニャとの共催による上映企画「第 30 回チネマ・リトロバート映画祭「豊穡と調和：日本のカラー映画 パート 2」」（会場：ジョリー劇場（イタリア・ポローニャ）、会期：平成 28 年 6 月 25 日～7 月 2 日）を開催し、日本の初期カラー映画におけるさまざまな取組を、英語字幕を付したフィルムや DCP により紹介した。
  - ・チネテカ・デル・フリウリとの共催による上映企画「第 35 回ポルデノーネ無声映画祭における日本のサイレント映画特別上映」（会場：ジュゼッペ・ヴェルディ劇場、チネマゼロ（イタリア・ポルデノーネ）、会期：平成 28 年 10 月 4 日、6 日～8 日）において、日本の無声映画 6 作品を紹介した。なお、この映画祭に際し、岡島主幹が無声映画の発掘や評価に際立った貢献を果たしたとしてジャン・ミトリ賞を受賞した。
  - ・スウェーデン映画協会との共催による上映企画「サイレント・ジャパンー日本無声映画特集」（会場：スウェーデン映画協会（スウェーデン・ストックホルム）、会期：平成 28 年 10 月 12 日～11 月 22 日）において、スウェーデンでは初めてとなる大規模な日本の無声映画特集を実施した。
  - ・ニューヨーク近代美術館との共催による上映企画「内田吐夢監督回顧展」（会場：ニューヨーク近代美術館 タイタス劇場（アメリカ・ニューヨーク）、会期：平成 28 年 10 月 21 日～11 月 7 日）において、国際交流基金及び東映から借用した 7 本を含む 19 本の 35 mm プリントによって、ニューヨークではこれまでで最大となる巨匠内田吐夢監督の回顧展を実施した。
- ⑥ 映画フィルムの保存・修復等に関する協力等については、以下のとおり実施した。
  - ・『時をかける少女』のニュープリント仕上げ作業について、撮影監督協会からの協力を得た。

- ・スウェーデン映画協会，ユーゴスロヴェンスカ・キノテカ（以上 FIAF 加盟機関），神戸映画資料館，記録映画保存センター，映画製作配給各社，現像所，映画史家及び個人コレクター等より，未発見の日本映画や日本に関連する映画フィルムの所在に関する新たな情報を得ることができた。
  - ・イタリア・ボローニャで開催された FIAF 年次会議における映画復元に関するシンポジウムへの参加を通して，各国における映画復元の最新動向に関する知見を得ることができた。また，「映画の復元と保存に関するワークショップ」への特別協力等を通して，国内の同種機関，映画製作配給各社，現像所，映画関連機器メーカー等との間で映画の保存・復元に関する情報交換を行った。
- ⑦ 各種映画祭や映画・映像に関する研究会等への協力については，以下のとおり実施した。
    - ・自主上映の長い伝統を持つ札幌映画サークルに対し，無声映画等の上映企画や作品選定に協力し，『御詔治郎吉格子』（伊藤大輔監督，1931 年）等 3 本の劇映画と，アニメーション映画作家・大藤信郎による 7 本の作品を貸与した。
    - ・認定 NPO 水俣フォーラムによる水俣病 60 年記念のイベントに際し，戦前の大規模な電源開発を記録した『工事記録映画 鴨緑江大水力発電工事』（1940 年）を貸与した。
    - ・メキシコのグアナフアト国際映画祭が企画した日本特集において，日本の初期映画等について作品選定の打診を受け，メキシコ国立自治大学フィルモテカ（FIAF 加盟機関・メキシコ）が主催する番組として，『紅葉狩』[デジタル復元版]（柴田常吉撮影，1899 年）と，『なまくら刀』[デジタル復元・最長版]（幸内純一監督，1917 年）等日本の初期アニメーション映画 9 本の貸与を行った。
  - ⑧ 国立美術館キャンパスメンバーズの加盟校（東京国立近代美術館利用校）が，フィルムセンターの所蔵映画フィルムと施設を利用して講義等を行う「東京国立近代美術館フィルムセンター・大学等連携事業」については，計 8 回（8 校）の講義を実施した。
  - ⑨ 文化庁映画関連事業への施設提供については，文化庁からの要請により協力することとしていたが，依頼実績が無かった。
  - ⑩ 文化庁が実施する「日本映画情報システム」に対しては，公開データベースへの接続に関する協力を行った。
  - ⑪ 相模原分館において，相模原市及び独立行政法人宇宙航空研究開発機構（JAXA）と締結した文化事業等協力協定に基づき，相模原市内の小・中学生並びに相模原市及び JAXA との共催事業の参加者を対象に無料で映画鑑賞と保存施設の案内を実施した。映画フィルムの受入・検査・収納までの工程を解説し，映画フィルムの保存活動についても普及することができた。
  - ⑫ FIAF の正会員として，第 72 回 FIAF 会議（イタリア・ボローニャ）に研究員 2 名が参加し，内 1 名は「チネマ・リトロバート」映画祭におけるフィルムセンター所蔵フィルムの上映時に解説を行った。
  - ⑬ 映画関連資料に関する情報収集については，神戸映像アーカイブプロジェクト主催のイベント「ノンフィルム資料の保存と活用」において，各地の映画資料館・専門図書館とノンフィルム資料の保存に関する情報交換を行った。
  - ⑭ フィルムセンターの東京国立近代美術館からの独立については，引き続き検討を行うとともに，寄附金を財源として独立に向けた機能強化のための雇用確保を行った。

## II 業務運営の効率化

### 1 業務運営の取組

#### (1) 一般管理費及び業務経費の削減状況

(単位：千円)

区分	前中期目標期間 最終年度	当中期目標期間	削減率
	平成 27 年度	平成 28 年度	
一般管理費	679,240	457,752	32.6%
業務経費	2,790,837	2,551,574	8.6%

#### 特記事項

当中期目標期間終了年度において、前中期目標期間の最終年度と比べて、一般管理費 15%、業務経費 5%を削減することを目標としている。（ただし、美術作品購入費、美術作品修復費、土地借料等の特殊要因経費はその対象外。）

平成 28 年度において、一般管理費については、平成 27 年度比で 32.6%削減し、業務経費については、8.6%削減しており、一般管理費・業務経費ともに目標を達成している。

#### (2) 省エネルギー

##### ● 使用量の削減割合（対平成 27 年度比）

館名		使用量		
		電気	ガス	合計
東京国立近代 美術館	本館	97.9%	102.6%	99.7%
	工芸館	98.7%	—	98.7%
	フィルムセンター	105.9%	—	105.9%
	フィルムセンター相模原分館	98.4%	—	98.4%
京都国立近代美術館		133.2%	150.0%	136.6%
国立西洋美術館		100.4%	100.6%	100.5%
国立国際美術館		98.2%	—	98.2%
国立新美術館		99.1%	101.3%	99.7%
計		100.5%	102.5%	101.0%

※東京国立近代美術館工芸館・フィルムセンター・フィルムセンター相模原分館及び国立国際美術館は、ガス設備を設置していない。

※使用量の合計は、電気は一般電気事業者からの昼間買電を 9.97GJ/千 kWh、夜間買電を 9.28GJ/千 kWh、特定規模電気事業者からの買電を 9.76GJ/千 kWh、都市ガスを 45GJ/千 kWh に換算し得た熱量に 0.0258kl/GJ を乗じて得た原油換算量を、各施設の延床面積で除した値（原単位）を基礎とする（エネルギーの使用の合理化に関する法律施行規則に基づく）。

#### 特記事項（増減の理由等）

国立美術館全体においては、業務の特殊性から展覧会場や美術作品収蔵庫において一定の温湿度維持等が必要とされ削減が難しいものの、引き続き、美術作品のない区画における空調機の設定温度の適格化（夏季 28℃、冬季 19℃）、夏季における服装の軽装化、不使用設備機器類のこまめな停止及び職員等の意識の啓発によりエネルギーの削減に努めた。

また、エネルギーの使用の合理化に関する法律に基づき、エネルギー管理統括者のもとで、省エネルギー計画策定等を行い、各館において可能な箇所から施設設備の改修を行い、省エネルギー効果を高めた。特に、国立新美術館においては、引き続き、BEMS（Building and Energy Management System）により、詳細なエネルギーの使用量と室内環境の把握を行い、その情報

を定例的に開催する省エネルギー推進会議へ報告し、省エネルギー対策に生かすなどの取組を行っている。

さらに、平成 27 年度に引き続いて「夏季の省エネルギー対策について (28 文科施第 126 号)」及び「冬季の省エネルギーの取組について (28 文科施第 372 号)」を踏まえた節電対策を実施した。具体的内容は以下のとおり。

(1) 設備・機器等の使用抑制

① 空調に係る節電

- ・部分的な運用，時間的な運用など柔軟に対応
- ・設定温度夏季 28℃，冬季 19℃を徹底（展示室及び収蔵庫等を除く）
- ・節電にも役立つ服装の励行
- ・ブラインドを調節し，夏季は直射日光を遮光，冬季は暖気を確保
- ・空調機のフィルター清掃

② 照明に係る節電

- ・執務室の照明は，最低基準の照度を確保しつつ大幅削減
- ・廊下，ロビー，階段等は，安全確保を優先し極力消灯
- ・昼休みの消灯を徹底
- ・白熱電球の原則使用禁止（代替品のない場合を除く）

③ エレベータ，エスカレータ

- ・必要最小限度の運転，階段利用の促進

④ 衛生設備に係る節電

- ・給湯室，洗面台，電気温水器等の利用時間，設定温度の変更
- ・自動販売機の消灯，設定温度の変更
- ・暖房便座，温水洗浄の停止
- ・便所温風器（手乾かし器）の停止

⑤ OA 機器等

- ・一定期間使用しない場合の電源の切断
- ・節電モードでの使用を徹底
- ・プリンタ，コピー機等の使用制限

⑥ その他

- ・ノー残業デーの推進
- ・冷蔵庫，電気ポット等，家電機器の使用制限
- ・冬季のハロゲンヒーター等の暖房機器の個人使用の禁止
- ・各テナントへの節電の協力要請
- ・サーバ室等個別空調機器の適切な温度設定

(2) 夏季休暇等の確実な取得

業務効率の維持等に留意しつつ，次の取組を推進

- ・夏季休暇の完全取得，夏季における年次休暇の計画的長期取得

(3) その他

- ・超過勤務の一層の縮減
- ・中長期の節電にも資する設備の設置等の検討及び着手
- ・夏季及び冬季における全館一斉休業日の実施

京都国立近代美術館の電気及びガス使用量の増加は，平成 27 年度に工事のため 1 ヶ月半休館していたために使用量が少なかったことが要因である。

なお，法人全体については，夜間開館日が増加したことにより，電気及びガスの夜間の使用量が増え，エネルギー使用量は 101.0%と横ばいになっている。

## 2 組織体制の見直し

独立行政法人の業務運営の柔軟性を生かし、より一層のサービス向上及び組織の機能向上を実現するため、適宜組織体制を見直し、その強化に努めた。

## 3 契約の点検・見直し

### (1) 調達等合理化の推進

「独立行政法人における調達等合理化の取組の推進について」（平成 27 年 5 月 25 日総務大臣決定）に基づき、事務・事業の特性を踏まえ、PDCA サイクルにより、公正性・透明性を確保しつつ、自律的かつ継続的に調達等の合理化に取り組むため、平成 28 年度独立行政法人国立美術館調達等合理化計画を策定した。

### ① 平成 28 年度の調達実績

#### ア 平成 28 年度の調達全体像

(単位：件、千円)

	平成 27 年度		平成 28 年度		比較増△減	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
競争入札等	(36.7%) 84	(31.3%) 3,354,500	(34.4%) 79	(20.9%) 1,899,200	(94.0%) △5	(56.6%) △1,455,299
企画競争・公募	(6.6%) 15	(1.3%) 135,545	(15.6%) 36	(5.3%) 480,273	(240.0%) 21	(354.3%) 344,728
競争性のある契約 (小計)	(43.2%) 99	(32.6%) 3,490,045	(50.0%) 115	(26.2%) 2,379,473	(116.2%) 16	(68.2%) △1,110,571
競争性のない随意契約	(56.8%) 130	(67.4%) 7,227,245	(50.0%) 115	(73.8%) 6,709,061	(88.5%) △15	(92.8%) △518,184
合計	(100%) 229	(100%) 10,717,290	(100%) 230	(100%) 9,088,534	(100.4%) 1	(84.8%) △1,628,756

(注 1) 計数は、それぞれ四捨五入しているため、合計において一致しない場合がある。

(注 2) 比較増△減の ( ) 書きは、平成 28 年度の対 27 年度伸率である。

#### イ 平成 28 年度の一者応札・応募状況

(単位：件、千円)

		平成 27 年度		平成 28 年度		比較増△減	
		件数	金額	件数	金額	件数	金額
2 者以上	件数	49 (49.5%)		60 (52.2%)		11 (122.5%)	
	金額	816,188 (23.4%)		1,236,139 (52.0%)		419,951 (151.5%)	
1 者以下	件数	50 (50.5%)		55 (47.8%)		5 (110.0%)	
	金額	2,673,856 (76.6%)		1,143,334 (48.1%)		△1,530,522 (42.8%)	
合計	件数	99 (100%)		115 (100%)		16 (83.8%)	
	金額	3,490,045 (100%)		2,379,473 (100%)		△1,110,571 (68.2%)	

(注 1) 計数は、それぞれ四捨五入しているため、合計において一致しない場合がある。

(注 2) 合計欄は、競争契約（一般競争、指名競争、企画競争、公募）を行った計数である。

(注 3) 比較増△減の ( ) 書きは、平成 28 年度の対 27 年度伸率である。

複数年度にわたり同一業者による一者応札が継続し、改善が見込めない案件については、慎重に検討のうえ、公募への切替えを実施した。

・一者応札から公募に切り替えた件数：2 件

## ② 契約監視委員会の審議状況

監事及び外部有識者で構成される契約監視委員会を2回実施（書面審査1回含む）し、平成28年度調達等合理化計画策定及び平成28年における契約の点検見直しを行ったところ、指摘事項はなかった。

- ・一者応札の検証実施件数：49件

## ③ 調達等合理化検討チームによる点検

新たに随意契約（少額随契を除く。）を締結することになった案件について、本部事務局長を総括責任者とする調達等合理化検討チームにおいて事前点検（緊急の場合は事後点検）を行った。

- ・事前点検：10件
- ・事後点検：1件（国立新美術館の空調配管漏水への緊急対応による）

## ④ 内部監査の実施件数

平成28年度は、東京国立近代美術館、京都国立近代美術館、国立西洋美術館、国立国際美術館及び国立新美術館を対象として、2人～3人の監査員による内部監査を行った。

- ・内部監査実施件数：5件

## (2) 民間委託の推進

### ① 一般管理部門を含めた組織・業務の見直しと民間委託の推進

次のとおり民間委託を行い業務の効率化を図った。

- (ア) 会場管理業務， (イ) 設備管理業務， (ウ) 清掃業務，
- (エ) 保安警備業務， (オ) 機械警備業務， (カ) 収入金等集配業務，
- (キ) レストラン運営業務， (ク) アートライブラリ運営業務，
- (ケ) ミュージアムショップ運営業務， (コ) 美術情報システム等運営支援業務，
- (サ) ホームページサーバ運用管理業務， (シ) 電話交換業務，
- (ス) 展覧会アンケート実施業務， (セ) 省エネルギー対策支援業務，
- (ソ) 展覧会情報収集業務， (タ) 映写等請負業務

「競争の導入による公共サービスの改革に関する法律」に則り民間競争入札を行った管理運営業務は、契約事務の軽減、統括管理業務導入による事務と委託業務の効率化、民間事業者の相互連携の推進による適確な業務の実施とともに、それぞれの業務の専門的知識を生かした適確な提案による施設設備維持管理と観覧環境の向上に寄与した。

引き続き「競争の導入による公共サービスの改革に関する法律」に則り民間競争入札を行っていくとともに、終了プロセスへの移行が承認されたものについては、一般競争入札を行い、業務の効率化等に努める。

### ② 広報・普及業務の民間委託の推進

次のとおり民間委託を行い業務の効率化を図った。

- (ア) 情報案内業務， (イ) 広報物等発送業務， (ウ) 交通広告等掲載，
- (エ) ホームページ改訂・更新業務， (オ) 特設サイト等，
- (カ) ラジオCM等を利用した総合的な広報宣伝業務，
- (キ) 講堂音響設備オペレーティング業務， (ク) 画像貸出業務

## 4 共同調達の推進

平成27年度に引き続き、国立西洋美術館は周辺の機関と連携し、コピー用紙及びトイレットペーパー、廃棄物処理、古紙等売買契約について共同調達を実施した。また、平成28年度より東京国立近代美術館と国立新美術館において、コピー用紙及びトイレットペーパーの共同調達を新たに実施した。

## 5 給与水準の適正化等

### ① 人件費決算

決算額 947,002 千円（対平成 27 年度比較 100.02%）

・人件費は常勤職員を対象とし、退職金、福利厚生費を含まない。

### ② 給与体系の見直し

国家公務員の給与等を考慮して、平成 18 年 4 月から俸給表の水準を全体として平均 4.8%引下げるとともに、級の構成の見直し、きめ細かい勤務実績の反映を行うため号俸の 4 分割を行ったほか、調整手当を廃止し、地域手当を新設するなど、国家公務員の給与構造改革を踏まえた給与体系の見直しを行った。なお、平成 28 年度においては、国家公務員の給与改定に準拠し、人事院勧告による官民較差等の状況を踏まえ、俸給水準及び諸手当にかかる給与改定を実施した。

また、国立美術館の職員が行う職務は、国の行政職俸給表（一）又は研究職俸給表の適用を受けるものと同等の職務であるとみなし、給与についても一般職給与法に準拠した給与制度で支給してきていることを前提に、これらとの比較を行った（「独立行政法人の役職員の給与等の水準（平成 27 年度）」平成 28 年 9 月 23 日総務省公表資料を参照。）。

#### ア 一般職俸給表の適用を受ける職員の給与水準

〈国との比較〉平成 27 年度実績

項目	国	国立美術館
平均年齢	43.5 歳	40.7 歳
学歴（大学卒の割合）	54.7%	81.6%
調整手当支給率 ※1	45.2%	100%

※1 1 級地、2 級地及び 5 級地の支給地の割合（国家公務員全体）

〈他の独立行政法人との比較〉平成 27 年度年間給与額

項目	全独立行政法人	国立美術館
給与総額	6,768 千円	6,134 千円
平均年齢	43.6 歳	40.3 歳
ラスパイレス指数 ※2	102.6	98.5

※2 国の行政職俸給表（一）適用者の給与を 100 としたときの給与水準の指数

#### イ 研究職俸給表の適用を受ける職員の給与水準

〈国との比較〉平成 27 年度実績

項目	国	国立美術館
平均年齢	45.4 歳	47.7 歳
学歴（大学卒の割合）	97.9%	100%
調整手当支給率 ※3	89.5%	100%

※3 1 級地、2 級地及び 5 級地の支給地の割合（国家公務員全体）

〈他の独立行政法人との比較〉平成 27 年度年間給与額

項目	全独立行政法人	国立美術館
給与総額	9,055 千円	8,987 千円
平均年齢	46.7 歳	47.7 歳
ラスパイレス指数 ※4	99.7	95.5

※4 国の研究職俸給表適用者の給与を 100 としたときの給与水準の指数

## ウ 常勤役員の年間報酬

平成 27 年度実績

項 目	国立美術館
法人の長	19,222 千円
理事	16,538 千円

※「独立行政法人の役職員の給与等の水準（平成 27 年度）」（総務省公表資料）では常勤役員にかかる平均報酬額が公表されていないため当法人の実績のみ記載。

### ③ 平成 28 年度の役職員の報酬・給与等について

別紙 1「独立行政法人国立美術館の役職員の報酬・給与等について」を参照。

## 6 情報通信技術を活用した業務の効率化

法人内で VPN（Virtual Private Network：暗号化された通信網）を用いたグループウェア及びテレビ会議システムを引き続き採用しており，特にテレビ会議システムについては定期的な会議等に積極的に活用している。

また，外部データセンターが提供するサーバ機能を利用し，多重化した光回線による VPN の二重化等ネットワーク構成を刷新した。これにより平成 29 年度以降更に安定したネットワーク稼働を維持することが可能となる。

### Ⅲ 予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画等

#### 1 自己収入の確保

入場料収入 1,035 百万円、公募展事業収入 302 百万円、不動産賃貸収入 112 百万円、会費収入 50 百万円等により、1,576 百万円の展示事業等収入を獲得できた。

#### 2 保有資産の有効利用・処分

保有する資産について、美術館の事業・運営に影響のない範囲で積極的な講堂等の外部貸出やエントランスロビーの活用に努めた。また、保有する資産のうち不要な資産はない。

外部貸出件数は 90 件で、主な貸出は以下のとおりである。

- ・宝飾品会社顧客向けパーティー（国立新美術館エントランスロビー）
- ・自動車会社の新車発表を含むイベント（国立新美術館エントランスロビー）
- ・京都岡崎音楽祭公式プログラムの講演会場（京都国立近代美術館 1 階ホワイエ、講堂）

#### 3 予算

（単位：百万円）

区 分	計画額	決算額	増△減額
収入			
運営費交付金	7,501	7,501	0
展示事業等収入 【注1】	1,178	1,576	398
寄附金収入 【注2】	650	848	197
施設整備費補助金 【注3】	3,511	3,458	△54
文化芸術振興費補助金 【注4】	—	210	210
計	12,840	13,591	750
支出			
運営事業費	8,679	8,169	510
管理部門経費	1,112	1,149	△37
うち人件費 【注5】	405	402	3
うち一般管理費 【注6】	706	747	△40
事業部門経費	7,567	7,020	547
うち人件費 【注7】	1,142	1,148	△6
うち美術振興事業費 【注8】	2,381	2,236	145
うちナショナルコレクション形成・継承事業費 【注9】	3,629	3,272	358
うちナショナルセンター事業費 【注9】	415	365	50
寄附金事業費 【注10】	650	305	345
施設整備費 【注3】	3,511	3,458	54
文化芸術振興費 【注4】	—	210	△210
計	12,840	12,141	△699
収支差引	—	1,450	1,450

主な増減理由

【注 1】 入場料収入等の増加による。

【注 2】 国立美術館が行う事業に対する寄附の受入れによる。

【注 3】 当年度工事の未完による。

【注 4】 文化庁「美術館・歴史博物館重点分野推進支援事業」及び「地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業」による。

【注5】 予定外の職員の退職及び退職手当の支給による。

【注6】 設備等の修繕及び支払消費税の増加による。

【注7】 予定外の退職手当の支給による。

【注8】 業務運営の効率化による。

【注9】 未達成の運営費交付金の繰越による。

【注10】 寄附金を財源とした経費の繰越による。

※金額は単位未満四捨五入のため、合計等が合致しない場合がある。

#### 特記事項

一般管理費、美術振興事業費、ナショナルコレクション形成・継承事業費及びナショナルセンター事業費を合わせた物件費は、設備等の修繕及び支払消費税の増加、業務の効率化による支出減、美術作品購入費の運営費交付金債務の繰越等により、予算に比べ699百万円の支出減となった。

展示事業等収入は、展覧会の入館者数が目標入館者数を上回ったこと等から、予算に比べ398百万円の収入増となった。

施設整備費補助金は、平成28年度当初予算による工事が次期へ繰越になったこと等により、計画額より54百万円支出減となった。

寄附金については、848百万円を獲得した。前年度からの繰越を合わせた305百万円を平成28年度の収益とした。

## 4 収支計画

(単位：百万円)

区 分	計画額	決算額	増△減額
費用の部			
經常費用	5,585	5,803	△218
管理部門経費	1,087	1,260	△173
うち人件費	【注1】 405	500	△95
うち一般管理費	【注2】 682	761	△79
事業部門経費	3,682	4,082	△400
うち人件費	【注1】 1,142	1,102	40
うち美術振興事業費	【注3】 2,290	2,515	△225
うちナショナルコレクション形成・継承事業費	【注4】 109	314	△205
うちナショナルセンター事業費	【注5】 141	152	△11
寄附金事業費	【注6】 650	305	345
減価償却費	166	156	10
収益の部			
經常収益	5,585	6,214	629
運営費交付金収益	【注7】 3,591	3,764	173
展示事業等の収入	【注8】 1,178	1,566	388
寄附金収益	【注9】 650	305	△345
資産見返運営費交付金戻入	152	143	△9
資産見返寄附金戻入	3	2	△1
資産見返物品受贈額戻入	11	2	△9
資産見返補助金等戻入	—	9	9
補助金等収益	【注10】 —	210	210
施設費収益	【注11】 —	205	205

経常利益		411
臨時損失		0
臨時利益		0
当期純利益		411
前中期目標期間繰越積立金取崩額		22
当期総利益		434

主な増減理由

【注1】 支出経費の見直しによる。

【注2】 前中期目標期間繰越積立金の取崩し及び施設整備費補助金を財源とした経費の増加等による。

【注3】 補助金を財源とした経費及び入館者数の増加に伴う経費の増加等による。

【注4】 運営費交付金による固定資産の取得が見込より少なかったことによる。

【注5】 施設整備費補助金を財源とした経費の増加及び支出経費の見直し等による。

【注6】 寄附金を財源とした経費の繰越による。

【注7】 運営費交付金による固定資産の取得が見込より少なかったことによる。

【注8】 入館者数の増加等による。

【注9】 寄附金を財源とした経費の支出による。

【注10】 補助金を財源とした経費の支出による。

【注11】 施設整備費補助金を財源とした経費の支出による。

※金額は単位未満四捨五入のため、合計等が合致しない場合がある。

## 5 資金計画

(単位：百万円)

区分	計画額	決算額	増△減額
資金支出	12,840	12,903	△63
業務活動による支出 【注1】	9,213	9,134	79
投資活動による支出 【注2】	3,627	3,769	△142
財務活動による支出	—	—	—
資金収入	12,840	14,025	1,185
業務活動による収入	9,329	10,131	802
運営費交付金による収入	7,501	7,501	0
展示事業等による収入 【注3】	1,178	1,782	604
寄附金収入	650	848	198
投資活動による収入	3,511	3,894	383
施設整備補助金による収入 【注4】	3,511	3,894	383
資金増減額		1,122	
資金期首残高		2,107	
資金期末残高		3,229	

主な増減理由

【注1】国庫納付金の支払及び運営費交付金の次期繰越による。

【注2】平成27年度に竣工した工事等の支払及び平成28年度補正予算を財源とした工事の完了による。

【注3】入場料収入及び寄附金収入、補助金収入等の増加による。

【注4】平成27年度施設整備費補助金の精算に伴い一部が平成28年度の収入となったこと及び平成28年度施設整備費補助金の精算に伴い一部が平成29年度の収入となることによる。

※金額は単位未満四捨五入のため、合計等が合致しない場合がある。

## 6 貸借対照表

(単位：百万円)

資産の部		負債及び純資産の部	
資産の部		負債の部	
I 流動資産	3,956	I 流動負債	3,389
II 固定資産		II 固定負債	775
1. 有形固定資産	187,290		
2. 無形固定資産	34	負債合計	4,164
固定資産合計	187,325		
		純資産の部	
		I 資本金	81,019
		II 資本剰余金	105,162
		III 利益剰余金	936
		純資産合計	187,117
資産の部 合計	191,281	負債及び純資産の部 合計	191,281

※金額は単位未満四捨五入のため、合計等が合致しない場合がある。

## 7 短期借入金

実績なし。

## 8 重要な財産の処分等

実績なし。

## 9 剰余金

### (1) 当期未処分利益の処分計画

(単位：円)

区分	金額
I 当期未処分利益	433,604,183
当期総利益	433,604,183
II 利益処分別	
独立行政法人通則法第44条第3項により 主務大臣の承認を受けようとする額	433,604,183

平成28年度未処分利益については、中期計画の剰余金の使途において定めた施設・整備の充実、教育普及事業の充実、調査研究事業の充実、入館者サービスの充実及び資料の収集事業の充実等に充てるため、独立行政法人通則法（平成十一年七月十六日法律第百三号）第44条第3項に定める目的積立金として申請する。

## (2) 利益の生じた主な理由

予算額を上回った自己収入があったことによる。

### 特記事項

国立新美術館で開催した「オルセー美術館・オランジュリー美術館所蔵 ルノワール展」の平成 28 年度中の目標入館者数が 360,000 人に対して入館者数 667,897 人であったこと、「草間彌生 わが永遠の魂」の平成 28 年度中の目標入館者数が 47,000 人に対して入館者数 194,256 人であったこと及び「チェコ文化年事業 ミュシャ展」の平成 28 年度中の目標入館者数が 55,000 人に対して入館者数が 135,199 人であったことなどにより、予算額を上回る自己収入を得ることができた。また、入館者数が増加したことにより、国立新美術館のレストラン及びミュージアムショップの賃貸料が増加したことも自己収入の増加の要因となった。

## (3) 目的積立金の使用状況

目的積立金について、平成 28 年度は以下のとおり使用した。

区 分	金額 (円)	使用内容
前中期目標期間繰越積立金	22,373,749	ファイナンスリース損益相当額及び経過勘定損益影響額
計	22,373,749	

## (4) 積立金（通則法第 44 条第 1 項）の状況

(単位：円)

使途の内訳	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高
前中期目標期間繰越積立金	375,840,066	525,124,347	398,213,815	502,750,598
積立金	135,376,821	597,258,992	732,635,813	-

平成 28 年度未処分利益については、中期計画の剰余金の使途において定めた施設・整備の充実、教育普及事業の充実、調査研究事業の充実、入館者サービスの充実及び資料の収集事業の充実等に充てるため、独立行政法人通則法（平成十一年七月十六日法律第百三号）第 44 条第 3 項に定める目的積立金として申請する。また、前中期目標期間最終年度の積立金の期末残高は 135,376,821 円に前中期目標期間の最終年度の未処分利益 221,418,926 円及び前中期目標期間繰越積立金 375,840,066 円を加えた積立金 732,635,813 円のうち、今中期目標期間の業務の財源として繰越の承認を受けた額は 525,124,347 円であり、差引 207,511,466 円については国庫に納付した。

## IV その他主務省令で定める業務運営に関する事項

### 1 内部統制・ガバナンスの強化

#### (1) 内部統制の充実・強化

##### ① 理事長がリーダーシップを発揮できる環境の整備

引き続き理事長裁量経費を計上し、理事長がリーダーシップを発揮できる環境を整備した。

また、法人の長である理事長の補佐体制として、理事を任命するとともに、各館に館長を配置し、各館の館務を掌理させている。さらに、本部に理事を兼任する事務局長を置き、本部事務局の企画立案機能の充実を図るとともに、各館横断的な調査研究業務及びその他の学芸に係る専門的な重要事項に係る事務を掌理する学芸調整役を配置し、各館が有機的に連携し、効果的・効率的な業務を遂行しうる体制を整備している。

理事長の召集及び主宰で独立行政法人国立美術館館長等会議（以下、「館長等会議」という。）を開催している。館長等会議は、国立美術館の業務の適正かつ円滑な執行を図るため、各館の館長及び理事で構成する会議である。館長等会議における審議事項は、国立美術館の運営に関する基本方針等であり、国立美術館の運営管理上の重要事項について協議しており、平成 28 年度は 5 回開催した。

館長等会議の開催に際しては、各館の館長のほか、役員である理事及び監事、室長以上の職員の出席を求めており、説明又は意見を求めている。館長及び役員以外の職員が出席することにより、館長等会議における決定等について周知を図る場としても活用している。

このほか、理事長のマネジメントを補佐するため、外部の有識者で組織する独立行政法人国立美術館運営委員会（以下、「運営委員会」という。）を開催している。運営委員会は、国立美術館の管理運営に関する重要事項について、理事長の諮問に応じて審議し、理事長に対して助言する組織で、平成 28 年度は 2 回（平成 28 年 9 月 14 日及び平成 29 年 3 月 6 日）開催し、平成 27 年度事業実績並びに、平成 28 年度事業の実施状況及び平成 29 年度事業計画（案）について説明聴取の上、意見交換を行った。

また、外部有識者で構成する独立行政法人国立美術館外部評価委員会（以下、「外部評価委員会」という。）を開催している。外部評価委員会は、国立美術館の単年度ごとの業務の実績に関する評価を行う組織であり、平成 28 年度は 2 回（平成 28 年 4 月 20 日及び 6 月 1 日）開催し、平成 27 年度事業実績について説明聴取の上、審議し評価報告書を取りまとめた。評価報告書については法人ホームページにて公表している。

##### ② 組織全体で取り組むべき重要な課題（リスク）の把握

国立美術館の事務事業に係る政府としての決定を遵守するとともに、外部の有識者で構成する運営委員会や外部評価委員会の開催を通じて、組織全体で取り組むべき重要な課題（リスク）の把握に努めている。また、館長等会議等における状況聴取のほか、監事や会計監査人との意見交換を通じて重要な課題の把握に努めている。平成 28 年度は「独立行政法人国立美術館リスク管理規則」を制定し、リスク管理委員会を設置した。

このほか、平成 28 年度において取り組んだ課題に対する主な対応は以下のとおりである。

- ・理事長が法人又は各館に係る諸課題に適切、かつ迅速に対処するために必要な経費として、理事長裁量経費を計上した。
- ・館長等会議等において、美術作品購入費の用途について協議し、海外への流出可能性など緊急度の高さ、作品の品質と希少性等の観点から、美術作品の購入を検討した。
- ・各館において消防訓練を実施し、地震や火災への対応を想定した準備を整え、危機管理の対策を講じ、不測の事態にも柔軟に対応できるよう危機管理の意識を持つように徹底した。また、第 42 回先進国首脳会議（平成 28 年 5 月 26 日～27 日、通称：伊勢志摩サミット）開催に際して手荷物検査を実施する等、各館において警備体制を強化した。

## (2) 情報管理の安全性向上

情報セキュリティに配慮して各システム・ネットワークの運用を継続した。

必要な情報セキュリティ水準の確保のため、セキュリティポリシーの見直しを行い、「内閣サイバーセキュリティセンター（NISC）統一基準」と対応するよう平成 28 年度に「独立行政法人国立美術館情報セキュリティポリシー」を制定した。

また、頻発している情報漏えい、情報改ざん等につながる悪意のあるソフトウェアが混入している添付ファイルが付されているメール等への注意喚起等を適時適切に行うとともに、職員研修等を実施した。

## (3) 内部統制・ガバナンスの強化に係る取組状況の検証

### ① 監事監査

監事 2 名が館長等会議その他重要な会議に出席するほか、役職員から事業の報告を聴取し、重要な決裁書類等を閲覧し、財務及び業務についての状況を調査している。さらに、会計監査人から会計監査人の監査方法及びその結果について説明を受け、会計帳簿等の調査を行い、財務諸表、事業報告書及び決算報告書について検討を加え、いずれも適正であることを確認するとともに、業務の執行に関する法令遵守等の状況についても確認している。また、平成 28 年度においては 6 月 13 日及び 23 日に定期監査を実施したほか、各館に対し臨時監査を以下のとおり実施した。

平成 28 年 11 月 25 日：京都国立近代美術館，国立国際美術館

平成 29 年 1 月 31 日：東京国立近代美術館（本館・工芸館），国立新美術館

平成 29 年 3 月 3 日：国立西洋美術館，東京国立近代美術館（フィルムセンター）

なお、監査結果報告については速やかに法人内に周知している。また、報告書において意見が付された場合には、改善提案を「監査結果報告書の監査意見に対する措置状況について（通知）」として監事に報告している。

このほか、「独立行政法人，特殊法人等監事連絡会」総会及び第 3 部会へ監事 2 名が参加している。

### ② 内部監査

東京国立近代美術館，京都国立近代美術館，国立西洋美術館，国立国際美術館及び国立新美術館を対象として、契約方法の妥当性，見積徴収方法，旅費・諸謝金の取扱い等について、2～3 人の監査員が以下のとおり実地監査に当たった。

平成 28 年 8 月 26 日：国立新美術館

平成 28 年 8 月 29 日：東京国立近代美術館

平成 28 年 8 月 30 日：国立西洋美術館

平成 28 年 9 月 1 日：国立国際美術館

平成 28 年 9 月 2 日：京都国立近代美術館

なお、監査結果報告については速やかに理事長，理事，各館長へ周知している。また、監査結果報告書において意見が付された場合には、改善措置を講じている。

## 2 施設・設備に関する計画

東京国立近代美術館基幹設備安全対策等工事，東京国立近代美術館工芸館外壁・屋根廻り塗装工事，東京国立近代美術館フィルムセンター電気設備改修他工事，京都国立近代美術館ハロン消火器設備他更新工事，国立国際美術館自動火災報知装置等改修工事，国立国際美術館電話交換機設備等更新工事，国立新美術館空調機等整備等工事，国立新美術館非常用蓄電池設備更新工事及び国立新美術館西側ガラスカーテンウォールへの開閉式遮光カーテン設置工事について平成 28 年度に竣工した。さらに、平成 19 年度からの継続事業として国立新美術館の土地購入を行った。

### 3 人事に関する計画

#### (1) 職員の研修等

##### ① 職員研修の実施（括弧内は参加人数）

- ・「平成 28 年度接遇・クレーム・仕事の進め方研修」（21 人）
- ・「平成 28 年度ハラスメント研修」（24 人）
- ・「平成 28 年度ビジネス文書研修」（20 人）
- ・「情報セキュリティ研修」（①7 月 22 日：24 人，②10 月 25 日：国立国際美術館全職員）
- ・「平成 28 年度メンタルヘルス研修」（24 人）

このほか、産業医による個別面談により、職員のメンタルヘルスカケアを実施した。

##### ② 外部の研修への派遣（括弧内は参加人数）

###### ア 東京国立近代美術館

- ・東京大学主催「平成 28 年度東京大学係長級研修初任者」（1 人）
- ・国立公文書館主催「平成 28 年度公文書管理研修 I」（3 人）
- ・放送大学「修士科目生」（2 人）
- ・放送大学「科目履修生」（9 人）
- ・財務省会計センター主催「第 54 回政府関係法人会計事務職員研修」（1 人）
- ・平成 28 年度関東・甲信越地区国立大学法人等係長研修（1 人）

###### イ 京都国立近代美術館

- ・文部科学省大臣官房文教施設企画部「平成 28 年度学校等における省エネルギー対策に関する講習会」（1 人）
- ・文部科学省生涯学習政策局「平成 28 年度学芸員等在外派遣研修」（1 人）
- ・総務省近畿管区行政評価局「情報公開・個人情報保護制度の運用に関する研修会」（1 人）
- ・人事院近畿事務局「第 75 回近畿地区中堅係員研修」（1 人）
- ・東京文化財研究所「平成 28 年度保存担当学芸員研修」（1 人）

###### ウ 国立西洋美術館

- ・平成 28 年度東京都・台東区国民保護（大規模テロ災害対処）訓練（1 人）
- ・東京大学主催「平成 28 年度東京大学次世代リーダー育成研修」（1 人）
- ・上野警察署主催「テロ対処に関する講習会」（21 人）

###### エ 国立国際美術館

- ・財務省「第 45 回会計事務職員契約管理研修」（1 人）
- ・厚生労働省大阪労働局「公正採用選考人権啓発セミナー」（1 名）
- ・大阪大学主催「平成 28 年度大阪大学係長研修」（2 人）
- ・大阪大学主催「平成 28 年度大阪大学 生涯生活設計セミナー（1 人）
- ・人事院主催「第 47 回近畿地区係長研修」（1 人）
- ・中之島まちみらい協議会「2016 年度第 1 回，第 2 回中之島エリアの防災ワークショップ」（2 人）

###### オ 国立新美術館

- ・国立公文書館主催「平成 28 年度公文書管理研修 I」（1 人）
- ・文部科学省生涯学習政策局「平成 28 年度学芸員等在外派遣研修」（1 人）
- ・東京文化財研究所「平成 28 年度保存担当学芸員研修」（1 人）
- ・公益財団法人文化財虫菌害研究所「文化財 IPM 実践のための研修会」（1 人）
- ・全国美術館会議「第 31 回学芸員研修会」（10 人）
- ・放送大学「科目履修生」（1 人）

## (2) 人員に係る指標

### 職種別人員の増減状況（過去5年分）

（単位：人）

職種	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
定年制研究系職員	54	50	50	49	55
定年制事務系職員	45	49	47	49	48
定年制技能・労務系職員	3	2	2	2	1
指定職相当職員	1	2	2	2	2

「公務員の給与改定に関する取扱いについて（平成18年10月17日閣議決定）」に基づき、公務員の例に準じて措置，対処している。

事務系職員については，文化庁，国立大学法人及び他の独立行政法人との間で定期的な人事交流を行い，組織の効率化と個々の職員の能力の発揮とその向上を考慮して人事配置を行った。

また，本部事務局情報企画室にアソシエイトフェロー（1名）を新規配置するとともに，本部事務局ファンドレイジング担当に特定専門職員（1名）を新規配置した。

## 4 関連公益法人

該当なし。

別表1 所蔵作品展

館名	開催日数	展示替回数		出品数 (点)	入館者数		満足度※		
		実績 (回)	目標 (回程度)		実績	目標	実績	目標	
東京国立近代美術館	本館	290	4	4	957	173,218	184,000	93.3%	88.4%
	工芸館	128	3	3	495	30,459	40,500	90.8%	88.5%
京都国立近代美術館	【注1】302	5	5	864	124,473	118,000	51.8%	54.8%	
国立西洋美術館	【注2】302	6	5	1,062	712,666	321,500	90.0%	89.0%	
国立国際美術館	【注3】146	2	3	126	107,843	102,500	55.7%	55.7%	
計	1,168	20	20	3,504	1,148,659	766,500	71.2%	67.4%	

※「満足度」とは、アンケートによる満足度調査における「良い」以上の回答率を指す。以下同じ。

【注1】1月5日からを予定していた年始の開館を1月3日からとし、京都マラソン開催に伴い臨時休館した(2月19日)ため、開催日数が当初予定の301日から変更となった。

【注2】臨時開館し(1月10日)、所蔵作品展の開幕を1日早めた(2月10日)ため、開催日数が当初予定の300日から変更となった。

【注3】暴風警報発令により臨時休館した(9月20日)ため、開催日数が当初予定の147日から変更となった。

別表2 企画展

※以下の表の( )内は会期全体の数値、(継続)は平成29年度に継続開催する展覧会を意味する。

館名	展覧会名	開催日数	入館者数		満足度		企画観点	共催者
			実績	目標	実績	目標		
東京国立近代美術館 (本館)	①安田靉彦展	41 (50)	62,822 (70,189)	82,000 (99,000)	96.0%	89.8%	ニ	朝日新聞社, BS朝日
	②声ノマ 全身詩人, 吉増剛造展	54	14,642	19,000	92.0%		ロ,ニ	—
	③トーマス・ルフ展	66	47,588	78,000	93.8%		イ	読売新聞社, ぴあ, WOWOW
	④瑛九 1935-1937 闇の中で「リアル」をさがす	68	20,750	13,000	88.6%		ニ	—
	⑤endless 山田正亮の絵画	56	13,805	19,000	90.9%		ニ	京都国立近代美術館
	⑥茶碗の中の宇宙 樂家一子相伝の芸術	17 (63)	14,450 (継続)	22,000 (82,000)	未実施		ロ	京都国立近代美術館, NHK, NHKプロモーション, 日本経済新聞社
	計	302	174,057	233,000	92.2%		89.8%	—
東京国立近代美術館 (工芸館)	①芹沢銈介のいろは一金子量重コレクション	35 (59)	12,489 (18,260)	6,000 (11,000)	93.1%	88.0%	ニ	—
	②革新の工芸—“伝統と前衛”, そして現代—	68	9,948	10,000	81.5%		イ,ロ	—
	③マルセル・ブロイヤーの家具: Improvement for good	26 (60)	12,626 (継続)	8,000 (18,000)	未実施		イ	—
	計	129	35,063	24,000	87.2%		88.0%	—
京都国立近代美術館	①オーダーメイド: それぞれの展覧会	45	10,012	15,000	68.7%	77.6%	ロ	—
	②キューバの映画ポスター 竹尾ポスターコレクションより【注1】	46	31,936	30,000	—		ロ,ニ	フィルムセンター
	③ポール・スミス展 HELLO, MY NAME IS PAUL SMITH	39	72,689	42,000	84.6%		イ,ロ	読売新聞社, 関西テレビ放送, ぴあ

館名	展覧会名	開催 日数	入館者数		満足度		企画 観点	共催者
			実績	目標	実績	目標		
京都国立近代美術館	④あの時みんな熱かった！ アンフォルメルと日本の 美術	39	9,224	10,000	63.4%	77.6%	ニ	—
	⑤メアリー・カサット展	60	60,681	40,000	80.5%		イ,ニ	NHK京都放送局, NHKプ ラネット近畿, 読売新聞社
	⑥茶碗の中の宇宙 樂家一 子相伝の芸術【注2】	45	44,758	50,000	78.7%		ロ	東京国立近代美術館, NHK 京都放送局, NHKプラネッ ト近畿, 京都新聞, 日本経 済新聞社
	⑦endless 山田正亮の絵画	27 (35)	4,451 (継続)	7,000 (10,000)	未実施		ニ	東京国立近代美術館
	計	255	201,815	164,000	78.2%	77.6%	/	開催数7回 (目標: 6回程度)
国立西洋美術館	①日伊国交樹立150周年記 念 カラヴァッジョ展	64 (92)	312,171 (394,006)	350,000 (500,000)	97.0%	79.5%	イ	NHK, NHKプロモーショ ン, 読売新聞社
	②聖なるもの, 俗なるもの メッケネムとドイツ初期 銅版画	64	78,239	35,000	87.0%		ニ	ミュンヘン州立版画素描館 , 東京新聞
	③クラナハ展—500年後 の誘惑【注3】	77	174,957	197,000	89.0%		イ,ロ ,ニ	ウィーン美術史美術館, TBS, 朝日新聞社
	④シャセリオー展—19世 紀フランス・ロマン主義 の異才【注4】	29 (80)	40,866 (継続)	38,000 (125,000)	未実施		ニ	TBS, 読売新聞社
	計	234	606,233	620,000	91.0%	79.5%	/	開催数4回 (目標: 4回程度)
国立国際美術館	①森村泰昌: 自画像の美術 史—「私」と「わたし」 が出会うとき	67	42,764	51,000	87.7%	71.0%	イ	朝日新聞社
	②田中一光ポスター展	67	34,771	14,000	81.3%		ホ	—
	③特別展 始皇帝と大兵馬 俑	79	230,599	124,000	89.2%		イ	陝西省文物局, 陝西省文物 交流中心, NHK大阪放送局 , NHKプラネット近畿, 朝 日新聞社
	④日伊国交樹立150周年特 別展 アカデミア美術館 所蔵 ヴェネツィア・ル ネサンスの巨匠たち	67	55,908	48,000	87.5%		イ,ニ	TBS, 朝日新聞社, MBS
	⑤THE PLAY since 1967 まだ見ぬ流れの彼方へ	67	30,105	14,000	47.5%		ニ	—
	⑥クラナハ展—500年後 の誘惑	54 (68)	45,115 (継続)	72,000 (91,000)	未実施		イ	ウィーン美術史美術館, T B S, M B S, 朝日新聞社
	⑦おとろえぬ情熱, 走る筆。 ピエール・アレシンスキ ー展	54 (62)	18,066 (継続)	19,000 (22,000)	未実施		ニ	毎日新聞社
	計	455	457,328	342,000	78.8%		71.0%	/

館名	展覧会名	開催 日数	入館者数		満足度		企画 観点	共催者
			実績	目標	実績	目標		
国立新美術館	①はじまり、美の饗宴展 すばらしき大原美術館コ レクション	4 (66)	8,349 (72,804)	4,000 (72,000)	93.3%	86.6%	ホ	公益財団法人大原美術館, NHKプロモーション
	②MIYAKE ISSEY 展: 三 宅一生の仕事【注5】	65 (79)	121,239 (140,607)	62,000 (76,000)	95.2%		イ,ロ ,ハ	公益財団法人 三宅一生デ ザイン文化財団, 株式会社 三宅デザイン事務所, 株式 会社 イッセイ ミヤケ
	③オルセー美術館・オラン ジュリー美術館所蔵 ル ノワール展	104	667,897	360,000	93.7%		イ	オルセー美術館, オランジ ュリー美術館, 日本経済新 聞社
	④日伊国交樹立150周年特 別展 アカデミア美術館 所蔵 ヴェネツィア・ル ネサンスの巨匠たち	79	116,950	180,000	91.9%		イ	TBS, 朝日新聞社
	⑤ダリ展	78	388,557	250,000	82.7%		イ	ガラ＝サルバドール・ダリ 財団, サルバドール・ダリ 美術館, 国立ソフィア王妃 芸術センター, 読売新聞社, 日本テレビ放送網, BS日テ レ
	⑥未来を担う美術家たち 19th DOMANI・明日展 文化庁新進芸術家海外研 修制度の成果	32	19,840	13,000	91.0%		ハ	文化庁
	⑦国立新美術館開館10周 年 草間彌生 わが永遠 の魂【注6】	34 (80)	194,256 (継続)	47,000 (112,000)	未実施		ロ	朝日新聞社, テレビ朝日
	⑧国立新美術館開館10周 年 チェコ文化年事業 ミュシャ展【注7】	21 (79)	135,199 (継続)	55,000 (204,000)	未実施		ニ	プラハ市, プラハ市立美術 館, NHK, NHKプロモー ション, 朝日新聞社
	計	417	1,652,287	971,000	91.3%		86.6%	
合計	1,792	3,126,783	2,354,000	85.3%	82.1%		開催数35回 (目標: 34回程度)	

- 【注1】 コレクション・ギャラリーの一部を使って開催した展覧会のため、開催日数、入館者数及び目標数はそれぞれの合計に含めない。また、同様の理由から、この展覧会に限った満足度調査を実施することが困難であるため、満足度調査を実施していない。
- 【注2】 1月5日からを予定していた年始の開館を1月3日からとしたため、開催日数が当初予定の43日から変更となった。
- 【注3】 臨時開館した(1月10日)ため、開催日数が当初予定の76日から変更となった。
- 【注4】 平成29年度に臨時開館を予定している(5月1日)ため、会期全体の開催日数が79日から変更となっている。
- 【注5】 臨時開館した(5月6日)ため、会期全体の開催日数が78日から変更となった。
- 【注6】 中学生以下の子どもとその保護者を対象として特別開館日を設けた(3月28日)ため、開催日数が当初予定の33日から変更となった。また、平成29年度に臨時開館を予定している(5月2日)ため、会期全体の開催日数が78日から変更となっている。
- 【注7】 平成29年度に臨時開館を予定している(5月2日)ため、会期全体の開催日数が79日から変更となっている。

別表3 映画上映会（フィルムセンター）

タイトル	会場	上映 日数	上映 回数	入館者数		満足値		企画 観点	共催者
				実績	目標	実績	目標		
①生誕100年 木下忠司の映画音楽	大ホール	60	120	18,352	14,500	86.0%	85.4%	ニ	—
②EU フィルムデーズ 2016	大ホール	20	58	11,458	9,500	95.9%		ホ	駐日欧州連合代表 部及びEU加盟国大 使館・文化機関
③生誕100年 映画監督 加藤泰	大ホール	48	96	17,684	14,500	95.5%		ニ	—
④第38回 PFF	大ホール	12	43	4,533	4,000	96.1%		ロ,ニ	PFF パートナーズ, 株式会社びあ,株式 会社ホリプロ,日活 株式会社,公益財団 法人ユニジャパン
⑤シネマの冒険 闇と音楽 2016 スウェーデン映画協会 コレクション	大ホール	6	12	1,416	1,500	94.7%		イ,ニ	スウェーデン映画 協会
⑥UCLA 映画テレビアーカイブ 復元映画コレクション【注1】	大ホール	11	24	4,458	4,300	87.9%		イ,ニ	東京国際映画祭,モ ーション・ピクチャ ー・アソシエーショ ン(MPA),株式会 社日本国際映画著 作権協会
⑦NFC 所蔵外国映画選集 2016	大ホール	12	24	3,264	3,000	95.2%		ニ	—
⑧DEFA70周年 知られざる東 ドイツ映画	大ホール	24	48	6,210	6,500	96.0%		ニ	DEFA 財団, ドイ ツ・キネマテーク
⑨自選シリーズ 現代日本の映画 監督5 押井守	大ホール	12	24	4,005	3,500	92.7%		ハ,ニ	—
⑩京橋映画小劇場 No. 33 アンコール特集:2015年度上映 作品より	小ホール	9	18	2,088	1,500	92.5%		ホ	—
⑪京橋映画小劇場 No. 34 ドキュメンタリー作家 羽田澄 子	小ホール	18	36	2,659	1,900	100.0%		ホ	—
計		232	503	76,127	64,700	94.0%	85.4%		開催数11回 (目標:13回程度)

【注1】共催者の東京国際映画祭, モーション・ピクチャー・アソシエーションから, 入館者数増加のために本祭会期後の週末上映回数を増やしたい旨の強い要望を受け, UCLA との協約上, 1作品の上映回数は決まっていることから, 平日火曜日の上映を1日(上映回数は2回)減らし, 土日を3回上映に変更した。その結果, 上映日数が当初予定の12日間から変更となった。

別表4 展覧会（フィルムセンター）

展覧会名	日数	入館者数		満足度		企画 観点	共催者
		実績	目標	実績	目標		
①写真展 映画館 映写技師/写 真家 中馬聰の仕事	74	4,747	4,000	88.3%	86.4%	ロ	—
②角川映画の40年	80	5,822	4,000	91.4%		ニ	—
③戦後ドイツの映画ポスター	59	4,419	4,000	89.0%		イ,ロ	京都国立近代美術 館
計	213	14,988	12,000	89.1%	86.4%		開催数3回 (目標:3回程度)

別表5 地方巡回展・巡回上映等

※以下の表の（ ）内は事業会期全体の数値

企画館	展覧会名	開催館	開催日数	入館者数
国立美術館 (担当館： 京都国立近代 美術館)	①国立美術館巡回展 煌めく名作たち	①山梨県立美術館	33	11,470
	①北海道立帯広美術館開館25周年記念・国立 美術館巡回展 国立美術館・煌めく名作た ち	②北海道立帯広美術館	33	4,975
	計		66	16,445
東京国立 近代美術館 (工芸館)	①東京国立近代美術館工芸館名品展 日本工 芸の100年—ペルシアの記憶から現代まで	①岡山市立オリエント美術 館	47	4,919
	①東京国立近代美術館工芸館名品展 日本工 芸の100年	②島根県立美術館	51	11,003
	②東京国立近代美術館工芸館名品展 近代工 芸案内	③石川県立美術館	48	12,365
	計		146	28,287
合計			212	44,732
企画館	タイトル	会場数	開催日数	入館者数
東京国立 近代美術館 (フィルムセンター)	①NFC 所蔵作品選集 MoMAK Films 2016	1	8	494
	②平成 28 年度優秀映画鑑賞推進事業	183	362 (延べ日数)	71,589
	③東京国際フォーラム+東京国立近代美術館 フィルムセンター 月曜シネサロン&トー ク	1	3	332
	④蘇ったフィルムたち 東京国立近代美術館 フィルムセンター復元作品特集	2	3	985
	⑤新千歳空港国際アニメーション映画祭 2016「日本アニメーション映画クラシッ クス」「政岡憲三を蘇らせる」	1	2	120
	⑥シネマの冒険 闇と音楽 2016 スウェー デン映画協会コレクション	1	4	271
	⑦第 13 回中之島映像劇場 極私的映画への 招待	1	2	157
	キューバの映画ポスター 竹尾ポスター コレクションより【注 1】	1	46	31,936
計		190	384	73,948

【注 1】 京都国立近代美術館のコレクション・ギャラリーの一部を使って開催した展覧会のため、会場数、開催日数及び入館者数はそれぞれの合計に含めない。

別表6 調査研究一覧

ア 東京国立近代美術館			
(本館)			
	調査研究テーマ	美術館活動への反映	連携機関
1	安田靉彦に関する研究	「安田靉彦展」を企画構成、開催、図録を発行	—
2	吉増剛造に関する研究	「声ノマ 全身詩人、吉増剛造展」を企画構成、開催、図録を発行	—
3	トーマス・ルフに関する研究	「トーマス・ルフ展」を企画構成、開催、図録を発行	金沢 21 世紀美術館
4	山田正亮に関する研究	「endless 山田正亮の絵画」を企画構成、開催、図録を発行	京都国立近代美術館
5	瑛九に関する研究	「瑛九 1935-1937 闇の中で「リアル」をさがす」を企画構成、開催、図録を発行	—
6	樂歴代に関する研究	「茶碗の中の宇宙 樂家一子相伝の芸術」を企画構成、図録を発行	京都国立近代美術館
7	日本の戦後の住宅建築に関する研究	「The Japanese House: Architecture and Life After 1945」(イタリア国立 21 世紀美術館にて開催)を企画構成	国際交流基金、イタリア国立 21 世紀美術館 (MAXXI)、パービカン・アート・ギャラリー
8	「MOMAT コレクション」展に関する研究	「MOMAT コレクション」を開催	—
9	「MOMAT コレクション 特集:春らんまんの日本画まつり」に関する研究	「MOMAT コレクション 特集:春らんまんの日本画まつり」を開催	—
10	「コレクションによる小企画 近代風景～人と景色、そのまにまに～ 奈良美智がえらぶ MOMAT コレクション」に関する研究	小企画展「近代風景～人と景色、そのまにまに～ 奈良美智がえらぶ MOMAT コレクション」を開催し小冊子を発行	—
11	野外彫刻の保存・修復に関する研究	多田美波《キアロスクーロ》(1979年)の洗浄・修復を実施	多田美波研究所
12	金属彫刻展示の安全性向上に関する研究	地震対策を踏まえた大型金属彫刻の安全な展示方法について協議	栃木県立美術館
13	デジタルカメラによる作品撮影及び画像アーカイブ構築のための撮影機材の比較研究	作品の調査撮影とデータ比較を実施	西川茂(写真家)
14	国立美術館の情報資源と国立情報学研究所による WebcatPlus、文化庁文化遺産オンライン等に掲載の文化情報資源を、「想-IMAGINE」において連携して検索・閲覧できるシステムの公開	国立美術館「想-IMAGINE」の公開	国立情報学研究所、国立国会図書館
15	アート・ディスカバリー・グループ目録(Art Discovery Group Catalogue)への参加の可能性を検討する	国立美術館所蔵図書資料等の書誌情報の世界発信	—
16	作品の来歴、展覧会歴、文献歴など歴史的情報をもつ所蔵作品データの拡充を図り、併せて国立美術館所蔵作品総合目録での公開を目指す	国立美術館所蔵作品情報の精緻化と世界標準化	—
17	「海外日本美術資料専門家(司書)の招へい・研修・交流事業 2016」(略称:JAL プロジェクト)	海外日本美術資料専門家(司書)との招へい・研修・交流及び公開ワークショップの開催	国立新美術館、東京文化財研究、国際日本文化研究センター、国際交流基金、東京国立博物館、奈良国立博物館、立命館大学アトリサーチセンター、国文学研究資料館及びヴェネツィア東洋美術館等招へい者所属 9 機関等
18	児童生徒を対象とする所蔵作品の鑑賞教育の推進	休館日を使った都中美教員への1日鑑賞教育研修	東京都画工作研究会、東京都中学校美術研究会

19	美術館の所蔵作品を活用した探究的な鑑賞教育プログラムの開発 (科研費 基盤B 研究代表者: 一條彰子, 平成28年~平成30年)	オランダ美術館教育活動の調査と発信準備	オランダ国立美術館, アムステルダム市立美術館, ユトレヒト中央博物館ほか
20	近代日本のタイムカプセル研究: ハーバード大学アーカイブズの成立との関係性を中心に(科研費 挑戦的萌芽研究 研究代表者: 坂口英伸, 平成28年~平成29年)	資料のアーカイブ化の参考事例として活用	—
21	建築の表象とグラフィックデザイン 建築展の分析を中心に (DNP文化振興財団 グラフィック文化に関する学術研究助成 研究代表者: 保坂健二朗, 平成28年11月~平成31年3月)	平成29年度に企画展「日本の家 1945年以降の建築と暮らし」を開催する際にシンポジウムを開催予定	菊地敦己(東北芸術工科大学客員教授)
<b>(工芸館)</b>			
	調査研究テーマ	美術館活動への反映	連携機関
1	芹沢銈介	「芹沢銈介のいろは一金子量重コレクション」を企画構成, 開催, 作品調査, イベント開催	静岡市立芹沢銈介美術館, 日本民藝館
2	現代の工芸—伝統工芸とオブジェ	「革新の工芸— 伝統と前衛”, そして現代—」を企画構成, 開催, 図録を発行	—
3	樂家歴代と十五代吉左衛門	「茶碗の中の宇宙 樂家一子相伝の芸術」を企画構成, 開催補助	京都国立近代美術館
4	近代工芸と茶の湯の器	「近代工芸と茶の湯Ⅱ」を企画構成, 開催, イベント開催	内田デザイン研究所
5	近代工芸の歴史と展開	「東京国立近代美術館工芸館名品展」(工芸館巡回展)を企画構成, 開催	岡山市立オリエント美術館, 島根県立美術館
6	マルセル・ブロイヤーとモダン・デザインに関する調査研究	「マルセル・ブロイヤーの家具: Improvement for good」を企画構成, 開催, 図録を発行	ミサワホーム総合
7	現代「手芸」文化に関する研究	平成31年度展覧会「手芸(仮称)」開催のための事前調査	国立民族学博物館
8	児童を対象とする工芸作品の鑑賞教育の推進, その1	「こども+おとな工芸館 ナニデキテルノ?」の企画, 構成, 開催	東京都画工作研究会
9	児童を対象とする工芸作品の鑑賞教育の推進, その2	出張タッチ&トークの開催	文京区立小石川図書館, 港区立高輪図書館分室, 新宿区立四谷図書館, 練馬区立美術館
10	児童・生徒を対象とする工芸素材と技法の体験及び鑑賞教育の推進	陶芸ワークショップ開催	日本工芸会
11	20世紀前半の日本と中国・台湾・韓国とのデザイン/工芸の交流(科研費 基盤C 研究代表者: 木田拓也, 平成26年~平成28年)	研究紀要への論文投稿	—
<b>(フィルムセンター)</b>			
	調査研究テーマ	美術館活動への反映	連携機関
1	国際フィルム・アーカイブ連盟(FIAF)会員, その他同種機関, 現像所等からの情報に基づく, 未発見の日本映画フィルムの所在調査	映画フィルムの寄贈, 複製化等	FIAF会員, 国内外の同種機関, 現像所
2	文化庁との共同事業「近代歴史資料調査」, 文化庁美術館・歴史博物館重点分野推進事業の結果に基づき, 新たに残存が確認された映画フィルムの詳細調査	『日本南極探検』(田泉保直撮影, 1912年)デジタル復元版特別上映会, 及び映画フィルムの寄贈等	記録映画保存センター, 神戸映画保存ネットワーク, 早稲田大学演劇博物館
3	可燃性フィルムを含むフィルム映画及びデジタル映画の長期保管・保存・変換・登録, アナログ及びデジタル技術を活用した復元, 及び映写	『ジャズ娘誕生』(春原政久, 1957年)のデジタル復元等	FIAF会員, 国内外の同種機関, 映画研究教育機関, 美術館・博物館, 映像機器メーカー, 現像所等

4	映画におけるデジタル保存と活用	NFCシンポジウム「映画におけるデジタル保存と活用のためのシンポジウム」の開催等	FIAF会員、国内外の同種機関、映画研究教育機関、IT関連研究教育機関、映画製作会社、映画関連団体、放送局、映像機器メーカー、現像所、IT関連会社等
5	不明となっている所蔵作品の権利帰属等メタデータ	映画フィルムの購入、複製化や複製利用申請への対応等	映画製作会社等諸団体
6	映画の撮影及び現像時における技術データ	『時をかける少女』（大林宣彦、1983年）ニュープリント作成	映画製作会社、関連職能組合、現像所等
7	映画資料を整理するとともに、その画像をデジタル化し、活用することを目的とする事業	大藤信郎コレクションをデジタル化し、ウェブサイト「日本アニメーション映画クラシックス」を公開	—
8	木下忠司の映画音楽	企画上映「生誕100年 木下忠司の映画音楽」開催	—
9	ヨーロッパ諸国の映画	共催企画上映「EUフィルムデーズ2016」開催	駐日欧州連合代表部及びEU加盟国大使館・文化機関
10	近年逝去した映画人	2017年度の企画上映「特集・逝ける映画人を偲んで2015-2016」に反映	—
11	日本の自主映画	共催企画上映「第38回 PFF」開催	PFFパートナーズ、公益財団法人ユニジャパン
12	アメリカ映画の復元作並びに70mm映画	共催企画上映「UCLA映画テレビアーカイブ復元映画コレクション」開催	東京国際映画祭、モーション・ピクチャー・アソシエーション(MPA)、株式会社日本国際映画著作権協会
13	スウェーデン映画	共催企画上映「シネマの冒険 闇と音楽2016 スウェーデン映画協会コレクション」開催	スウェーデン映画協会
14	映画監督加藤泰	共催企画「生誕100年 映画監督 加藤泰」開催	—
15	現代日本の映画監督	企画上映「自選シリーズ 現代日本の映画監督5 押井守」開催	—
16	東ドイツ映画	共催企画上映「DEFA70周年 知られざる東ドイツ映画」開催	DEFA財団、ドイツ・キネマテーク
17	ドキュメンタリー作家 羽田澄子	企画上映「京橋映画小劇場 No. 34 ドキュメンタリー作家 羽田澄子」開催	—
18	日本の映画館文化	「写真展 映画館 映写技師／写真家・中馬聰の仕事」を企画構成、開催	—
19	角川映画	展覧会「角川映画の40年」を企画構成、開催	—
20	東西ドイツの映画ポスター	展覧会「戦後ドイツの映画ポスター」を企画構成、開催、図録を発行	京都国立近代美術館、ドイツ映画研究所（フランクフルト）
21	70ミリ映画のアーカイブにむけた基盤形成（科研費 基盤C 研究代表者：富田美香、平成28年～平成30年）	2017年度の教育普及事業に反映予定	—
22	「褪色したカラー映画の復元と長期保存に関する基礎的研究」（科研費 若手B 研究代表者：大傍正規、平成28年～平成30年）	2017年度の復元事業等に反映予定	—
<b>イ 京都国立近代美術館</b>			
	調査研究テーマ	美術館活動への反映	連携機関
1	コレクションの再配置及び鑑賞プログラムに関する調査研究	「オーダーメイド：それぞれの展覧会」の開催	—
2	キューバの映画ポスター	「キューバの映画ポスター 竹尾ポスターコレクションより」の開催	フィルムセンター、株式会社竹尾、多摩美術大学美術館
3	ポール・スミス及びデザインにおけるクリエーション・プロセスの分析に関する研究	「ポール・スミス展 HELLO, MY NAME IS PAUL SMITH」の開催	デザイン・ミュージアム、ブリティッシュ・カウンシル
4	日本美術の熱き時代	「あの時みんな熱かった！ アンフォルメルと日本の美術」の開催	パレ・デ・ボザール（ベルギー）

5	メアリー・カサット及び印象派の女性画家に関する調査研究	「メアリー・カサット展」の開催	横浜美術館
6	楽歴代に関する研究	「茶碗の中の宇宙 楽家一子相伝の芸術」開催	東京国立近代美術館
7	山田正亮に関する研究	「endless 山田正亮の絵画」の開催	東京国立近代美術館
8	七彩に集った作家たちに関する研究	小企画「キュレトリアル・スタディズ 11：七彩に集った作家たち」の開催	株式会社七彩，京都服飾文化研究財団
9	東西ドイツの映画ポスター	「戦後ドイツの映画ポスター」の開催	フィルムセンター，DEFA 財団（ベルリン）
10	児童生徒を対象とした鑑賞教育	展覧会に関連したワークショップの開催	—
11	「近代美術工芸における『図案』と『図案家』をめぐる基礎的研究」（科研費 若手B 研究代表者：中尾優衣，平成25年～平成28年）	作品及び文献調査，研究紀要『CROSS SECTIONS—Vol.8』にて研究成果の一部を発表	—
12	「ニューヨーク時代のヨシダミノルの動向の調査研究」（公益財団法人ポーラ美術振興財団：美術館員の調査研究助成 研究代表者：平井章一，平成 28 年）	所蔵品作家についての調査研究	—
<b>ウ 国立西洋美術館</b>			
	調査研究テーマ	美術館活動への反映	連携機関
1	日伊国交樹立 150 周年記念 カラヴァッジョ展	展覧会及び講演会等の開催，図録の刊行	—
2	聖なるもの，俗なるもの メッケネムとドイツ初期銅版画	展覧会及び講演会等の開催，図録の刊行	ミュンヘン州立版画素描館
3	クラーナハ展—500 年後の誘惑	展覧会及び講演会等の開催，図録の刊行	ウィーン美術史美術館
4	シャセリオー展—19 世紀フランス・ロマン主義の異才	展覧会及び講演会等の開催，図録の刊行	ルーヴル美術館
5	日本・デンマーク外交関係樹立 150 周年記念 スケーエン：デンマークの芸術家村	展覧会及び講演会等の開催，図録の刊行	スケーエン美術館
6	旧松方コレクションを含む松方コレクション全体	作品収集，作品及び文献調査，所蔵作品展・企画展，刊行物，講演発表，解説等	—
7	中世末期から 20 世紀初頭の西洋美術	作品収集，作品及び文献調査，所蔵作品展・企画展，刊行物，講演発表，解説等	—
8	所蔵版画作品	作品収集，作品及び文献調査，所蔵作品展・企画展，刊行物，講演発表，解説等	—
9	美術館教育	教育普及プログラムを実施，鑑賞教育教材制作，インターンシップ，ボランティア指導，解説等	—
10	ル・コルビュジエによる国立西洋美術館本館の設計	教育普及プログラムの実施，文献及び図面調査	—
11	国立西洋美術館所蔵作品データベース（科研費 研究成果公開促進費（データベース）研究代表者：川口雅子 単年度申請）	国立西洋美術館所蔵作品データベースの構築 整備	—
12	「17 世紀オランダ美術の東洋表象研究」（科研費 基盤研究 A 研究代表者：幸福輝，平成 24 年～平成 28 年）	作品及び文献調査	東北大学
13	「10 年後の被災都市におけるミュージアムの教育プログラム—ニューオリンズを事例に」（科研費 基盤研究 C 研究代表者：横山佐紀，平成 27 年～平成 30 年）	作品及び文献調査	—
14	「在外松方コレクション資料の学術調査と美術品来歴研究」（科研費 基盤研究 B 研究代表者：馬淵明子，平成 28 年～平成 31 年）	作品及び文献調査	—
15	「美術作品や歴史資料における彩色の膠着材の同定—複数の分析法からのアプローチ」（科研費 基盤研究 C 研究代表者：高嶋美穂，平成 28 年～平成 30 年）	所蔵作品の保存のための基礎資料	筑波大学

エ 国立国際美術館			
	調査研究テーマ	美術館活動への反映	連携機関
1	所蔵作品	展覧会の企画構成, 作品の保存・修復	—
2	現代美術の動向	所蔵作品展の企画構成, 作品の収集活動	—
3	森村泰昌	「森村泰昌: 自画像の美術史—「私」と「わたし」が会うとき」を企画構成, 開催, 図録を発行	プーシキン美術館 (ロシア・モスクワ)
4	田中一光	「田中一光ポスター展」を企画構成, 開催	—
5	THE PLAY	「THE PLAY since1967 まだ見ぬ流れの彼方へ」を企画構成, 開催, 図録を発行	—
6	ピエール・アレシンスキー	「おとろえぬ情熱, 走る筆。ピエール・アレシンスキー」を企画構成, 開催, 図録を発行	Bunkamura ザ・ミュージアム
7	ライアン・ガンダー	平成 29 年度開催の「ライアン・ガンダー — この翼は飛ぶためのものではない」の調査	—
8	福岡道雄	平成 29 年度に開催予定の「福岡道雄 つくらない彫刻家」の調査, 企画構成, 開催, 図録の発行	和歌山県立近代美術館
9	安齊重男	平成 29 年度に開催予定の「態度が形になるとき—安齊重男による日本の 70 年代美術—」の調査	—
10	ボルタンスキー	平成 30 年度に開催予定の「ボルタンスキー展 (仮称)」の調査	国立新美術館, 長崎県美術館
11	美術館教育	『ジュニア・セルフガイド』, 『アクティビティ・シート』の発行, ワークショップ, 鑑賞ツアー, 各種鑑賞支援プログラムの実施	—
12	現代美術の保存修復	古橋悌二《LOVERS》(1994年) 作品を修復	京都市立芸術大学
13	国内外のキュレトリアルリサーチ	「開館40周年記念展「one after another (仮称)」」開催に資する国内外の美術動作の調査	現代美術センターCCA 北九州, 国際交流基金
14	ネオ・ラオホ, 及び旧東独絵画	「ネオ・ラオホ」の企画構成, 開催, 図録の発行	—
15	ウィーン分離派	「ウィーン・ミュージアム展 (仮)」の企画構成, 開催, 図録の発行	国立新美術館
オ 国立新美術館			
	調査研究テーマ	美術館活動への反映	連携機関
1	日本の現代美術の動向	「国立新美術館開館10周年 草間彌生 わが永遠の魂」の企画構成, 開催, 図録を発行, アーティスト・ファイル展を開催予定	—
2	海外の現代美術の動向	アーティスト・ファイル展を開催予定	—
3	ルノワール研究	「オルセー美術館・オランジュリー美術館所蔵 ルノワール展」を企画構成, 開催, 図録を発行	オルセー美術館, オランジュリー美術館
4	ヴェネツィア絵画の研究	「日伊国交樹立150周年特別展 アカデミア美術館所蔵 ヴェネツィア・ルネサンスの巨匠たち」を企画構成, 開催, 図録を発行	アカデミア美術館
5	ダリ研究	「ダリ展」を企画構成, 開催, 図録を発行	ガラ＝サルバドール・ダリ財団, サルバドール・ダリ美術館, 国立ソフィア王妃芸術センター
6	草間彌生研究	「国立新美術館開館 10 周年 草間彌生 わが永遠の魂」を企画構成, 開催, 図録を発行	—
7	ミュシャ研究	「国立新美術館開館 10 周年 チェコ文化年事業 ミュシャ展」を企画構成, 開催, 図録を発行	プラハ市立美術館

8	東南アジアの現代美術の動向	「サンシャワー：東南アジアの現代美術展 1980年代から現在まで」を開催予定	森美術館，国際交流基金
9	日本のマンガ，アニメ，ゲーム	「ニッポンのマンガ＊アニメ＊ゲーム バンコク展」を開催	タイ文化省芸術局，バンコク国立絵画館
10	日本のファッションとデザイン	ICOM-COSTUME への参加	ICOM COSTUME
11	美術館の教育普及事業（ワークショップ，鑑賞ガイド等）	『「オルセー美術館・オランジュリー美術館所蔵 ルノワール展」鑑賞ガイド』，『ダリ展ジュニア・ガイドブック』，『NHK ジュニアガイド ミュシャ展』，『やってみよう，アート 国立新美術館ワークショップ記録集 2011年4月・2017年3月』，Art-tastic Adventure: Workshop Reports April, 2011 - January, 2017 の刊行	—
12	戦後の日本の美術館等における展覧会データの収集及び公開	データベース「日本の美術展覧会開催実績 1945・2005」の公開	—
13	美術情報の収集・提供システム	展覧会情報検索システム「アートコモンズ」の公開	情報提供機関（日本国内の美術館・美術団体・画廊）
14	美術館におけるデジタル・アーカイブの構築	法人美術情報ゲートウェイシステムの構築	国立情報学研究所
15	日本の近・現代美術資料	アトライブラリー資料展示「ダダ100周年記念 『日本のダダ』をめぐって」及び資料コーナー「話のたね ダダ関連資料紹介—日本のダダを中心に—」，研究会「1960～70年代に見られる芸術表現の研究拠点形成と資料アーカイブの構築」の実施	在日スイス大使館，情報科学芸術大学院大学

別表7 展覧会図録における執筆

本稿が国立美術館の実績報告書であることに鑑み、共同研究・共同発表・共同執筆等における氏名及び職名については、ここでは基本的に国立美術館所属者のもののみを記載することとする。以下同様とする。

ア 東京国立近代美術館			
(本館)			
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	展覧会名
1	「吉増剛造と声について、のメモ」	保坂健二郎 (主任研究員)	声ノマ 全身詩人, 吉増剛造展
2	「世界の探求と写真家の変容」, シリーズ解説	増田玲 (主任研究員)	トーマス・ルフ展
3	「闇の中で「リアル」をさがす——山田光春旧蔵資料から読み解く 1935-1937年の瑛九」	大谷省吾 (美術課長)	瑛九 1935-1937 闇の中で「リアル」をさがす
4	「山田正亮と絵画」「編集されざるもの一年譜にかえて」	中林和雄 (副館長)	endless 山田正亮の絵画
5	「奈良美智のこぼれ」	蔵屋美香 (企画課長)	所蔵作品展小企画展「近代風景〜人と景色, そのまにまに〜 奈良美智がえらぶ MOMAT コレクション」
(工芸館)			
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	展覧会名
1	作家解説	今井陽子 (主任研究員)	革新の工芸—”伝統と前衛”,そして現代—
2	作家解説	高橋佑香子 (研究補佐員)	革新の工芸—”伝統と前衛”,そして現代—
3	作家解説	成田 暢 (客員研究員)	革新の工芸—”伝統と前衛”,そして現代—
4	作家解説	西岡梢 (工芸課研究補佐員)	革新の工芸—”伝統と前衛”,そして現代—
5	「伝統の革新と“伝統と前衛”という工芸の時代」, 各章リード文, 作家解説	諸山正則 (主任研究員)	革新の工芸—”伝統と前衛”,そして現代—
6	総論, 章解説, 作品解説, 年譜, 鑑賞ガイド	北村仁美 (主任研究員)	マルセル・プロイヤーの家具: Improvement for good
(フィルムセンター)			
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	展覧会名
1	作品解説	岡田秀則 (主任研究員)	戦後ドイツの映画ポスター
2	翻訳「ハンス・ヒルマンとの対話」	岡田秀則 (主任研究員)	戦後ドイツの映画ポスター
3	翻訳「ヘルムート・ブラーデとの対話」	岡田秀則 (主任研究員)	戦後ドイツの映画ポスター
イ 京都国立近代美術館			
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	展覧会名
1	作家略歴	池田祐子 (主任研究員)	キューバの映画ポスター 竹尾ポスター コレクションより
2	作家略歴	小倉実子 (主任研究員)	あの時みんな熱かった! アンフォルメルと日本の美術
3	「日本におけるアンフォルメルとその役割」, 章解説, 関連年表, 作家略歴	平井章一 (主任研究員)	あの時みんな熱かった! アンフォルメルと日本の美術
4	作家略歴	松原龍一 (学芸課長)	あの時みんな熱かった! アンフォルメルと日本の美術
5	作品解説及び英語論文翻訳	池田祐子 (主任研究員)	メアリー・カサット展

6	「カサットによる、アメリカのための近代美術コレクション—カサットの手紙から」、作品解説、コラム	牧口千夏 (主任研究員)	メアリー・カサット展
7	作品解説	小倉実子 (主任研究員)	茶碗の中の宇宙 樂家一子相伝の芸術
8	「茶碗の中の宇宙 樂家一子相伝の芸術」	松原龍一 (学芸課長)	茶碗の中の宇宙 樂家一子相伝の芸術
<b>ウ 国立西洋美術館</b>			
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	展覧会名
1	「〈マリア伝〉連作についての一考察：《ヴァインガルトン祭壇飾り》翼部パネルとの関係より」、章解説、作品解説	中田明日佳 (研究員)	聖なるもの、俗なるもの メッケネムとドイツ初期銅版画
2	「クラーナハ、その誘惑のアナクロニー」、章解説、作品解説	新藤淳 (研究員)	クラーナハ展—500年後の誘惑
3	「異国の香り—テオドール・シャセリオー」、章解説、作品解説	陳岡めぐみ (主任研究員)	シャセリオー展—19世紀フランス・ロマン主義の異才
4	「展覧会の趣旨と謝辞」	村上博哉 (副館長兼学芸課長)	所蔵作品展小企画展「日本・デンマーク外交関係樹立150周年記念 スケーエン：デンマークの芸術家村」
<b>エ 国立国際美術館</b>			
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	展覧会名
1	「森村泰昌：自画像の美術史—「私」と「わたし」が出会うとき」 解説	植松由佳 (主任研究員)	森村泰昌：自画像の美術史—「私」と「わたし」が出会うとき
2	「写真展「ラデカルナ意志のスマイル」(1985年7月2日～7日、ギャラリー16、京都)資料」、年譜	植松由佳 (主任研究員)	森村泰昌：自画像の美術史—「私」と「わたし」が出会うとき
3	論考「プレイ、49年の歩み」ほか、章解説	橋本梓 (主任研究員)	THE PLAY since1967 まだ見ぬ流れの彼方へ
4	「飼い慣らされた非合理—ヨーゼフ・ボイスによるクラーナハ」	福元崇志 (任期付研究員)	クラーナハ展—500年後の誘惑
5	「書とデッサンの身体性—ピエール・アレシンスキーと日本の交差」	山梨俊夫 (館長)	おとろえぬ情熱、走る筆。ピエール・アレシンスキー展
<b>オ 国立新美術館</b>			
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	展覧会名
1	作品解説	長屋光枝 (主任研究員)	オルセー美術館・オランジュリー美術館所蔵 ルノワール展
2	作品解説、年表	長谷川珠緒 (研究補佐員)	オルセー美術館・オランジュリー美術館所蔵 ルノワール展
3	「『悲しい絵を描かなかった唯一の偉大な画家』ルノワールと文学者の交流」、章解説、作品解説、文献	横山由季子 (アソシエイトフェロー)	オルセー美術館・オランジュリー美術館所蔵 ルノワール展
4	関連年表	西美弥子 (研究補佐員)	日伊国交樹立150周年特別展 アカデミア美術館所蔵 ヴェネツィア・ルネサンスの巨匠たち
5	「17世紀フランスにおけるヴェネツィア派受容の様相—「色彩論争とティツィアーノ」」、「ヴェネツィア・ルネサンス絵画に関する主要参考文献(1960年以降)」	宮島綾子 (主任研究員)	日伊国交樹立150周年特別展 アカデミア美術館所蔵 ヴェネツィア・ルネサンスの巨匠たち
6	作品解説、日本語文献	小山祐美子 (研究補佐員)	ダリ展
7	「広島・長崎への原爆投下とダリ」、作品解説	南雄介 (副館長兼学芸課長)	ダリ展
8	作品解説、日本語文献	武笠由以子 (研究補佐員)	ダリ展
9	作品解説	山田由佳子 (主任研究員)	ダリ展

10	年譜中「草間彌生の自筆文献」，主要文献	中江花菜 (研究補佐員)	国立新美術館開館10周年 草間彌生 わ が永遠の魂
11	「草間彌生による草間彌生の創造と再創造」	南雄介 (副館長兼学芸課長)	国立新美術館開館10周年 草間彌生 わ が永遠の魂
12	年譜中「草間彌生 展覧会歴／略歴」	山田由佳子 (主任研究員)	国立新美術館開館10周年 草間彌生 わ が永遠の魂
13	章解説	米田尚輝 (研究員)	国立新美術館開館10周年 草間彌生 わ が永遠の魂
14	関連年表，参考文献	西美弥子 (研究補佐員)	国立新美術館開館10周年 チェコ文化年 事業 ミュシヤ展
15	コラム「1900年パリ万国博覧会」，作品解説	宮島綾子 (主任研究員)	国立新美術館開館10周年 チェコ文化年 事業 ミュシヤ展
16	「世紀転換期のナショナル・アイデンティティを描く ——1900年パリ万国博覧会ボスニア・ヘルツェゴ ヴィナ館とフィンランド館の壁画」，作品解説	本橋弥生 (主任研究員)	国立新美術館開館10周年 チェコ文化年 事業 ミュシヤ展

別表 8 研究紀要における執筆

ア 東京国立近代美術館				
(工芸館)				
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名	発行年月日
1	大連における中国陶磁の研究—大正期の小森忍と旬雅会のネットワーク	木田拓也 (主任研究員)	『東京国立美術館研究紀要』21号	H29.3.31
(フィルムセンター)				
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名	発行年月日
1	「大藤信郎コレクション—目録とデジタル化」	岡田秀則 (主任研究員) 中西智範 (研究員) 佐崎順昭 (研究員)	『東京国立美術館研究紀要』21号	H29.3.31
イ 京都国立近代美術館				
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名	発行年月日
1	「上野リチのテキスタイル・デザイン～ウィーン工房から京都へ」	池田祐子 (主任研究員)	京都国立近代美術館研究論集『CROSS SECTIONS —Vol.8』	H29.3.31
2	「澤田宗山に関する一試論 —図案集を手がかりに」	中尾優衣 (研究員)	京都国立近代美術館研究論集『CROSS SECTIONS —Vol.8』	H29.3.31
3	「田村宗立研究—先行研究と所蔵資料の考察—」	平井啓修 (研究員)	京都国立近代美術館研究論集『CROSS SECTIONS —Vol.8』	H29.3.31
4	「ラウンドテーブル：『マヴォ』とフロリアン・プムヘスル」	牧口千夏 (主任研究員)	京都国立近代美術館研究論集『CROSS SECTIONS —Vol.8』	H29.3.31
5	「写真の〈原点〉再考 —ヘンリー・F・トルボット『自然の鉛筆』から」	牧口千夏 (主任研究員)	京都国立近代美術館研究論集『CROSS SECTIONS —Vol.8』	H29.3.31
6	「出張授業「和食の盛りつけを学び、おもてなしの工夫をしよう」を振り返って」	松山沙樹 (特定研究員)	京都国立近代美術館研究論集『CROSS SECTIONS —Vol.8』	H29.3.31
7	巻頭あいさつ	柳原正樹 (館長)	京都国立近代美術館研究論集『CROSS SECTIONS —Vol.8』	H29.3.31
ウ 国立西洋美術館				
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名	発行年月日
1	「1630-40年代のバリとラ・トゥール——ラ・トゥールのパリ滞在周辺と同地での評価」	秋元優季 (研究補佐員)	『国立西洋美術館研究紀要』No. 21	H29.3.31
2	「ロンドンに残された松方コレクション——パンテクニカン倉庫保管作品をめぐる資料調査報告書」	川口雅子 (主任研究員)	『国立西洋美術館研究紀要』No. 21	H29.3.31
3	「国立西洋美術館所蔵 モーリス・ドニの素描目録」	袴田紘代 (研究員)	『国立西洋美術館研究紀要』No. 21	H29.3.31
エ 国立新美術館				
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名	発行年月日
1	エドワード・ホッパーの『光』と『陰』そして…… (中)	青木保 (館長)	『NACT Review 国立新美術館研究紀要』第3号	H28.11.25
2	「美術館図書室での10年間」	阿部陽子 (研究補佐員)	『NACT Review 国立新美術館研究紀要』第3号	H28.11.25

3	「マン・レイ《天文台の時刻に一恋人たち》に関する一考察——シュルレアリスムとモードにおける唇のイメージ」	小山祐美子 (研究補佐員)	『NACT Review 国立新美術館研究紀要』 第3号	H28.11.25
4	「美術資料をめぐる回想 杉浦康平氏に聞く—1960年代の東京画廊のカタログデザインを中心として」	伊村靖子 (客員研究員)	『NACT Review 国立新美術館研究紀要』 第3号	H28.11.25
5	「美術資料をめぐる回想 杉浦康平氏に聞く—1960年代の東京画廊のカタログデザインを中心として」	長名大地 (研究補佐員)	『NACT Review 国立新美術館研究紀要』 第3号	H28.11.25
6	アーティスト・ワークショップ 「鉄・形・音 手と目と耳を結ぶ」実施報告	澤田将哉 (研究補佐員)	『NACT Review 国立新美術館研究紀要』 第3号	H28.11.25
7	「《室内》シリーズ(1940年)の『習作プリント』と長谷川三郎の写真作品」	谷口英理 (特定研究員)	『NACT Review 国立新美術館研究紀要』 第3号	H28.11.25
8	「美術資料をめぐる回想 杉浦康平氏に聞く—1960年代の東京画廊のカタログデザインを中心として」	谷口英理 (特定研究員)	『NACT Review 国立新美術館研究紀要』 第3号	H28.11.25
9	「MIYAKE ISSEY 展：三宅一生の仕事」関連イベント	西美弥子 (研究補佐員)	『NACT Review 国立新美術館研究紀要』 第3号	H28.11.25
10	「MIYAKE ISSEY 展：三宅一生の仕事」関連イベント	日比野民蓉 (前研究補佐員, 現横浜美術館学芸員)	『NACT Review 国立新美術館研究紀要』 第3号	H28.11.25
11	「MIYAKE ISSEY 展：三宅一生の仕事」関連イベント	本橋弥生 (主任研究員)	『NACT Review 国立新美術館研究紀要』 第3号	H28.11.25
12	国際シンポジウム「戦後美術史における女性作家の活動」概要, 報告①「ポンピドゥーセンターの彼女たち」展から, 「ニキ・ド・サンファル」展へ, 「全体討議・質疑応答」	山田由佳子 (主任研究員)	『NACT Review 国立新美術館研究紀要』 第3号	H28.11.25
13	ミャンマーの若者たちと教育制度—国立博物館でのワークショップを終えて	吉澤菜摘 (アソシエイトフェロー)	『NACT Review 国立新美術館研究紀要』 第3号	H28.11.25

別表9 館ニュースにおける執筆

ア 東京国立近代美術館				
(本館)				
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名	発行年月日
1	「新しいコレクション 松本竣介《N 駅近く》」	大谷省吾 (美術課長)	『現代の眼』617号	H28.4.1
2	「新しいコレクション 山城知佳子《肉屋の女》」	鈴木勝雄 (主任研究員)	『現代の眼』617号	H28.4.1
3	「教育普及 「おやこでトーク」——幼児と大人のギャラリートーク」	細谷美宇 (研究補佐員)	『現代の眼』617号	H28.4.1
4	「新しいコレクション シュシ・スライマン《国家 (Negara) 》」	藏屋美香 (企画課長)	『現代の眼』618号	H28.6.1
5	「作品研究 元村和彦コレクション ロバート・フラング作品について」	小林美香 (客員研究員)	『現代の眼』618号	H28.6.1
6	「新しいコレクション 赤瀬川原平《模型千円札 I 》」	榊田倫広 (研究員)	『現代の眼』619号	H28.8.1
7	「コレクションと修復 修復家と作品の関わり—山領まり氏に聞く」	三輪健仁 (主任研究員)	『現代の眼』619号	H28.8.1
8	「新しいコレクション 尾竹竹坡《銀河宇宙》《流星》」	鶴見香織 (主任研究員)	『現代の眼』620号	H28.10.1
9	「情報資料 公開講演会「[ワシントン・スミソニアン機構] アーカイブズ・オブ・アメリカンアート (AAA) のすべて」報告 AAAコレクションの多様性・高エビデンス性とアクセス可能性をめぐって」	水谷長志 (主任研究員)	『現代の眼』620号	H28.10.1
10	「作品研究 鏡とコンポジション『フローランス・アンリ・ポートフォリオ』収録の初期作品について」	小林美香 (客員研究員)	『現代の眼』621号	H28.12.1
11	「新しいコレクション 大竹伸朗《網膜 (ワイヤー・ホライズン, タンジェ) 》」	保坂健二郎 (主任研究員)	『現代の眼』621号	H28.12.1
(工芸館)				
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名	発行年月日
1	「新しいコレクション 芹沢銈介《津村小庵文藍地紬裂》」	今井陽子 (主任研究員)	『現代の眼』617号	H28.4.1
2	「Review 所蔵作品とのコラボレーション——須田悦弘氏に聞く：『1920~2010年代所蔵工芸品に見る 未来へ続く美生活展』」	北村仁美 (主任研究員)	『現代の眼』617号	H28.4.1
3	「新しいコレクション バーナード・リーチ《ガレナ釉魚文大皿》」	唐澤昌宏 (工芸課長)	『現代の眼』618号	H28.6.1
4	「On view 素材と技法のわたし的こだわり：所蔵作品展「こども+おとな工芸館：ナニデキテルノ?」後記」	今井陽子 (主任研究員)	『現代の眼』619号	H28.8.1
5	「作品研究 岡部嶺男の「青瓷」—《窯変米色瓷碗》をきっかけとして」	唐澤昌宏 (工芸課長)	『現代の眼』619号	H28.8.1
6	「新しいコレクション テオドール・ボーグラー《コンビネーション・ティーポット》」	北村仁美 (主任研究員)	『現代の眼』619号	H28.8.1

7	「新しいコレクション 長野埜志《鷹置物》」	成田暢 (客員研究員)	『現代の眼』620号	H28.10.1
8	「新しいコレクション 田中信行《Inner Side-Outer Side 2011》」	木田拓也 (主任研究員)	『現代の眼』621号	H28.12.1
9	「新しいコレクション 川口淳《ゾエア》」	今井陽子 (主任研究員)	『現代の眼』622号	H29.2.1
10	「On view 彫金家として表現すること―桂盛仁氏に聞く：所蔵作品展「動物集合」展」	成田暢 (客員研究員)	『現代の眼』622号	H29.2.1
11	「教育普及 こどもの鑑賞から考える工芸鑑賞の可能性」	西岡梢 (工芸課研究補佐員)	『現代の眼』622号	H29.2.1
(フィルムセンター)				
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名	発行年月日
1	BDC プロジェクトレポート 第1回：2015年度の活動報告と課題	大関勝久 (特定研究員)	『NFC ニューズレター』126号	H28.4.1
2	「映画の《精霊》を追って 中馬聰の写真をめぐる断想」	岡田秀則 (主任研究員)	『NFC ニューズレター』126号	H28.4.1
3	「木下忠司氏インタビュー 合奏を初めに聴いたのは映画館。僕はそれから音楽家になりたいと思った。」	聞き手・構成： 富田美香 (主任研究員) 大澤浄 (研究員)	『NFC ニューズレター』126号	H28.4.1
4	「木下忠司 映画音楽担当作品一覧」	富田美香 (主任研究員)	『NFC ニューズレター』126号	H28.4.1
5	白黒映画の“人口着色” (上) 1980年代後半のアメリカカラライゼーションの始まり	岡島尚志 (主幹)	『NFC ニューズレター』127号	H28.6.1
6	「山村倫氏 (『ヴィクトリア』プロダクション・デザイナー) インタビュー 「リンがこの映画に来たのは偶然じゃない」と言われました。」	聞き手・構成： 篠儀直子 (客員研究員) 大澤浄 (研究員)	『NFC ニューズレター』127号	H28.6.1
7	連載フィルムアーカイブの諸問題 第93回 デジタルジレンマの行方	松山ひとみ (特定研究員)	『NFC ニューズレター』127号	H28.6.1
8	BDC プロジェクトレポート 第2回：デジタルによる映画保存と利活用に関する技術的な課題	三浦和己 (特定研究員)	『NFC ニューズレター』127号	H28.6.1
9	白黒映画の“人口着色” (下) 2010年代半ば―新たなカラライゼーション	岡島尚志 (主幹)	『NFC ニューズレター』128号	H28.8.1
10	「羽田澄子+佐藤斗久枝 (彼方舎) 対談 「感じた人は行う責任がある」」	聞き手・構成： 岡田秀則 (主任研究員) 佐崎順昭 (客員研究員) 富田美香 (主任研究員) 大澤浄 (研究員)	『NFC ニューズレター』第128号	H28.8.1
11	羽田澄子 作品一覧	佐崎順昭 (特定研究員)	『NFC ニューズレター』128号	H28.8.1

12	BDC プロジェクトレポート 第3回：映画のデジタル保存と活用を支える法的基盤	松山ひとみ (特定研究員)	『NFC ニューズレター』128号	H28.8.1
13	羽田澄子監督作品のフィルム化とDCP化について	三浦和己 (特定研究員)	『NFC ニューズレター』128号	H28.8.1
14	「連載 フィルム・アーカイブの諸問題 第94回 第72回 FIAF ボローニャ会議 報告 映画体験の未来——デジタル・シミュレーションと映画館の再生」	大傍正規 (主任研究員)	『NFC ニューズレター』129号	H28.10.1
15	「連載 フィルム・アーカイブの諸問題 第95回 回 映写に伴う所蔵映画プリントの評価基準について」	神田麻美 (客員研究員)	『NFC ニューズレター』129号	H28.10.1
16	BDC プロジェクトレポート 第4回：日本の映画界におけるデジタルデータの保存の現状	佐崎順昭 (特定研究員)	『NFC ニューズレター』129号	H28.10.1
17	「ナショナル・フィルモグラフィーの実現に向けて——AFIの事例紹介」	濱口幸一 (客員研究員)	『NFC ニューズレター』129号	H28.10.1
18	「ハンス・ヒルマン、映画を一枚の紙に収めた人」	岡田秀則 (主任研究員)	『NFC ニューズレター』130号	H28.12.1
19	BDC プロジェクトレポート 第5回：映画の長期保存と活用を目的としたシステムの可能性とコミュニティの重要性	中西智範 (特定研究員)	『NFC ニューズレター』130号	H28.12.1
20	「戦後ドイツの映画ポスター ハンス・ヒルマン、映画を一枚の紙に収めた人」	岡田秀則 (主任研究員)	『NFC ニューズレター』130号	H28.12.1
21	「押井守監督インタビュー」	聞き手： 富田美香 聞き手・構成： 佐々木淳 (主任研究員)	『NFC ニューズレター』130号	H28.12.1

## イ 京都国立近代美術館

	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名	発行年月日
1	「新収蔵品紹介 マルセル・ブロータースのスライド作品《バトー・タブロー（船—絵画）》について」	牧口千夏 (主任研究員)	『京都国立近代美術館ニュース視る』482号	H28.7.20
2	「選択の多い美術館「オーダーメイド：それぞれの展覧会」を振り返って」	牧口千夏 (主任研究員)	『京都国立近代美術館ニュース視る』484号	H28.10.30

## ウ 国立西洋美術館

	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名	発行年月日
1	企画展「聖なるもの、俗なるもの メッケネムとドイツ初期銅版画」	中田明日佳 (研究員)	『ZEPHYROS』第67号	H28.5.20
2	Fun with Collection 2016 ル・コルビュジエと無限成長美術館—その理念を知ろう	寺島洋子 (主任研究員)	『ZEPHYROS』第67号	H28.5.20
3	企画展「クラーナハ展—500年後の誘惑」	新藤淳 (研究員)	『ZEPHYROS』第68号	H28.8.20
4	「2015年度収蔵作品」について	渡辺晋輔 (主任研究員)	『ZEPHYROS』第69号	H28.11.20

5	小企画展「モーリス・ドニの素描—紙に残されたインスピレーションの軌跡」	袴田紘代 (研究員)	『ZEPHYROS』第69号	H28.11.20
6	本館建物 Q&A	福田京 (専門職員)	『ZEPHYROS』第69号	H28.11.20
7	企画展「シャセリオー展—19世紀フランス・ロマン主義の異才」	陳岡めぐみ (主任研究員)	『ZEPHYROS』第70号	H29.2.20
8	小企画展「日本・デンマーク外交関係樹立150周年記念 スケーエン：デンマークの芸術家村」	村上博哉 (副館長)	『ZEPHYROS』第70号	H29.2.20
<b>エ 国立国際美術館</b>				
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名	発行年月日
1	時代を越えるポスターたち——「田中一光ポスター展」に寄せて	安來正博 (主任研究員)	『国立国際美術館ニュース』213号	H 28.4.1
2	随想 現代美術 (七) ——言葉と美術	山梨俊夫 (館長)	『国立国際美術館ニュース』213号	H 28.4.1
3	《SHEEP 羊飼い》	橋本梓 (主任研究員)	『国立国際美術館ニュース』213号	H 28.4.1
4	「森村泰昌：自画像の美術史—「私」と「わたし」が出会うとき」	植松由佳 (主任研究員)	『国立国際美術館ニュース』213号	H 28.4.1
5	館蔵品紹介：ファウスト・メロッティ《若木》	中井康之 (学芸課長)	『国立国際美術館ニュース』214号	H28.6.1
6	随想 現代美術 (八) ——絵画の自律性	山梨俊夫 (館長)	『国立国際美術館ニュース』214号	H28.6.1
7	《BENCH》の批評性	橋本梓 (主任研究員)	『国立国際美術館ニュース』214号	H28.6.1
8	館蔵品紹介：横尾忠則《A. W. misses M. D.》	安來正博 (主任研究員)	『国立国際美術館ニュース』215号	H28.8.1
9	随想 現代美術 (九) ——現実との新たな接点	山梨俊夫 (館長)	『国立国際美術館ニュース』215号	H28.8.1
10	「旧東独の都市, ライプツィヒの絵画」	福元崇志 (任期付研究員)	『国立国際美術館ニュース』215号	H28.8.1
11	館蔵品紹介：ニコラ・ド・スタール《アグリジェントの丘》	山梨俊夫 (館長)	『国立国際美術館ニュース』216号	H28.10.1
12	プレイは家を持っている	橋本梓 (主任研究員)	『国立国際美術館ニュース』216号	H28.10.1
13	館蔵品紹介：リュック・ダイヤモンド《教会》	中西博之 (主任研究員)	『国立国際美術館ニュース』217号	H28.12.1
14	随想 現代美術 (一〇) ——絵画の彷徨	山梨俊夫 (館長)	『国立国際美術館ニュース』217号	H28.12.1
15	橋を架ける	橋本梓 (主任研究員)	『国立国際美術館ニュース』217号	H28.12.1
16	館蔵品紹介：アンリ・サラ《アンサー・ミー》	植松由佳 (主任研究員)	『国立国際美術館ニュース』218号	H29.2.1
17	「追憶の80年代(1)」 シュナーベル, そして日比野克彦, 横尾忠則	安來正博 (主任研究員)	『国立国際美術館ニュース』218号	H29.2.1
18	「読めない資料—工藤哲巳のノートと手紙について」	福元崇志 (任期付研究員)	『国立国際美術館ニュース』218号	H29.2.1

別表 10 館外の学術雑誌, 学会等における調査研究成果の発信

ア 東京国立近代美術館						
(本館)						
A. 学会等発表						
	タイトル	学会等名	発表者氏名 (職名)	日付	場所	聴講者数 (人)
1	ワールドカフェ「つながるミュージアム」モデレーター	第6回ミュージアムマネジメント研修(文化庁)	一條彰子 (主任研究員)	H28.12.14	東京国立博物館 附属黒田記念館	70
2	「子供を育む鑑賞教育」講評	第55回東京都図画工作研究大会	一條彰子 (主任研究員)	H28.12.9	福生市立福生第一小学校	40
3	「いま美術館のコレクションにできること(いや, そもそもコレクションでなんかやる必要あるのか?)」	—	蔵屋美香 (企画課長)	H28.4.18	日本大学芸術学部	150
4	「ひととひととが向き合っただかを描くって, いったいどういうこと?」	—	蔵屋美香 (企画課長)	H28.4.28	多摩美術大学	200
5	「企画はどこからやってくる?キュレーターによる展覧会の作り方」	—	蔵屋美香 (企画課長)	H28.8.27	THINK SCHOOL	20
6	“After the Quake: Japanese Art in the Post 3.11 Society”	—	蔵屋美香 (企画課長)	H28.10.12	韓国国立現代美術館	50
7	「今, 日本現代美術に何が起きているのか—『ニューカマーアーティスト』から見る美術の地勢図」	—	蔵屋美香 (企画課長)	H29.1.24	ゲンロンカフェ	150
8	「くらしに美術館を一東京国立近代美術館にいこう」	—	蔵屋美香 (企画課長)	H29.1.28	無印良品有楽町店	30
9	“Untold Criteria of Which Can Be And Which Can Not Be Collected: From Recent Acquisition of MOMAT”	日米キュレーター会議	蔵屋美香 (企画課長)	H29.2.9	サンフランシスコ・アジア美術館	15
10	「“アーティスト”という縦軸よりも, “一見関係なさそうな作品同士のつながり”という横軸に萌えるんですけど, こういうのってどうなんですかね」	—	蔵屋美香 (企画課長)	H29.2.17	京都芸術センター	50
11	「Korea Artist Prize から考える, アーティストのキャリアメイキングについて」	Comos-TV	蔵屋美香 (企画課長)	H29.2.23	blanclass	ネット配信
12	「地震のあとで: ポスト 3.11 のアート」	国際シンポジウム「『都市の災害とアート』9.11/3.11」	蔵屋美香 (企画課長)	H29.3.10	早稲田大学	25
13	高柳恵里作品集関連ギャラリートーク		蔵屋美香 (企画課長)	H29.3.19	タリオンギャラリー	40
14	「戦争・美術・コメモレイション」パネル発表	シンポジウム 第1回アジア太平洋地域戦争ビジュアルフォーラム「美術と戦争 1940-50年代, 日本・朝鮮・台湾」	鈴木勝雄 (主任研究員)	H28.7.23	大阪大学	50

15	第11回 「戦後日本文化と“アジア”-複眼的な歴史に向けた準備作業」のパネル構成及びパネル発表「アジアの眼-1970年代の日本とアジア関係の転換点」	国際日本文化研究センター 共同研究「戦後日本文化再考」	鈴木勝雄 (主任研究員)	H28.12.3-4	国際日本文化研究センター	50
16	ブラジル、リオデジャネイロにおける「コンテンポラリーの出現・日本の前衛美術 1950 - 1970」展 報告会 モデレーター	—	鈴木勝雄 (主任研究員)	H29.1.13	国際交流基金	50
17	「歴史への想像力と美術館」パネル発表	国立新美術館 開館10周年記念ウィーク、シンポジウム2:「アーカイヴ」再考 - 現代美術と美術館の新たな動向」	鈴木勝雄 (主任研究員)	H29.1.28	国立新美術館	60
18	レクチャーシリーズ「生還する山田正亮」	NPO 法人 ART TRACE	中林和雄 (副館長)	H28.1.8, 6.21, 8.19, 9.15	ART TRACE	各 50
19	アール・ブリュットの光と影	—	保坂健二郎 (主任研究員)	H28.11.19	アートト	15
20	アートと福祉、ふたつの世界は(今)クロスするか?	障害者の芸術活動を支援する新進芸術家育成事業とその育成を芸術系大学において行う基盤構築のための調査事業」	保坂健二郎 (主任研究員)	H28.11.24	金沢美術工芸大学 (主催:文化庁 次代の文化を創造する新進芸術家育成事業)	40
21	アートと福祉、ふたつの世界は(今)クロスするか?	障害者の芸術活動を支援する新進芸術家育成事業とその育成を芸術系大学において行う基盤構築のための調査事業	保坂健二郎 (主任研究員)	H28.12.1	東京藝術大学 (主催:文化庁 次代の文化を創造する新進芸術家育成事業)	30
22	「パネルディスカッション アール・ブリュットと美術館」 モデレーター	アール・ブリュット国際フォーラム2017 (アール・ブリュット魅力発信事業実行委員会)	保坂健二郎 (主任研究員)	H29.2.11	びわこ大津プリンスホテル コンベンションホール淡海	80
23	「トークイベント 鈴木紗也香×榊田倫広」	鈴木紗也香「額縁の中を愛おしく」展関連イベント	榊田倫広 (研究員)	H28.4.16	黄金町エリアマネジメントセンター	25
24	「トークイベント 『文字と空間』 榊田倫広×飯田竜太」	飯田竜太「本棚のアーケオプリテス」展関連イベント	榊田倫広 (研究員)	H28.9.15	Guardian Garden	30
25	「トーマス・ルフ アーティスト・トーク」 (聞き手)	トーマス・ルフ展	増田玲 (主任研究員)	H28.12.10	金沢 21世紀美術館	80
26	専門図書館への入口講座 第5回 夢の砦 展覧会カタログの愉悦 東京国立近代美術館アートライブラリ	日比谷図書文化館	水谷長志 (主任研究員)	H28.4.28	日比谷図書文化館	20
27	企画趣旨説明「研究集会 収蔵品デジタルアーカイブの最新動向 文化遺産オンラインと国立国会図書館サーチの連携は 美術館に何をもちたすのか そして、著作権法はどのように展開するのか」	全国美術館会議情報・資料研究部会	水谷長志 (主任研究員)	H28.6.24	国立西洋美術館	120

28	「継承」について—本と図書館の歴史を Bibliotheca uniuersalis/Universal Bibliography「世界書誌の夢」から考えてみます	ヨコハマ社会教育・福祉読書会	水谷長志 (主任研究員)	H28.7.15	横浜市西区福祉保健活動拠点「フクシア」	20
29	基調報告「JAL2016「海外日本美術資料専門家(司書)の招へい・研修・交流事業」	公開ワークショップ「日本美術の資料に関わる情報発信力の向上のための提言 III」	水谷長志 (主任研究員)	H28.12.9	東京国立近代美術館講堂	60
30	「ポスト・ミュージアム時代?—メディアの変容はアート界をどのように変えるのか」(ボリス・グロイス+浅田彰) モデレーター	ボリス・グロイス来日記念講演シリーズ	三輪健仁 (主任研究員)	H29.1.21	東京国立近代美術館講堂	150
31	出展作家とのトーク	「ART1 2016: Stepping into Fresh Snow」展	三輪健仁 (主任研究員)	H28.5.14	ART COURT GALLERY	50
32	今井祝雄(出展作家)との対談	「今井祝雄 Retrospective—方形の時間」展	三輪健仁 (主任研究員)	H28.4.16	ART COURT GALLERY	50
<b>B. 雑誌等論文掲載</b>						
学術書籍, 研究報告書等の発行						
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	発行者	発行年月日		
1	『激動期のアヴァンギャルド シュルレアリスムと日本の絵画 1928-1953』	大谷省吾 (美術課長)	国書刊行会	H28.5.20		
2	「昭和戦前期の美術批評の動き——新興美術批評家協会と美術批評家協会を中心に」(『美術批評家著作選集 第19巻 批評と批評家』) (共著)	大谷省吾 (美術課長)	ゆまに書房	H28.6.24		
3	「いま美術館のコレクションにできること」(金子伸二・杉浦幸子編『ミュージオロジーの展開 経営論・資料論』) (共著)	蔵屋美香 (企画課長)	武蔵野美術大学出版	H28.4.1		
4	「美術館の公共性から考える—コレクション・展示・教育」(対談: 神野真吾) (北田暁大・神野真吾・竹田恵子編『社会の芸術/芸術という社会 社会とアートの関係, その再創造に向けて』) (共著)	蔵屋美香 (企画課長)	フィルムアート社	H28.12.25		
5	「必殺, 高柳恵里」(『高柳恵里 / Eri TAKAYANAGI 初作品集』) (共著)	蔵屋美香 (企画課長)	タリオンギャラリー	H28.3.12		
6	『絵画との契約 山田正亮再考』 (共著)	中林和雄 (副館長)	水声社	H28.12.10		
7	「裸婦の研究, その半世紀の軌跡—スケッチから読み解く」(『片岡球子のスケッチ—知られざる創作のあゆみ』) (共著)	中村麗子 (主任研究員)	北海道立旭川美術館	H28.4.1		
8	「地図と年代記」(川田喜久治写真集『遠い場所の記憶: 1951-1966』) (共著)	増田玲 (主任研究員)	ケース・パブリッシング	H28.9.1		
9	「『アンチ・イリュージョン: 手続き/素材』展における『映像』と『彫刻』の交差」(『ニューヨーク—錯乱する都市の夢と現実(西洋近代の都市と芸術 7)』) (共著)	三輪健仁 (主任研究員)	竹林舎	H29.1.10		
10	『公開ワークショップ「日本美術の資料に関わる情報発信力の向上のための提言 III」報告書』(編・共著)	水谷長志 (主任研究員)	JAL プロジェクト 2016「海外日本美術資料専門家(司書)の招へい・研修・交流事業」実行委員会	H29.3.31		
<b>【査読有り】論文掲載</b>						
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名(発行者)	発行年月日		
1	「菱田春草筆 早春」	鶴見香織 (主任研究員)	『國華』1447号(國華社)	H28.5.20		

【査読無し】論文掲載				
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名 (発行者)	発行年月日
1	“About Kawai+Okamura, the Protagonist of This Book”	蔵屋美香 (企画課長)	『Mood Hall/ Mood Hole 2016』展図録 (京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA)	H28.2.25
2	「草土社と椿貞雄」	鈴木勝雄 (主任研究員)	『生誕120年 椿貞雄展：椿貞雄と岸田劉生』展図録 (米沢市上杉博物館)	H28.6
3	“‘Agitate’ the Tokyo Olympics!: The Intervention Art of Hi-Red Center”	鈴木勝雄 (主任研究員)	The Emergence of The Contemporary: Avant-Garde Art in Japan, 1950-1970 (Paço Imperial, Brazil)	H28.7
4	「審査講評」	都築千重子 (主任研究員)	『第23回鹿沼市立川上澄生美術館木版画大賞』図録 (鹿沼市立川上澄生美術館)	H29.3.11
5	コラム「東京十二景」, 作品解説	鶴見香織 (主任研究員)	『東山魁夷展』図録 (日本経済新聞社, 九州国立博物館, 広島県立美術館)	H28.7.16
6	「近代日本画と能 上村松園《焔》と松岡映丘《屋島の義経》と」	鶴見香織 (主任研究員)	『国立能楽堂』(国立能楽堂事業課)	H29.2
7	「絵画との契約—山田正亮再考 第一回「山田正亮の仕事」」	中林和雄 (副館長)	『ART TRACE PRESS』第4号 (ART TRACE)	H28.11.28
8	“Why Houses?”	保坂健二郎 (主任研究員)	『The Japanese House: Architecture and Life after 1945』(Marsilio)	H28.12
9	「海外博物館だより テート・アーカイヴでの研修報告」	柘田倫広 (研究員)	『博物館研究』(日本博物館協会)	H28.11
10	「〈地図〉について」	増田玲 (主任研究員)	『香月泰男と丸木位里・俊, そして川田喜久治--シベリア・シリーズ・原爆の図・地図』展図録 (平塚市美術館, 日本経済新聞社)	H28.9.17
11	「窓 あらためて, サミュエル・ジョンソン博士の名言を思い起こして」	水谷長志 (主任研究員)	『図書館雑誌』(日本図書館協会)	H28.7.20
12	「コレクションのメタデータにおける「真正性」の担保と公開は相克するのがあるいはコレクション情報はだれのためのものなのか」	水谷長志 (主任研究員)	『ZENBI 全国美術館会議機関誌 vol.10』(全国美術館会議)	H28.8.1
13	「公開講演会「アーカイブズ・オブ・アメリカンアート(AAA)のすべて」を終えて—そして二, 三の提案」	水谷長志 (主任研究員)	『アート・ドキュメンテーション通信』(アート・ドキュメンテーション学会)	H28.8.20
14	「窓 日本の MLA のプロフェッショナルは二〇二〇年をいかに迎えるのだろうか...」	水谷長志 (主任研究員)	『図書館雑誌』(日本図書館協会)	H28.11.20
15	「JALプロジェクトから得た3度の「提言」を考える」	水谷長志 (主任研究員)	『カレントアウェアネス・E』(国立国会図書館)	H29.2.9
16	「パフォーマンス/ミュージアム」	三輪健仁 (主任研究員)	『表象10』(表象文化論学会)	H28.4.20
その他 (研究志向の薄い機関紙, 美術雑誌, 新聞, ウェブサイト等) の発表				
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名 (発行者)	発行年月日
1	「思考力・判断力・表現力を育む「鑑賞教育」対話による美術鑑賞を理解し, その実践法を学ぶ (前編・後編)」	一條彰子 (主任研究員)	「学びの場.com」(内田洋行)	H28.10.26, 11.23
2	「近代美術の眼 岡本太郎《遊ぶ》」	岩田ゆず子 (研究補佐員)	『読売新聞』都内版	H28.4.8
3	「近代美術の眼 松本竣介《N 駅近く》」	大谷省吾 (美術課長)	『読売新聞』都内版	H28.6.10
4	「『不在』が問いかけるもの」	大谷省吾 (美術課長)	『第4回 都美セレクショングループ展 記録集』(東京都美術館)	H28.8.31

5	「中川一政の絵のどこが良いのか」	大谷省吾 (美術課長)	『没後 25 年 中川一政展－壮心不已－』(白山市立松任中川一政記念美術館)	H28.9.10
6	「1930 年代ダリ・ブームの真相」	大谷省吾 (美術課長)	『美術手帖』(美術出版社)	H28.10.1
7	「あいみつは なにをおもいながら じぶんをかいたの だろう」	大谷省吾 (美術課長)	『未来へのおくりもの 鬘光生誕 110 年第 10 回鬘光記念北広島町児童生徒自画像展記念誌』(北広島町・北広島町教育委員会)	H28.10.8
8	「瑛九のフォト・デッサンについて」	大谷省吾 (美術課長)	『版画芸術』174 号(阿部出版)	H28.12.1
9	「近代美術の眼 瑛九《眠りの理由》より」	大谷省吾 (美術課長)	『読売新聞』都内版	H29.2.10
10	「「洋画」のおもしろさをもっと知ってもらうためには？」	大谷省吾 (美術課長)	『AAC』(愛知芸術文化センター)	H29.3.1
11	「日本のメール・ヌードがたどった道－明治から昭和まで」	蔵屋美香 (企画課長)	『美術手帖』(美術出版社)	H28.4.1
12	「Cross Talk : 果たして黒田清輝はよみがえるのか!？」	蔵屋美香 (企画課長)	『美術手帖』(美術出版社)	H28.5.1
13	「アジアの視点をもたらした多様性 『六本木クロッシング 2016 年 : 僕の身体, あなたの声』」	蔵屋美香 (企画課長)	『美術手帖』(美術出版社)	H28.6.1
14	「黒田清輝は、今日? 特別展『生誕 150 年 黒田清輝－日本近代絵画の巨匠』」	蔵屋美香 (企画課長)	『美術手帖』(美術出版社)	H28.7.1
15	「バナナ会社と機関銃 『ヨシユア・オコン : 所有について』展」	蔵屋美香 (企画課長)	『美術手帖』(美術出版社)	H28.8.1
16	「特集 : あなたの知らないニューカマーアーティスト 100」 「山内祥太・村井祐希」	蔵屋美香 (企画課長)	『美術手帖』(美術出版社)	H28.12.1
17	「真ん中に空いた穴のまわりで 『BODY/PLAY/POLITICS』展」	蔵屋美香 (企画課長)	『美術手帖』(美術出版社)	H28.12.1
18	「明日観てみたら、そこには闇が Chim↑Pom『また明日も観てくれるかな?～So See You Again Tomorrow, Too?～』展」	蔵屋美香 (企画課長)	『美術手帖』(美術出版社)	H29.1.1
19	「近代美術の眼 梅原龍三郎《桜島(青)》」	都築千重子 (主任研究員)	『読売新聞』都内版	H28.4.29
20	「近代美術の眼 菊池契月《麦搦(むぎふるい)》」	鶴見香織 (主任研究員)	『読売新聞』都内版	H28.7.8
21	「安田靉彦展」	鶴見香織 (主任研究員)	『新美術新聞』(美術年鑑社)	H28.4.21
22	「正木隆 光る闇」	中林和雄 (副館長)	『美術の窓』(生活の友社)	H28.4.20
23	「美術」(隔月連載)	保坂健二郎 (主任研究員)	『すばる』(集英社)	H28.4,6,8,10,12
24	「ART」(毎月連載)	保坂健二郎 (主任研究員)	『SPUR』(集英社)	H28.10,11,12,H29.1
25	「声は、怪物は、どのように展示できるのか。」	保坂健二郎 (主任研究員)	『現代詩手帖』(思潮社)	H28.7.1
26	「トラフ建築設計事務所+保坂健二郎 会場構成とキュレーション」	保坂健二郎 (主任研究員)	『30 年 30 話 クリエイター 30 組の対話によるデザインの過去・現在・未来』(誠文堂新光社)	H28.9.1
27	「近代美術の眼 タンク街道」	保坂健二郎 (主任研究員)	『読売新聞』都内版	H28.9.9
28	「解説」	保坂健二郎 (主任研究員)	中野京子『はじめてのルール』(文庫版)』(集英社)	H28.10.20
29	「岡山芸術交流 2016 コンパクト・シティに向けての「開発」にアートが寄与する時代がやってきた」	保坂健二郎 (主任研究員)	『美術手帖』1046 号(美術出版社)	H28.12.1
30	「ルシアン・フロイドとの朝食 書評」	榊田倫広 (研究員)	『図書新聞』3255 号	H28.5.21

31	「風景のための穴と、穴のにおい」	梶田倫広 (研究員)	『わたしの穴 美術の穴』(アダチデルタ)	H28.7.31		
32	「近代美術の眼 ラースロ・モホリ＝ナジ《フォトグラム》」	増田玲 (主任研究員)	『読売新聞』都内版	H28.10.14		
33	第十回「映像アートと、アート系映画の違いって何？」 (生西康典, 金子遊, 七里圭とのトーク)	三輪健仁 (主任研究員)	『「映画以内, 映画以後, 映画辺境」第三期 全発言採録』	H28.11.25		
34	「近代美術の眼 岸田劉生《壺の上に林檎が載っている》」	三輪健仁 (主任研究員)	『読売新聞』都内版	H28.11.11		
35	「同一性」をめぐる二つの展覧会と、「出来事の記録」について	三輪健仁 (主任研究員)	『ZENBI 全国美術館会議機関誌 vol.10』(全国美術館会議)	H28.8.1		
(工芸館)						
A. 学会等発表						
	タイトル	学会等名	発表者氏名 (職名)	日付	場所	聴講者数 (人)
1	講演会「日本の工芸(作家の工芸)を考える」	第55回日本伝統工芸富山展	唐澤昌宏 (工芸課長)	H28.5.28	高岡市美術館ピ トックホール	54
2	講演会「瀬戸における個人作家と陶芸制作の歩み」	瀬戸陶芸協会設立80周年記念	唐澤昌宏 (工芸課長)	H28.6.4	瀬戸市文化セン ター	28
3	講演会「作家の言葉から陶芸(工芸)を考える」	多治見市陶磁器意匠研究所	唐澤昌宏 (工芸課長)	H28.6.17	多治見市陶磁器 意匠研究所	44
4	講演会「瀬戸陶芸の歩みと現在(いま)」	瀬戸陶芸協会設立80周年記念	唐澤昌宏 (工芸課長)	H28.10.4	東京東海証券・ 東京本部	27
5	工芸の源流を求めて 中国・朝鮮に渡った工芸家	『日本工芸の100年』展記念講演会	木田拓也 (主任研究員)	H28.6.11	岡山市オリエン ト美術館	20
6	Modern Chinoiserie in Manchuria: Reviving Ancient Chinese Ceramics in the 1910-20s	AAS-in-ASIA Conference	木田拓也 (主任研究員)	H28.6.26	同志社大学	30
7	Looking for Design Resources in China: Traveling Japanese Potters in the 1920s-1930s	10th Conference of the International Committee for Design History & Design Studies (ICDHS 2016)	木田拓也 (主任研究員)	H28.10.26	台湾工科大学	30
8	東アジアに源泉を求めて: 小森忍の大連 1917-1928	デザイン史学研究会	木田拓也 (主任研究員)	H28.12.3	麗澤大学	20
9	大阪万博1970 デザインプロジェクト展を振り返って	万国博覧会と人間の歴史	木田拓也 (主任研究員)	H28.12.17	国際日本文化研 究センター	20
B. 雑誌等論文掲載						
【査読無し】論文掲載						
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名(発行者)	発行年月日		
1	「自分への挑戦—鈴木徹の緑釉」	唐澤昌宏 (工芸課長)	『陶説』762号(日本陶磁協会)	H28.9.1		
2	「工芸家夢想中的亜州」	木田拓也 (主任研究員)	『東北亜外語研究』(東方書店)	H28.6		
3	「観光イメージを記憶する印刷メディア」	木田拓也 (主任研究員)	『観光文化』(日本交通公社)	H28.10		
その他(研究志向の薄い機関紙, 美術雑誌, 新聞, ウェブサイト等)の発表						
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名(発行者)	発行年月日		
1	「林恭助が示す「モノ」」	唐澤昌宏 (工芸課長)	『一黄・瑠璃—林恭助展』図録(三越伊勢丹)	H28.4		
2	「金子潤の日本的なるもの」	唐澤昌宏 (工芸課長)	『金子潤展』図録(艸居)	H28.4		

3	「東京国立近代美術館工芸館のコレクションと活動」	唐澤昌宏 (工芸課長)	『東京国立近代美術館工芸館名品展』展図録(岡山市立オリエン特美術館・島根県立美術館)	H28.4
4	「想いの造形ー伊藤秀人の「青瓷」」	唐澤昌宏 (工芸課長)	『伊藤秀人展』図録(しづや黒田陶苑)	H28.5
5	「展覧会に寄せて」	唐澤昌宏 (工芸課長)	『石川阿の伝統工芸』展図録(ながの東急)	H28.6
6	「森陶岳の備前焼ーやきもの本質を問う挑戦」	唐澤昌宏 (工芸課長)	『森陶岳の全貌展』図録(瀬戸内市立美術館)	H28.9
7	「今泉毅の茶碗ーつくり手の本質を映し出す造形」	唐澤昌宏 (工芸課長)	『今泉毅展』図録(ギャラリー一栄光舎)	H28.9
8	創作的思考が芸術性生む	唐澤昌宏 (工芸課長)	『朝日新聞』都内版	H28.9.20
9	「制約の中に意志映し」	唐澤昌宏 (工芸課長)	『日本海新聞』	H28.9.25
10	「「あか・くろ・しろ」展に寄せて」	唐澤昌宏 (工芸課長)	『藤寄一正展』図録(高島屋)	H28.10
11	「林恭助の作陶ー「黄瀬戸」「黒織部」,そして「曜変」」	唐澤昌宏 (工芸課長)	『林恭助展』図録(西武)	H28.11
12	「瀬戸における陶芸制作の展開ーかまぐれイズムの継承と未来ー」	唐澤昌宏 (工芸課長)	『なごみ』2017年2月号(淡交社)	H29.1.25
13	「伊藤赤水の作陶ー「佐渡ヶ島」シリーズを中心に」	唐澤昌宏 (工芸課長)	『伊藤赤水展』図録(大西ギャラリー)	H29.3
14	「備前焼の新たな魅力を探る三人ー島村光・金重有邦・隠崎隆一ー」	唐澤昌宏 (工芸課長)	『島村光・金重有邦・隠崎隆一展』図録(岡山県立美術館)	H29.2
15	「「Craft」から「Kōgei」へ」	唐澤昌宏 (工芸課長)	『Japanese Art and Modern Living』展図録(大西ギャラリー)	H29.3
16	「中田一於の「釉裏銀彩」」	唐澤昌宏 (工芸課長)	『銀華曙光 釉裏銀彩 中田一於作陶展』図録(株式会社翠)	H29.3
17	日本の陶芸シーンを塗り替えた桃山復興	木田拓也 (主任研究員)	『日本藝術の創跡』21	H28.11
18	アートダイアリー 031「マルセル・ブロイヤールの家具: Improvement for good」	北村仁美 (主任研究員)	「文化庁広報誌 ふんかる」(文化庁)(ウェブ)	H28.2.9
19	「マルセル・ブロイヤールの家具: Improvement for good」	北村仁美 (主任研究員)	『新美術新聞』	H29.3.1
20	「近代美術の眼 マルセル・ブロイヤール《クラブチェアB3》」	北村仁美 (主任研究員)	『読売新聞』都内版	H29.3.9
21	作家解説(五代清水六兵衛(六和),松井康成,出西窯)	成田暢 (客員研究員)	「東京国立近代美術館工芸館名品展 日本工芸の100年」展図録(岡山市立オリエン特美術館・島根県立美術館)	H28.4

(フィルムセンター)

A. 学会等発表

	タイトル	学会等名	発表者氏名 (職名)	日付	場所	聴講者数 (人)
1	「映画データの長期保存を目的としたデジタルアーカイブシステムの試作」	人文科学とコンピュータシンポジウム 「じんもんこん2016」	大関勝久 (特定研究員) 岡本直佐 (特定研究員) 中西智則 (特定研究員)	H28.12.10	国文学研究資料館	30
2	「《労働》の発見ー映画集団「青の会」とスポンサー映画の超克」	国際日本文化研究センター共同研究「戦後日本文化再考」	岡田秀則 (主任研究員)	H28.10.2	国際日本文化研究センター	20

3	「映画におけるデジタル保存の課題について」	LTUG Japan 2016	岡本直佐 (特定研究員) 中西智則 (特定研究員)	H28.11.9	日本オラクル (株)	40
4	「BDC プロジェクト『映画におけるデジタル保存・活用に関する調査研究事業』と一部研究のご紹介」	code4lib Japan 2016	岡本直佐 (特定研究員)	H28.9.11	大阪産業労働資料館	50
5	デジタル時代の映画保存	千葉県史料保存活動 連絡協議会講演	大傍正規 (主任研究員)	H28.5.25	千葉県文書館 6 階多目的ホール	39
6	『明治四十五年四月四日 藤田男爵 葬式の實況』(1912年)の復元—固着した可燃性フィルムのスキャニングと葬儀記録映画の歴史性	2016年度 日本写真学会年次大会	大傍正規 (主任研究員)	H28.6.9	東京工業大学	30
7	「二色式カラー映画『千人針』(1937年)の復元の復元」	日本写真学会年次大会	大傍 正規 (主任研究員) 三浦 和己 (特定研究員)	H28.6.9	東京工業大学す ずかけ台	30
8	「Long live OZU Color: Toward a more reliable preservation of color by utilizing Black-and-White separation film」	第72回 FIAF ボローニャ会議	大傍正規 (主任研究員) 大関勝久 (特定研究員) 三浦和己 (特定研究員)	H28.6.26	ボローニャ	200
9	映画フィルムの適切な保存と活用: カタログ・著作権・デジタル化	平成28年度 沖縄県文化振興会文化活性化・創造発信支援事業「デジタルアーカイブ・セミナー」	大傍正規 (主任研究員)	H28.9.29	那覇市てんぶす館	40
10	記録映画の保存と活用を考える Vol.4	ゆふいん文化・記録映画祭	とちぎあきら (主任研究員)	H28.6.27	湯布院公民館 (大分県・由布市)	100
11	えっ? 実験映画はアートじゃなかったの?	連続講座「映画以内, 映画以後, 映画境界」	とちぎあきら (主任研究員)	H28.9.17	阿佐ヶ谷美術専門学校(東京都・杉並区)	40
12	台湾で見つかった戦前日本アニメーション映画について	ワークショップ「植民地期台湾における日本映画フィルムの研究」	とちぎあきら (主任研究員)	H28.9.23	日本大学文理学部(東京都・世田谷区)	10
13	東京国立近代美術館フィルムセンターにおける「オルタナティブ映像」保存への取り組みと課題	ワークショップ「日米のオルタナティブ映像アーカイブの成り立ちと方向性」	とちぎあきら (主任研究員)	H28.11.26	日本大学芸術学部(東京都・中野区)	60
14	「アニメ NEXT100 プロジェクト」日本アニメーション映画クラシックスについて	日本動画協会	とちぎあきら (主任研究員)	H28.3.26	東京ビッグサイト(東京都・江東区)	100
15	「記憶の場: 昭和の大札と映画都市・京都」	京都大学人文研「近代天皇制と社会」研究会	富田美香 (主任研究員)	H28.4.2	同志社大学寒梅館 6A 会議室	30
16	「Digital Shift of the Film Archives: Current State and Challenges」	国際研究会・ワークショップ アート・アーカイブの諸相	松山ひとみ (特定研究員)	H28.6.20	慶應義塾大学 三田キャンパス	30
17	「日本アニメーション映画クラシックス」	第3回 新千歳空港国際アニメーション映画祭 2016	松山ひとみ (特定研究員)	H28.11.9	新千歳空港	70
18	「再発見のスズメー日本アニメーション映画クラシックス」	長野県信濃美術館 門前映画祭	松山ひとみ (特定研究員)	H29.2.5	長野松竹相生座 ロキシー 2	50

19	「マージナルなアーカイヴィングの可能性 with 日本アニメーション映画クラシックス」	恵比寿映画祭	松山ひとみ (特定研究員)	H29.2.18	東京都写真美術館	50
<b>B. 雑誌等論文掲載</b>						
学術書籍, 研究報告書等の発行						
	タイトル		執筆者氏名 (職名)		掲載誌名 (発行者)	発行年月日
1	『映画という《物体 X》 フィルム・アーカイブの眼で見た映画』		岡田秀則 (主任研究員)		立東舎	H28.9.23
2	「前衛を分かち合う場所 アンソロジー・フィルム・アーカイヴス」(西村智弘・金子遊(編)『アメリカン・アヴァンガード・ムービー』)(共著)		岡田秀則 (主任研究員)		森話社	H28.11.28
3	「《つかの間の猶予》をめぐって—小林正樹の未映画化脚本を読む」(小笠原清・梶山弘子(編)『映画監督 小林正樹』)(共著)		岡田秀則 (主任研究員)		岩波書店	H28.12.23
<b>【査読無し】論文掲載</b>						
	タイトル		執筆者氏名 (職名)		掲載誌名 (発行者)	発行年月日
1	「画像・映像そして文化のアーカイビング—フィルム保存の継続とデジタル保存への対応—		大関勝久 (特定研究員)		『日本写真学会誌』79巻4号 (日本写真学会)	H28.12
2	「デジタル化された映像資料の長期保存」		大関勝久 (特定研究員)		『全科協ニュース』47巻1号 (全国科学博物館協議会)	H29.9.11
その他(研究志向の薄い機関紙, 美術雑誌, 新聞, ウェブサイト等)の発表						
	タイトル		執筆者氏名 (職名)		掲載誌名 (発行者)	発行年月日
1	アートダイアリー 021「生誕100年 木下忠司の映画音楽」		富田美香 (主任研究員)		「文化庁広報誌 ぶんかる」 (文化庁) (ウェブ)	H28.4.4
2	書評『ジョージ・キューカー, 映画を語る』		岡田秀則 (主任研究員)		『産経新聞』	H28.7.31
3	「「生誕100年 映画監督 加藤泰」に寄せて」		大澤浄 (研究員)		『東映キネマ旬報』vol.27	H28.8.1
4	「桃太郎 海の神兵」		富田美香 (主任研究員)		ブルーレイ「桃太郎 海の神兵」解説書	H28.8.3.
5	『チリの闘い』		岡田秀則 (主任研究員)		『美術手帖』9月号=1042号 (美術出版社)	H28.8.17
6	「マキノと東亜キネマ—光と影の七年—」		富田美香 (主任研究員)		『戦前期映画ファン雑誌集成 第1期 第28巻』(ゆまに書房)	H28.9.23
7	「Code4Lib JAPAN レポートとフィルムセンターBDCプロジェクトのご紹介」		岡本直佐 (特定研究員)		ACADEMIC RESOURCE GUIDE (ARG) メールマガジン	H28.10.11
8	インタビュー「商業性の中で芸術を追求する——『戦後ドイツの映画ポスター』展」		岡田秀則 (主任研究員) 大澤浄 (主任研究員)		ウェブサイト「SYNODOS」	H29.1.12
9	アートダイアリー 030「戦後ドイツの映画ポスター」		岡田秀則 (主任研究員)		「文化庁広報誌 ぶんかる」 (文化庁) (ウェブ)	H29.1.19
10	「「映画」をつかみ取った瞬間」		岡田秀則 (主任研究員)		『キネマ旬報』2017年2月上旬号=1738号	H29.1.20
11	基調講演:《ノンフィルム》もう一つの映画のアーカイブ		岡田秀則 (主任研究員)		神戸映画資料館ウェブサイト	H29.2.8
<b>イ 京都国立近代美術館</b>						
<b>A. 学会等発表</b>						
	タイトル	学会等名	発表者氏名 (職名)	日付	場所	聴講者数 (人)
1	国際審査員	第15回国際タペストリー・トリエンナーレ	池田祐子 (主任研究員)	H28.5.7-11	テキスタイル中央博物館, ウッジ(ポーランド)	128 [参加作家数]

2	ドイツにおける印象派受容とその展開	「メアリー・カサット展」記念シンポジウム「印象派の広がり」	池田祐子 (主任研究員)	H28.7.31	横浜美術館	203
3	パネル・ディスカッション・パネル	第6回岡山公開シンポジウム「ジャポニスムの人物ネットワーク」	池田祐子 (主任研究員)	H28.10.22	拓殖大学	75
4	分離派の誕生：ミュンヘン、ウィーンそしてベルリン	連続シンポジウム第1回「〈分離派〉とは何か―分離派建築会誕生100年を考える」	池田祐子 (主任研究員)	H28.10.30	東京大学	95
5	The Impact of katagami: A Hybrid Example of Japonisme	International Conference “Japonisme in Global and Local Context”	池田祐子 (主任研究員)	H29.3.2 - 3	Várkert Bazár, Budapest, Hungary	70
6	「吉原治良研究のこれからを考える」	「吉原治良の挑戦」展関連イベント	平井章一 (主任研究員)	H28.10.23	芦屋市立美術博物館	30
7	「芸術の(再)歴史化：作品と資料体のあいだで」	「プレイ展」シンポジウム	平井章一 (主任研究員)	H28.10.29	国立国際美術館	60
8	「ブリコラージュ・漂流教室・オーダーメイド」	京都市立芸術大学公開講座「状況のアーキテクチャー」	牧口千夏 (主任研究員)	H28.10.10	京都国立近代美術館	70
<b>B. 雑誌等論文掲載</b>						
学術書籍、研究報告書等の発行						
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名(発行者)	発行年月日		
1	『西洋近代の都市と芸術4 ウィーン―総合芸術に宿る夢』(編著)	池田祐子 (主任研究員)	竹林舎	H28.8.10		
<b>【査読無し】論文掲載</b>						
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名(発行者)	発行年月日		
1	作家略歴	池田祐子 (主任研究員)	「戦後ドイツの映画ポスター」展図録(フィルムセンター・京都国立近代美術館)	H28.11.15		
2	「「ウィーン世紀末のグラフィック」コレクション(京都国立近代美術館蔵)について―ベルトルト・レフラーそして図案集『Die Fläche(ディ・フレヒェ:平面)』を中心に」	池田祐子 (主任研究員)	『美術フォーラム21』Vol. 34	H28.11.30		
3	ドイツの近代工芸運動―ミュンヘンとドレスデンを中心に	池田祐子 (主任研究員)	『美学研究』10-11号(大阪大学美学研究室)	H29. 3. 31		
4	「(川勝コレクション) 一輝ける魂と魂の出会い―」	中尾優衣 (研究員)	「没後50年 河井寛次郎―過去が咲いてゐる今、未来の蕾で一杯な今―」展図録(美術館「えき」KYOTO・岡田文化財団パラミタミュージアム・パナソニック汐留ミュージアム・兵庫県陶芸美術館)	H28.9.15		
5	The Assimilation of Japan and the West: The Artistic View of Ryuji Tanaka	平井章一 (主任研究員)	Ryuji Tanaka (MER. Paper Kunsthalle)	H28.6		
6	「九州派大全：戦後の福岡で産声を上げた、奇跡の前衛集団」	平井章一 (主任研究員)	『デ アルテ』32号(九州藝術学会)	H28.6		
7	「吉原治良の画業―もうひとつの芸術的原理」 2016年9月	平井章一 (主任研究員)	「未知の表現を求めて 吉原治良の挑戦」展図録(芦屋市立美術博物館)	H28.9		
8	国立美術館巡回展 煌めく名品たち 京都国立近代美術館のコレクションを巡って	松原龍一 (学芸課長)	「国立美術館巡回展煌めく名品たち」図録(山梨県立美術館・北海道立帯広美術館)	H28.8.30		

9	畠中光享 —その制作の軌跡—	柳原正樹 (館長)	「興福寺中金堂再建・法相柱 柱絵完成記念 興福寺の寺宝 と畠中光享展」図録	H29.1.10		
その他（研究志向の薄い機関紙、美術雑誌、新聞、ウェブサイト等）の発表						
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名（発行者）	発行年月日		
1	「ポール・スミス展 HELLO, MY NAME IS PAUL SMITH」	中尾優衣 (研究員)	「文化庁広報誌 ぶんかる」 (文化庁) (ウェブ)	H28.6.8		
2	「あの時みんな熱かった！アンフォルメルと日本の美術」	平井章一 (主任研究員)	「文化庁広報誌 ぶんかる」 (文化庁) (ウェブ)	H28.8.9		
3	「あの時みんな熱かった！アンフォルメルと日本の美術」	平井章一 (主任研究員)	『新美術新聞』	H28.8.1		
4	特集「アートと人生：メアリー・カサット」	牧口千夏 (主任研究員)	『美術の窓』398号(生活の友社)	H28.11.20		
5	作家解説	牧口千夏 (主任研究員)	『VOCA展2017 現代美術の 展望——新しい平面の作家たち』 (上野の森美術館)	H29.3.10		
6	「美術をめぐる新たなこころみ」	柳原正樹 (館長)	『新美術新聞』	H28.4.1		
7	「展覧会によせて —内なる光を描く—」	柳原正樹 (館長)	高島圭史展覧会 三越日本橋本店	H28.5.25		
8	「内包された感覚」	柳原正樹 (館長)	「矢橋頌太郎展」ホームページ (極小美術館) (ウェブ)	H28.7.3		
9	「とある京都での出来事」	柳原正樹 (館長)	『新美術新聞』	H28.8.1		
10	「美術館とともに」	柳原正樹 (館長)	『富山近美友の会会報ブリズム』 vol.80(富山県立近代美術館)	H28.8.31		
11	「伝統と変革へのあゆみ」	柳原正樹 (館長)	『日展ニュース』162号(公益 社団法人日展)	H28.9.26		
12	「とある彫刻家へのオマージュ」	柳原正樹 (館長)	「毛利武士郎展」図録(AIS Gallery)	H28.9.30		
13	「奥田小由女展「慈愛を託す」」	柳原正樹 (館長)	『新美術新聞』	H28.10.11		
14	「慈愛を託す」	柳原正樹 (館長)	東京美術倶楽部主催 企画展「奥田小由女展」 (東京美術倶楽部)	H28.10.14		
15	「開館を祝して」	柳原正樹 (館長)	「絹谷幸二天空美術館」図録 (絹谷幸二天空美術館)	H28.12.20		
16	「残されたアトリエの再生」	柳原正樹 (館長)	『新美術新聞』	H28.12.21		
ウ 国立西洋美術館						
A. 学会等発表						
	タイトル	学会等名	発表者氏名 (職名)	日付	場所	聴講者数 (人)
1	「カラヴァッジョとスペイン— 近年の研究動向」	スペイン・ラテンア メリカ美術史研究会 2016年度総会および 研究会	川瀬佑介 (主任研究員)	H28.4.17	上智大学 10号 館地下1階 10-B108A 教室	25
2	「ハワイ・アリゾナ記念碑におけ る日本の表象とジェンダー」	ジェンダー史学会	吉良智子 (リサーチフェロー)	H28.12.18	武蔵大学	150
3	ELISA(酵素結合免疫吸着法)を 用いた文化財中の膠着剤の検出	日本文化財科学会	高嶋美穂 (研究補佐員)	H28.6.4	奈良大学	400
4	ELISA(エライザ)法によるパー ミヤーン仏教壁画の膠着剤の分 析	文化財保存修復学会	高嶋美穂 (研究補佐員)	H28.6.25	東海大学	500

5	Mass spectrometry of collagen and casein in the remains of the 5th to 7th century Bamiyan Buddhas	ASMS (American Society for Mass Spectrometry)	高嶋美穂 (研究補佐員)	H28.5.9	San Antonio, Texas	500
6	「ルノワールはなぜ母子像を描いたか」	東京ロータリークラブ	馬淵明子 (館長)	H28.4.27	帝国ホテル	250
7	「ルノワールはなぜ母子像を描いたか」	日経 WOMAN EXPO	馬淵明子 (館長)	H28.5.22	東京ミッドタウン	130
8	「アール・ヌーヴォーにおける型紙とデザイン」	日仏医学会	馬淵明子 (館長)	H28.6.11	日仏会館	33
9	「型紙とジャポニスム—日本工芸は西洋に何をもたらしたか」	国立大学法人佐賀大学芸術地域デザイン学部及び大学院デザイン研究科創設記念事業	馬淵明子 (館長)	H.28.9.24	ホテルニューオータニ佐賀	80
10	「ウクサイ／ホフクサイ—北斎はどのようにして西洋に知られたか」	茅ヶ崎市美術館企画展「北斎漫画展 画は伝神の具也」	馬淵明子 (館長)	H28.10.30	茅ヶ崎市美術館	99
11	「日本人コレクターの世界での役割—林忠正と松方幸次郎」	東京商工会議所	馬淵明子 (館長)	H.29.1.24	上野東天紅	100
12	「国立西洋美術館の活動と課題」	日本女子大学	渡辺晋輔 (主任研究員)	H28.5.14	昭和女子大学	20
13	「The National Museum of Western Art – Collection and Exhibitions」	The 10 <sup>th</sup> 10+3 Workshop on Cooperation for Cultural Human Resource Development	渡辺晋輔 (主任研究員)	H28.7.22	中央文化管理幹部学院 (北京)	100

#### B. 雑誌等論文掲載

学術書籍, 研究報告書等の発行

	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名 (発行者)	発行年月日
1	『学問としてのオリンピック』 (共著)	飯塚隆 (研究員)	山川出版社	H28.7.20
2	「アルブレヒト・デューラー」「ルカス・クラナハ(父)」「IV 記憶と記録」「V 自然とファンタジー」(『ドイツ・ルネサンスの挑戦—デューラーとクラナハ』) (共著)	新藤淳 (研究員)	東京美術	H28.10.30
3	『西洋美術の歴史 第7巻 19世紀 近代美術の誕生, ロマン派から印象派へ』 (共著)	陳岡めぐみ (主任研究員)	中央公論新社	H29.2
4	La céramique du groupe épiscopal de Sidi Jdidi (Tunisie)	向井朋生 (リサーチフェロー)	Archaeopress	H28.7
5	アメリカ版画評議会編『紙本作品貸出のためのガイドライン 2015年デジタル版』(翻訳・ウェブ上公開)	渡辺晋輔 (主任研究員)	国立西洋美術館	H28.5
6	『ロダン 天才のかたち』 (監修)	馬淵明子 (館長)	白水社	H28.6.20

#### 【査読有り】論文掲載

	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名 (発行者)	発行年月日
1	「冒険と秩序の間—画家たちの著述および芸術誌挿図からみる前衛と古典主義」	阿部真弓 (リサーチフェロー)	『日仏美術学会会報』第35号 (日仏美術学会)	H28.7
2	「ゲーブル社の1世紀」	陳岡めぐみ (主任研究員)	『西洋美術研究』第19号	H28.10
3	Lampes à décor de Baubô dans un contexte du IV <sup>e</sup> siècle à Marseille (共著)	向井朋生 (リサーチフェロー)	<i>Histoires Matérielles : terre cuite, bois, métal et autres objets. Des pots et des potes : Mélanges offerts à Lucien Rivet</i> (éditions Mergoïl)	H28.5

4	Etude de la collection Aubert-Buès d'antiquité africaines au musée de Gap : premiers résultats (共著)	向井朋生 (リサーチフェロー)	<i>Antiquité africaines 52</i> , (CNRS éditions)	H29.1
【査読無し】論文掲載				
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名(発行者)	発行年月日
1	「彫像の白昼夢——形而上絵画と詩神たちの複製技術時代」	阿部真弓 (リサーチフェロー)	『ユリイカ』第684号(青土社)	H28.8
2	【翻訳】ビルギト・ヨース「ドイツにおけるアート・アーカイヴ——その概要」	川口雅子 (主任研究員)	『アート・ドキュメンテーション研究』24号	H29.3.31
3	座談会「美術市場と画商」	陳岡めぐみ (主任研究員)	『西洋美術研究』第19号	H28.10
4	【翻訳】クレイグ・オーウェンス「アレゴリー的衝動——ポストモダニズムの理論に向けて」第1部(後)	新藤淳 (研究員)	東浩紀編『ゲンロン2』 (Genron.inc.)	H28.4.7
5	「別なる場所、ここにいてなお——グローバルアート時代の「悪い場所」で」	新藤淳 (研究員)	東浩紀編『ゲンロン3』 (Genron.inc.)	H28.7.29
6	「世界美術史の批評的地平」	新藤淳 (研究員)	東浩紀編『ゲンロン3』 (Genron.inc.)	H28.7.29
7	【翻訳】クレイグ・オーウェンス「アレゴリー的衝動——ポストモダニズムの理論に向けて」第2部	新藤淳 (研究員)	東浩紀編『ゲンロン3』 (Genron.inc.)	H28.7.29
8	「閉ざされた円環の重力——グスタフ・クリムトの総合芸術作品をめぐる」	新藤淳 (研究員)	池田祐子編『ウィーン——総合芸術に宿る夢(西洋近代の都市と芸術4)』(竹林舎)	H28.8.10
9	「松方コレクションと国立西洋美術館」	村上博哉 (副館長兼学芸課長)	「松方コレクション展—松方幸次郎 夢の軌跡」展図録(神戸市立博物館)	H28.9
10	「ラウル・デュフィのテキスタイル研究：絵画との関連について」	矢野ゆかり (研究補佐員)	『鹿島美術研究 年報』第33号別冊(公益財団法人鹿島美術財団)	H28.11.15
11	書評「『世界認識の方法』としてのリアリズム—小林剛『アメリカン・リアリズムの系譜—トマス・エイキンズからハイパーリアリズムまで』」	横山佐紀 (主任研究員)	『表象』10(表象文化論学会)	H28.4
12	「美術館からみる『みんぱつく』で教室と世界をつなごう！」	横山佐紀 (主任研究員)	『学校と博物館でつくる国際理解教育のワークショップ』国立民族学博物館調査報告138(国立民族学博物館)	H28.12
13	作品解説	渡辺晋輔 (主任研究員)	「ティツィアーノとヴェネツィア派」展図録(NHK, NHKプロモーション)	H29.1.20
その他(研究志向の薄い機関紙, 美術雑誌, 新聞, ウェブサイト等)の発表				
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名(発行者)	発行年月日
1	「女がみるアート」1~18回	吉良智子 (リサーチフェロー)	『東京新聞』	H28.9.5~30(10, 11, 15, 17, 18, 19, 22を除く)
2	「クラーナハ展—500年後の誘惑」	新藤淳 (研究員)	『美術の窓』2016年10月号(生活の友社)	H28.9.20
3	「クラーナハ展—500年後の誘惑」	新藤淳 (研究員)	『うへの』2016年10月号(上野のれん会)	H28.10.1
4	「クラーナハ展—500年後の誘惑」	新藤淳 (研究員)	『Nile's Nile』2016年10月号(ナイルスコミュニケーションズ)	H28.10.1
5	「時代の欲望を量産せよ! クラーナハの芸術力と人間力」	新藤淳 (研究員)	『芸術新潮』2016年11月号(新潮社)	H28.10.25
6	「記憶の重みを背負う人々」	新藤淳 (研究員)	映画「グレート・ミュージアム—ハプスブルク家からの招待状」パンフレット(ドマ)	H28.10

7	「クラナハ展—500年後の誘惑」	新藤淳 (研究員)	「文化庁広報誌 ぶんかる」 (文化庁) (ウェブ)	H28.11.10
8	「安藤裕美」 (あなたの知らないニューカマーアーティスト 100)	新藤淳 (研究員)	『美術手帖』2016年12月号 (美術出版社)	H28.12.1
9	「早すぎた「関係性の美学」? あるいは協働幻想のなかで」 (シャルロット・ボゼネンスケ展)	新藤淳 (研究員)	『美術手帖』2017年1月号(美術出版社)	H29.1.1
10	「ル・コルビュジエと無限成長美術館—その理念を知ろう」	寺島洋子 (主任研究員)	『新美術新聞』	H28.7.21
11	「ル・コルビュジエと国立西洋美術館」	寺島洋子 (主任研究員)	『公明新聞』	H28.7.27
12	「ル・コルビュジエが夢見た<無限成長美術館>」	寺島洋子 (主任研究員)	『Kotoba』 (集英社)	H28.12.6
13	「鑑賞する能力を育てることの重要性」	寺島洋子 (主任研究員)	『初等教育資料』 (東洋館出版社)	H29.2.15
14	「PREVIEW 聖なるもの, 俗なるもの メッケネムとドイツ初期銅版画」	中田明日佳 (研究員)	『美術の窓』7月号 (主婦の友社)	H28.6.20
15	「聖なるもの, 俗なるもの メッケネムとドイツ初期銅版画」	中田明日佳 (研究員)	『うえの』2016年7月号 (上野のれん会)	H.28.7.1
16	アートダイアリー 024 「聖なるもの, 俗なるもの メッケネムとドイツ初期銅版画」	中田明日佳 (研究員)	「文化庁広報誌 ぶんかる」 (文化庁) (Web)	H28.7.20
17	「大高保二郎古希記念論文選 スペイン 美の貌」 (書評)	村上博哉 (副館長兼学芸課長)	『図書新聞』3254号	H28.5.7
18	「図書紹介: 田中正之・横山佐紀・小林剛・瀧井直子・江崎聡子『創られる歴史, 発見される風景 アート・国家・ミソロジー (アメリカ美術叢書)』 (ありな書房, 2016年1月)」	横山佐紀 (主任研究員)	表象文化論学会学会ニュース 『REPRE』27 (表象文化論学会)	H28.6
19	「ラファエロの換骨奪胎戦略と, 伝統の構築」	渡辺晋輔 (主任研究員)	『美術の窓』395号 (生活の友社)	H28.8.20

## エ 国立国際美術館

### A. 学会等発表

	タイトル	学会等名	発表者氏名 (職名)	日付	場所	聴講者数 (人)
1	「美術館における現代美術の保存修復 —タイム・ベースド・メディア作品の修復報告—」	文化財保存修復学会 第38回大会	小川絢子 (特定研究員) 植松由佳 (主任研究員)	H28.6.26	東海大学	300
2	「Japanese Contemporary Art from the Kansai」	Guest Lecture	植松由佳 (主任研究員)	H28.10.29	STPI (シンガポール)	40
3	「ヴォルフガング・ティルマンズ展と国立国際美術館所蔵の写真作品について」	写真コース学外レクチャー	植松由佳 (主任研究員)	H28.11.16	成安造形大学	20
4	「瑛九とデモクラート美術家協会」	第1回「1950年代の前衛グループ〈具体〉再考」	安來正博 (主任研究員)	H28.12.18	大阪大学中之島センター	150
5	「現代美術の可能性」	総合表現研究レクチャー	植松由佳 (主任研究員)	H29.1.12	広島市立大学	90
6	「国立国際美術館での現状と課題」	「みんなでももる文化財みんなをまもるミュージアム」事業第2回研修会	小川絢子 (特定研究員)	H29.2.1	熊本市現代美術館	68
7	「泉茂の若き日々 デモクラートの活動を中心に」	「泉茂 ハンサムな絵のつくりかた」講演会	安來正博 (主任研究員)	H29.2.25	和歌山県立近代美術館	50
8	「History of Self-Portrait in Japan」	Yasumasa Morimura exhibition: Lecture	植松由佳 (主任研究員)	H29.3.14	プーシキン美術館 (ロシア, モスクワ)	50

B. 雑誌等論文掲載						
学術書籍, 研究報告書等の発行						
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名 (発行者)	発行年月日		
1	「国立国際美術館におけるフィオナ・タン《インヴェントリー》の収蔵, 展示について」 (『タイムベースト・メディアを用いた 美術作品の修復/保存のガイド』) (共著)	小川絢子 (特定研究員)	京都市立芸術大学芸術資源研究センター (ウェブ)	H28.3.31		
2	『高松次郎 アトリエを訪ねて』	中西博之 (主任研究員)	ユミコチバアソシエイツ	H28.6.25		
3	「日本の美術館における現代美術作品の収集, 保存管理の課題」 (『「美術」概念の再構築: 「分類の時代」の終わりに』 (国際シンポジウム「日本における「美術」概念の再構築」記録集編集委員会 編) (共著)	植松由佳 (主任研究員)	ブリュッケ	H29.1.27		
4	「コンセプトが前景化するとき——コースから始める」 (『現代アート10講』) (共著)	橋本梓 (主任研究員)	武蔵野美術大学出版局	H29.3.15		
【査読無し】論文掲載						
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名 (発行者)	発行年月日		
1	「山口啓介   カナリア」	中井康之 (学芸課長)	「artscape」2016年04月15日号 (ウェブ)	H28.4.15		
2	「植松永次展「兎のみた空」, 亡霊-捉えられない何か Beyond the tangible」	中井康之 (学芸課長)	「artscape」2016年07月15日号 (ウェブ)	H28.7.15		
3	「古都祝奈良 川俣正「足場の塔」, 宮永愛子「雫-story of the droplets」」	中井康之 (学芸課長)	「artscape」2016年10月15日号 (ウェブ)	H28.10.15		
4	「プレイという集団の継続, その活動の厚みについて」	橋本梓 (主任研究員)	『美術手帖』2017年1月号	H28.12.17		
5	「この世界の在り方」	中井康之 (学芸課長)	「artscape」2017年1月15日号 (ウェブ)	H29.1.15		
6	[タイトルなし] 横山奈美推薦分	橋本梓 (主任研究員)	『VOCA2017』	H29.3.11		
7	「砂が粒になるまで」	福元崇志 (任期付研究員)	『福岡道雄 Michio Fukuoka』展図録 (ギャラリー一ほそかわ)	H29.4		
その他 (研究志向の薄い機関紙, 美術雑誌, 新聞, ウェブサイト等) の発表						
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名 (発行者)	発行年月日		
1	全美フォーラム 「現代美術の修復に備える」	小川絢子 (特定研究員)	『ZENBI 全国美術館会議機関誌』 vol.10 (全国美術館会議)	H28.8.1		
2	アートダイアリー-029 企画展 「THE PLAY since 1967 まだ見ぬ流れの彼方へ」	橋本梓 (主任研究員)	「文化庁広報誌 ぶんかる」 (文化庁) (ウェブ)	H28.12.5		
3	「日本の書 影響くっきり」アレシンスキー展 作品紹介 (上)	中井康之 (学芸課長)	『毎日新聞』	H29.3.8		
4	「墨が支える色彩」アレシンスキー展 作品紹介 (中)	中井康之 (学芸課長)	『毎日新聞』	H29.3.9		
5	「天地創造と文明と」アレシンスキー展 作品紹介 (下)	中井康之 (学芸課長)	『毎日新聞』	H29.3.10		
オ 国立新美術館						
A. 学会等発表						
	タイトル	学会等名	発表者氏名 (職名)	日付	場所	聴講者数 (人)
1	「長谷川三郎における3つの『写真』—戦前期の活動をめぐって—」	明治美術学会 2016年 第3回例会	谷口英理 (特定研究員)	H28.10.29	江戸東京博物館	58

2	「日本のミュージアム・アーカイブズの課題—主に戦後美術資料の活用をめぐる」	公開研究会「現代美術におけるアーカイブズの展開」(科学研究費基盤研究(A)「大学における「アート・リソース」の活用に関する総合的研究」 課題番号 15H01874)	谷口英理 (特定研究員)	H28.12.3	慶應義塾大学	35
3	「ピッツバーグ大学での JAL 出張セミナー開講の試み」	公開ワークショップ「日本美術の資料に関わる情報発信力の向上のための提言 III」(JAL プロジェクト 2016「海外日本美術資料専門家(司書)の招へい・研修・交流事業」実行委員会)	谷口英理 (特定研究員)	H28.12.9	東京国立近代美術館	50
4	「ジュゼッペ・マリア・クレスピの初期作品《洗礼者ヨハネの説教》—図像源泉に関する一考察」	近世美術研究会	中江花菜 (研究補佐員)	H29.3.11	日本大学芸術学部	20
5	対談「田原圭一×真住貴子」	女子美術大学〈光合成〉プロジェクト 実行委員会	真住貴子 (主任研究員)	H28.8.6	女子美術大学	50
6	共鳴する世界のマンガ	文化庁メディア芸術祭 20周年記念企画展 シンポジウム	真住貴子 (主任研究員)	H28.10.15	アーツ千代田 3331	30
7	MANGA インターナショナル ミーティング 「国立新美術館の「日本のマンガ・アニメ・ゲーム」展 国際巡回展について」	一般社団法人マンガ・アニメ展示促進機構	真住貴子 (主任研究員)	H29.3.28	明治大学駿河台キャンパス	20
8	「区間 3 分割による階段関数を用いた絵画画像の色彩変化の計量の試み」	日本色彩学会平成 28 年度研究会大会	室屋泰三 (主任研究員)	H28.11.27	大阪電気通信大学	30
9	「絵画画像の色彩の構造を離散的に捉えるための試行」	日本色彩学会画像色彩研究会平成 28 年度研究発表会	室屋泰三 (主任研究員)	H29.3.4	国立新美術館	10
10	Miyake Issey: The Work of Miyake Issey	越境するファッションセミナー 3.1: アジア太平洋地域のファッション展示	本橋弥生 (主任研究員)	H28.6.2	文化学園大学	30
11	How Has the Miyake Issey Exhibition Influenced the Cultural Landscape of Roppongi?	ICOM Costume Committee	本橋弥生 (主任研究員)	H28.7.5	ミラノ国際会議場	50
12	How did the Japanese Start to Dress in Western fashion in Japan after the WWII? -Chiyo Tanaka and Japanese Fashion in the 1950s and 60s-	The Seminar Anthropology of Fashion Worlds (France) and The Transboundary Fashion Seminar 3.2 (Japan)	本橋弥生 (主任研究員)	H29.3.22	L'école des Hautes études de la science sociale (EHES) フランス, パリ	80
13	「私たちがまだ知らないルノワール」	MMM「オルセー美術館・オランジュリー美術館所蔵 ルノワール展」展連携講座	横山由季子 (アソシエイトフェロー)	H28.6.16	DNP 銀座ビル	50

14	「ルノワールの展覧会戦略」	日仏美術学会シンポジウム「ルノワール、三つの視点から」	横山由季子 (アソシエイトフェロー)	H28.6.25	日仏会館	120
<b>B. 雑誌等論文掲載</b>						
学術書籍, 研究報告書等の発						
	タイトル		執筆者氏名 (職名)	掲載誌名 (発行者)		発行年月日
1	「ピッツバーグ大学での JAL 出張セミナー開講の試み」 (『公開ワークショップ「日本美術の資料に関わる情報発信力の向上のための提言Ⅲ」報告書』) (共著)		谷口英理 (特定研究員)	JAL プロジェクト 2016「海外日本美術資料専門家(司書)の招へい・研修・交流事業」 実行委員会		H29.3.31
2	「日本のミュージアム・アーカイブズの課題—主に戦後美術資料の活用をめぐる」(『ユニヴァーシティー・アート・リソース研究 II』) (共著)		谷口英理 (特定研究員)	科学研究費基盤研究(A)「大学における「アート・リソース」の活用に関する総合的研究」		H29.3.22
3	“How Has the Miyake Issey Exhibition Influenced the Cultural Landscape of Roppongi?” (『ICOM Costume 国際委員会ミラノ大会報告書』) (共著・ウェブ上公開)		本橋弥生 (主任研究員)	ICOM Costume Committee		H28.9.1
4	『第二次世界大戦期のフランス絵画における傷ついた身体:ジャン・フォートリエとオリヴィエ・ドゥブレの絵画についての考察』		山田由佳子 (主任研究員)	公益財団法人サントリー文化財団		H28.10
<b>【査読有り】論文掲載</b>						
	タイトル		執筆者氏名 (職名)	掲載誌名 (発行者)		発行年月日
1	「近代日本のセメント美術—明治期における導入の経緯を中心に—」		坂口英伸 (アソシエイトフェロー)	『近代画説』第25号(明治美術学会)		H28.12.10
<b>【査読無し】論文掲載</b>						
	タイトル		執筆者氏名 (職名)	掲載誌名 (発行者)		発行年月日
1	「瑛九研究における“作品”の範囲と美術館のカテゴリ」		谷口英理 (特定研究員)	『現代の眼』621号(東京国立近代美術館)		H28.12.1
2	「辰野登恵子 絵画の感情と論理」		南雄介 (副館長兼学芸課長)	展覧会リーフレット『辰野登恵子の軌跡/イメージの知覚化』(BBプラザ美術館)		H28.7.5.
3	「辰野登恵子 絵画と版画」		南雄介 (副館長兼学芸課長)	展覧会図録『在る表現 その文脈と諏訪 松沢宥 辰野登恵子 宮坂了作 根岸芳郎』(茅野市美術館)		H28.8.7
4	「河原温」(平成26年物故者)		南雄介 (副館長兼学芸課長)	『日本美術年鑑』(2015年度版)(東京文化財研究所)		H29.3
5	「MIYAKE ISSEY 展:三宅一生の仕事」		本橋弥生 (主任研究員)	『Fashion Talks...』Autumn 2016, Vol. 4(公益財団法人京都服飾文化研究財団)		H28.10.31
6	「ルノワールの展覧会戦略」		横山由季子 (アソシエイトフェロー)	『美術の杜』Vol.40(星雲社)		H28.4.18
7	「19世紀後半のフランスにおける装飾デッサンの絵画への影響」		横山由季子 (アソシエイトフェロー)	『鹿島美術財団年報』第34号(公益財団法人鹿島美術財団)		H28.11.15
その他(研究志向の薄い機関紙, 美術雑誌, 新聞, ウェブサイト等)の発表						
	タイトル		執筆者氏名 (職名)	掲載誌名 (発行者)		発行年月日
1	「日本の美術館にアーカイブズは可能か? シンポジウム『日本の戦後美術資料の収集・公開・活用を考える』」		谷口英理 (特定研究員)	「art scape デジタルアーカイブスタディ」(2016年4月6日号)(ウェブ)		H28.4.6

2	「座談会 今！美術館はどこへ行く」（小勝禮子，建島哲，南雄介，本江邦夫による座談会記録）	南雄介 (副館長兼学芸課長)	『連盟ニュース』2016年4月号，通巻第458号（一般社団法人日本美術家連盟）	H.28.4
3	「知識ゼロからのダリってダリだ？」（インタビュー構成）	南雄介 (副館長兼学芸課長)	『芸術新潮』2016年10月号，通巻第802号（新潮社）	H.28.9.25
4	「ダリ劇場」	南雄介 (副館長兼学芸課長)	『美術の窓』2016年11月号，通巻第398号（生活の友社）	H.28.10.19
5	「ぎゃらりいモール 国立新美術館『ダリ展』から『ポルト・リガトの聖母』」	南雄介 (副館長兼学芸課長)	『読売新聞』夕刊	H.28.11.8
6	「ARTCafé special」（質問回答）	南雄介 (副館長兼学芸課長)	『芸術新潮』2016年12月号，通巻第804号（新潮社）	H.28.11.25
7	「永遠の増殖を続ける色 草間彌生」	南雄介 (副館長兼学芸課長)	『装苑』2017年4月号，第72巻第4号（文化出版局）	H.29.2.28
8	「ダイナミックな生命力のイメージ 草間彌生と植物」	南雄介 (副館長兼学芸課長)	『小原流 挿花』2017年3月号，通巻第796号（一般財団法人小原流）	H.29.3.1
9	「わが永遠の魂 驚異の最新シリーズを一挙公開&徹底解剖！」（インタビュー構成）	南雄介 (副館長兼学芸課長)	『芸術新潮』2017年4月号，通巻第808号（新潮社）	H.29.3.25
10	アートダイアリー 026「日伊国交樹立150周年特別展 アカデミア美術館所蔵 ヴェネツィア・ルネサンスの巨匠たち」	宮島綾子 (主任研究員)	「文化庁広報誌 ぶんかる」（文化庁）（ウェブ）	H28.9.1
11	「MIYAKE ISSEY 展：三宅一生の仕事」	本橋弥生 (主任研究員)	『読売新聞』	H.28.5.10
12	「MIYAKE ISSEY 展：三宅一生の仕事」	本橋弥生 (主任研究員)	「文化庁広報誌 ぶんかる」（文化庁）（ウェブ）	H28.5.16
13	「幻の超大作《スラヴ叙事詩》」	本橋弥生 (主任研究員)	『美術の窓』（生活の友社）	H.29.2
14	「画家ミュシャの全体像」	本橋弥生 (主任研究員)	『版画芸術』	H29.3.1
15	「ルノワールにみる『スケッチの美学』」	横山由季子 (アソシエイトフェロー)	『美術の窓』第35巻第5号（通巻412号）（生活の友社）	H28.5.20
16	「土に触れ，鳥を見上げる：あいちトリエンナーレ2016 虹のキャラヴァンサライ 創造する人間の旅」	横山由季子 (アソシエイトフェロー)	『JunCture』第8号（名古屋大学大学院文学研究科付属「アジアの中の日本文化」研究センター）	H29.3
17	「益永梢子」	米田尚輝 (研究員)	『VOCA展2017 現代美術の展望—新しい平面の作家たち』（「VOCA展」実行委員会，公益財団法人日本美術協会・上野の森美術館）	H29.3

別表 11 所蔵作品等に関するセミナー・シンポジウムの開催

ア 東京国立近代美術館			
(本館)			
セミナー・シンポジウム名	美術館を活用した対話による鑑賞教育の研修	開催年月日	平成 28 年 7 月 25 日
場所	東京国立近代美術館 講堂・所蔵品ギャラリー	聴講者数(人)	教員 51, 中学生 139
講師・パネリスト等の氏名(職名)	一條 彰子(東京国立近代美術館企画課主任研究員) 横山 佐紀(国立西洋美術館学芸課主任研究員) 武内 厚子(東京都写真美術館事業企画課学芸員) 鈴木 智香子(東京藝術大学美術学部特任助手) ほか		
内容	休館日を利用しての、中学校美術教員向けの一日研修を、平成 27 年度に引き続き開催した。参加者は、対話による鑑賞を体験し、グループ協議を行った後、美術館に来館した中学生に実際に対話による鑑賞(トークラリー)を実践した。東京都中学校美術教育研究会との連携研修。		
(工芸館)			
セミナー・シンポジウム名	第 10 回工芸作品鑑賞研究会	開催年月日	平成 28 年 7 月 9 日
場所	工芸館	聴講者数(人)	13
講師・パネリスト等の氏名(職名)	今井陽子(東京国立近代美術館工芸課教育・資料室長) 西岡梢(東京国立近代美術館工芸課教育・資料室研究補佐員)		
内容	工芸鑑賞と言語活動との関連をワークショップ形式を含むセミナーによって検証し、児童・生徒のための作品鑑賞の可能性について意見交換を行った。		
セミナー・シンポジウム名	「工芸から KŌGEI へ～東京国立近代美術館工芸館の役割」	開催年月日	平成 29 年 1 月 8 日
場所	石川県立美術館ホール	聴講者数(人)	130
講師・パネリスト等の氏名(職名)	パネリスト：馬淵明子(独立行政法人国立美術館理事長・東京国立近代美術館長)，嶋崎丞(石川県立美術館館長)，川本敦久(金沢卯辰山工芸工房館長) コーディネーター：唐澤昌宏(東京国立近代美術館工芸課長)		
内容	工芸館の石川移転に係わる石川・金沢における役割についての意見交換を行った。		
(フィルムセンター)			
セミナー・シンポジウム名	ユネスコ「世界視聴覚遺産の日」記念特別イベント 無声映画遺産とアーカイブ	開催年月日	平成 28 年 10 月 22 日
場所	フィルムセンター 大ホール	聴講者数(人)	452
講師・パネリスト等の氏名(職名)	小松弘(早稲田大学文学学術院教授) 岡島尚志(フィルムセンター主幹)		
内容	小松氏による「無声映画の美しさ La Bellezza del Cinema Muto」，主幹・岡島による「アイリス・バリーと D・W・グリフィス—MoMA フィルムライブラリーの始まり」の 2 講演と、関連する無声映画上映を行い、アーカイブによる無声映画遺産の保存活動を歴史的に俯瞰した。		

別表 12 シンポジウムの開催等による国内外の優れた研究者等との人的ネットワークの構築

ア 東京国立近代美術館			
(本館)			
セミナー・シンポジウム名	スペシャルな詩の朗読の会	開催年月日	平成 28 年 7 月 2 日
場所	東京国立近代美術館 講堂	聴講者数(人)	150
講師・パネリスト等の氏名(職名)	吉増剛造(詩人, 文化功労者, 城西国際大学客員教授) フォレスト・ガンダー(詩人, ブラウン大学教授) ジョーダン・スミス(城西国際大学准教授) 堀内正規(早稲田大学文学学術院教授)		
内容	日本語の詩と英語の詩, それぞれを, 日本語と英語, ふたつの言語で朗読することを通じて, ヴォイス・パフォーマンスによる「翻訳」の可能性を探る実践的な研究セミナー。		
セミナー・シンポジウム名	JAL2016「海外日本美術資料専門家(司書)の招へい・研修・交流事業」公開ワークショップ「日本美術の資料に関わる情報発信力の向上のための提言Ⅲ」	開催日	平成 28 年 12 月 9 日
場所	東京国立近代美術館 講堂	聴講者数	60
講師・パネリスト等の氏名(職名)	マルタ・ボスコロ・マルチ(国立ヴェネツィア東洋美術館長), メレッテ・ピーターセン(コペンハーゲン大学図書館員), クリスティン・ウィリアムズ(ケンブリッジ大学図書館員), テロ・サロマー(北海道大学欧州ヘルシンキ事務所副所長), ヴァレンティナ・フォルミサノ(ラファエレ・セレンターノ・アート・ギャラリー・キュレーター), グッド長橋広行(ピッツバーグ大学図書館員), ウェイン・アンドリュウ・クロザース(オーストラリア・国立ビクトリア美術館キュレーター), ゲルガナ・ペトコヴァ(ソフィア大学現代日本研究センター所長) アウローラ・カネパリー(キョッソーネ日本美術館ボランティア), フォクシェネアス・アンカ(ブカレスト大学日本研究センター所長), 江上 敏哲(国際日本文化研究センター図書館資料利用係長), 水谷 長志(東京国立近代美術館企画課情報資料室長), 谷口 英理(国立新美術館美術資料室長)		
内容	関係機関と実行委員会を組織し, 文化庁補助金により実施した。JAL2016の招へい者による「日本美術の資料に関わる情報発信力の向上のための提言Ⅲ」をめぐって, 国内外の関係者が日本の美術資料の情報発信の課題について討議した。		
セミナー・シンポジウム名	JAL2016「海外日本美術資料専門家(司書)の招へい・研修・交流事業」アンサー・シンポジウム「JAL2016WS「日本美術の資料に関わる情報発信力の向上のための提言Ⅲ」への応答 - “またもや”感を越えて」	開催年月日	平成 29 年 2 月 3 日
場所	東京国立近代美術館 講堂	聴講者数(人)	65
講師・パネリスト等の氏名(職名)	水谷長志(東京国立近代美術館企画課情報資料室長), 江上 敏哲(国際日本文化研究センター図書館資料利用係長), 安江 明夫(元国立国会図書館副館長) 茂原 暢(公益財団法人洪沢栄一記念財団情報資源センター長), 永崎 研宣(一般財団法人人文情報学研究所人文情報学研究部門主席研究員), 小篠 景子(国立国会図書館関西館図書館協力課研修交流係長), 山梨 絵美子(東京文化財研究所副所長)		
容	平成 26 年度より 3 階にわたって継続して開催してきた「海外日本美術資料専門家(司書)の招へい・研修・交流事業」公開ワークショップ「日本美術の資料に関わる情報発信力の向上のための提言」において招へい者より受けた日本における情報発信の課題について, その解消に向けた現実的かつ具体的な施策の策定の可能性について討議した。		
(工芸館)			
セミナー・シンポジウム名	第 3 回金沢・世界工芸トリエンナーレ トークリレー	開催年月日	平成 29 年 1 月 22 日
場所	金沢 21 世紀美術館 シアター21	聴講者数(人)	70
講師・パネリスト等の氏名(職名)	パネリスト: ロナルド・ラバコ(インディペンデント・キュレーター, 元ミュージアム・オブ・アーツ・アンド・デザイン キュレーター), チョ・ヘヨン(2015 清州国際工芸ビエンナーレ 展示芸術監督・キュレーター), 唐澤昌宏(東京国立近代美術館工芸課長) コーディネーター: 秋元雄史(金沢 21 世紀美術館館長, 東京藝術大学大学美術館館長)		
内容	パネリストそれぞれの立場から, 新たな工芸と現在の工芸の動向について紹介した。		

(フィルムセンター)			
セミナー・シンポジウム名	講演会「デジタル時代の映画保存」	開催年月日	平成 28 年 10 月 29 日
場所	フィルムセンター 大ホール	聴講者数(人)	118
講師・パネリスト等の氏名(職名)	ジャン＝クリストファー・ホラック / Jan-Christopher Horak (UCLA 映画テレビアーカイブディレクター)		
内容	「平成 28 年度 美術館・歴史博物館重点分野推進支援事業」で講師を招聘し、デジタル時代における UCLA 映画テレビアーカイブの映画保存の方針や方法についての講演を開催した。		
セミナー・シンポジウム名	「DEFA の遺産 禁止映画の背景」	開催年月日	平成 28 年 12 月 3 日
場所	フィルムセンター 大ホール	聴講者数(人)	151
講師・パネリスト等の氏名(職名)	シュテファニ・エッケルト Stefanie Eckert (DEFA 財団理事長代理, DEFA 映画研究家)		
内容	DEFA 財団から講師を招聘し、1960 年代に東ドイツの検閲で封印された「禁止映画」が数多く生まれた背景について、歴史的な脈から講演した。		
セミナー・シンポジウム名	NFC シンポジウム：「映画におけるデジタル保存と活用のためのシンポジウム」	開催年月日	平成 29 年 1 月 26 日 平成 29 年 1 月 27 日
場所	フィルムセンター 大ホール	聴講者数(人)	各日 243, 254
講師・パネリスト等の氏名(職名)	<p>講演者(登壇順)：</p> <p>岡島 尚志 (フィルムセンター主幹)</p> <p>大関 勝久 (フィルムセンターBDC プロジェクトユニットリーダー)</p> <p>佐崎 順昭 (フィルムセンターBDC プロジェクト特定研究員)</p> <p>三浦 和己 (フィルムセンターBDC プロジェクト特定研究員)</p> <p>馬渡 貴志 (一般社団法人日本映画テレビ技術協会 アニメーション部会 部会長) ,</p> <p>港 郁雄 (協同組合日本映画・テレビ録音協会理事)</p> <p>五十嵐 真 (株式会社松竹映像センターメディア・アセット・マネジメント部部長)</p> <p>吉田 力雄 (一般社団法人日本動画協会副理事長 データベース・アーカイブ委員会担当理事)</p> <p>松本 圭二 (福岡市総合図書館映像資料課映像管理員)</p> <p>大傍 正規 (フィルムセンター映画室主任研究員)</p> <p>中西 智範 (フィルムセンターBDC プロジェクト特定研究員)</p> <p>本田 伸彰 (国立国会図書館関西館電子図書館課研究企画係長)</p> <p>松山 ひとみ (フィルムセンターBDC プロジェクト特定研究員)</p> <p>数藤 雅彦 (五常法律会計事務所弁護士)</p> <p>中嶋 清美 (公益社団法人映像文化製作者連盟事務局長)</p> <p>清野 晶宏 (株式会社 IMAGICA メディア制作事業部シニアテクニカルディレクター)</p> <p>亀村 文彦 (株式会社ロゴスコープ代表取締役)</p> <p>河東 努 (コンチネンタルファーイースト株式会社ドルビーフィルム製作部課長)</p> <p>岡本 直佐 (フィルムセンターBDC プロジェクト特定研究員)</p> <p>杉野 博史 (株式会社エヌ・ティ・ティ・データ第一公共事業本部 第三公共事業部第三システム統括部部長)</p> <p>金子 晋丈 (慶應義塾大学理工学部情報工学科兼デジタルメディア・コンテンツ統合研究センター専任講師)</p> <p>生貝 直人 (東京大学大学院情報学環客員准教授)</p> <p>神崎 正英 (ゼノン・リミテッド・パートナーズ代表)</p> <p>丸川 雄三 (国立民族学博物館先端人類科学研究部准教授)</p> <p>パネルディスカッション パネリスト：</p> <p>水戸 遼平 (株式会社 IMAGICA 映画・CM 制作事業部アーカイブプロデューズグループ)</p> <p>谷本 萌生 (東映株式会社映像本部コンテンツ事業部業務室係長)</p> <p>生貝 直人 (東京大学大学院情報学環客員准教授)</p> <p>金子 晋丈 (慶應義塾大学理工学部情報工学科兼デジタルメディア・コンテンツ統合研究センター専任講師)</p> <p>とちぎ あきら (フィルムセンター映画室主任研究員)</p> <p>パネルディスカッション 司会：大関 勝久 (フィルムセンターBDC プロジェクトユニットリーダー)</p>		
内容	BDC プロジェクトの取組について報告するとともに、関係する方々の講演を行い、現状の理解を深め課題の共有化を進めた。さらにパネルディスカッションにより今後の進むべき方向について意見交換を行った。		

イ 京都国立近代美術館			
セミナー・シホポジウム名	記念講演会「ポール・スミスの〈英国〉は、いかに世界を変えたか」	開催年月日	平成 28 年 6 月 5 日
場所	京都国立近代美術館 講堂	聴講者数(人)	100
講師・パネリスト等の氏名(職名)	講師：デヤン・スジック氏(デザイン・ミュージアム館長)		
内容	展覧会「ポール・スミス展 HELLO, MY NAME IS PAUL SMITH」の関連イベントとして、デザイン・ミュージアム館長デヤン・スジック氏を講師に迎え、「ポール・スミスの〈英国〉は、いかに世界を変えたか」と題したシンポジウムを開催した。		
セミナー・シホポジウム名	トークセッション「メンズファッションの歴史と現在」	開催年月日	平成 28 年 7 月 3 日
場所	京都国立近代美術館 講堂	聴講者数(人)	112
講師・パネリスト等の氏名(職名)	ゲスト：中野香織氏(明治大学特任教授) 百々徹氏(京都造形芸術大学准教授) モデレーター：蘆田裕史氏(京都精華大学講師)		
内容	展覧会「ポール・スミス展 HELLO, MY NAME IS PAUL SMITH」の関連イベントとして、明治大学特任教授の中野香織氏及び京都造形芸術大学准教授の百々徹氏をゲストに、京都精華大学講師の蘆田裕史氏をモデレーターに迎え、メンズファッションの歴史と現在を探るトークセッションを開催した。		
セミナー・シホポジウム名	記念講演会 「異言としての絵画／文法を欠いた普遍言語」	開催年月日	平成 28 年 8 月 6 日
場所	京都国立近代美術館 講堂	聴講者数(人)	70
講師・パネリスト等の氏名(職名)	講師：岡崎乾二郎氏(造形作家)		
内容	展覧会「あの時みんな熱かった！アンフォルメルと日本の美術」の関連イベントとして、造形作家でありジャンル横断的な視点を持った美術批評家としても知られる岡崎乾二郎氏を迎え、日本の戦後美術史におけるアンフォルメルの意味や位置づけについて論じてもらった。		
ウ 国立西洋美術館			
セミナー・シホポジウム名	イスラエル・ファン・メッケネムのコピー制作について	開催年月日	平成 28 年 7 月 9 日
場所	国立西洋美術館 講堂	聴講者数(人)	56
講師・パネリスト等の氏名(職名)	講師：アヒム・リーター(ミュンヘン州立版画素描館 15～18 世紀ドイツ部門主任学芸員)		
内容	15 世紀後半から 16 世紀初頭にかけて活動したドイツの初期銅版画家イスラエル・ファン・メッケネムは、他作者の版画に基づくコピーを大量生産したことで知られる。本講演では、メッケネムの版画家としての活動をたどりつつ、当時におけるコピー制作に対する考え方を明らかにした。		
セミナー・シホポジウム名	歴史の中のニコラ・プッサンの芸術	開催年月日	平成 28 年 9 月 3 日
場所	国立西洋美術館 講堂	聴講者数(人)	89
講師・パネリスト等の氏名(職名)	講師：ヘンリ・キーゾル教授(ハイデルベルク大学ヨーロッパ美術史研究所)		
内容	17 世紀フランスの画家ニコラ・プッサンは、今でこそ美術史上の「巨匠」の座を確立しているが、1960 年のルーヴル美術館における大回顧展に至るまでは「時代遅れ」として敬して遠ざけられ、忘れ去られていた。本講演では、フランシス・ベーコンやピカソらの芸術家や歴代のプッサン研究者による二十世紀におけるプッサンの再発見の歴史を振り返り、プッサン芸術の特質を多面的に明らかにした。		

セミナー・シンポジウム名	旅する芸術家—クラナハとネーデルラント	開催年月日	平成 28 年 10 月 15 日
場所	国立西洋美術館 講堂	聴講者数(人)	122
講師・パネリスト等の氏名(職名)	講師：グイド・メスリング(ウィーン美術史美術館学芸員)		
内容	ドイツ・ルネサンスを代表する画家ルカス・クラナハ(父)は、ザクセン選帝侯の宮廷画家としておよそ半世紀近く活動したが、当時の習わしのひとつに、自身の宮廷画家を別の宮廷に貸し出すという行為があった。本講演ではザクセン宮廷と、とりわけネーデルラント総督マルグリット・ドートリッシュとの関係を紐解きながら、近年ようやく新たな光をあてられつつあるクラナハとネーデルラント美術との複雑な関係が、豊富な視覚資料とともに照らし出された。		
セミナー・シンポジウム名	17 世紀オランダ美術と〈アジア〉	開催年月日	平成 29 年 1 月 21 日
場所	国立西洋美術館 講堂	聴講者数(人)	50
講師・パネリスト等の氏名(職名)	司会：熊澤弘(武蔵野音楽大学講師)，中田明日佳(国立西洋美術館研究員) 発表者：幸福輝(国立西洋美術館客員研究員)，櫻庭美咲(国立歴史民俗博物館機関研究員)，青野純子(九州大学准教授)，日高薫(国立歴史民俗博物館教授)，施静菲(台湾大学准教授)，アンナ・グラスカンプ(香港浸会大学リサーチ・アシスタント・プロフェッサー/ハイデルベルク大学フェロー)，深谷訓子(京都市立芸術大学准教授)，テイス・ウエストステイン(ユトレヒト大学教授)，尾崎彰宏(東北大学教授)		
内容	本シンポジウムは、幸福氏を中心とする研究メンバーにより 2012~16 年度にかけて行われた、科学研究費補助金の助成に基づく研究(17 世紀オランダ美術の東洋表象研究)の成果発表も兼ねて、実施されたものである。17 世紀オランダ美術を研究対象とする日本人美術史家を中心に、東西交流を研究テーマとするオランダ、中国、日本の研究者をくわえ、様々な視点から、17 世紀オランダ美術とアジアとの関係を探る試みであった。		
セミナー・シンポジウム名	スケーエン派の画家たち	開催年月日	平成 29 年 2 月 11 日
場所	国立西洋美術館 講堂	聴講者数(人)	74
講師・パネリスト等の氏名(職名)	講師：リセッテ・ヴィン・エベエセン(スケーエン美術館長)		
内容	デンマークの最北端に位置する漁村スケーエンには、19 世紀後半から 20 世紀初頭にかけて北欧諸国から画家や詩人が集まり、国際的な芸術家コロニーが形成された。本講演はスケーエンの芸術家コロニーの歴史と、主要な画家たちの作風の特徴を論じ、さらにスケーエン美術館創設の経緯と現在の活動について紹介を行った。		
<b>エ 国立国際美術館</b>			
セミナー・シンポジウム名	美術史学会 美術館博物館委員会 シンポジウム 2016 「境界／ボーダーを越えて—未来の学芸員のために」	開催年月日	平成 28 年 4 月 16 日
場所	国立国際美術館 講堂	聴講者数(人)	80
講師・パネリスト等の氏名(職名)	挨拶：鈴木廣之(美術史学会代表)，山梨俊夫(国立国際美術館館長) 司会：泉武夫(東北大学)，内田啓一(早稲田大学) 基調報告：後小路雅弘(九州大学) プレゼンテーション：楠本智郎(つなぎ美術館学芸員)，櫛野展正(キュレーター/元・鞆の津ミュージアム)，稲庭彩和子(東京都美術館学芸員) 工藤健志(青森県立美術館学芸員)，山内宏泰(リアス・アーク美術館学芸員) 全体討議・質疑：楠本智郎(つなぎ美術館学芸員)，櫛野展正(キュレーター/元・鞆の津ミュージアム)，稲庭彩和子(東京都美術館学芸員)，工藤健志(青森県立美術館学芸員)，山内宏泰(リアス・アーク美術館学芸員) モデレーター：川浪千鶴(高知県立美術館企画監兼学芸課長)		
内容	各美術館の発表者の活動を紹介、及び全員でのパネルディスカッションを通して、今日のミュージアムの課題と未来の可能性を探った。		

セミナー・シンポジウム名	鑑賞学習を通じた学びを考える会 講演会：育成する資質や能力を明確にした美術鑑賞の学習指導のあり方	開催年月日	平成 28 年 5 月 8 日
場所	国立国際美術館 講堂	聴講者数(人)	177
講師・パネリスト等の氏名(職名)	上野行一(美術による学び研究会代表)		
内容	次期学習指導要領改訂を念頭に、児童生徒に育成すべき資質/能力を明確にした鑑賞学習指導のあり方について、国立国際美術館主催の教職員を対象とした「鑑賞学習を通じた学びを考える会」の午前の部で特別講演いただいた。		
セミナー・シンポジウム名	芸術の(再)歴史化：作品と資料体のあいだで	開催年月日	平成 28 年 10 月 29 日
場所	国立国際美術館 講堂	聴講者数(人)	60
講師・パネリスト等の氏名(職名)	上崎千(芸術学/アーカイヴ理論)、田中龍也(群馬県立近代美術館)、富井玲子(美術史家・「ボンジャ現懇」主宰)、平井章一(京都国立近代美術館主任研究員)、橋本梓(国立国際美術館主任研究員)		
内容	プレイ展に関連したシンポジウム。資料の重要性が改めて認識され、アーカイヴ整備が進行しつつある傾向のなか、展覧会などの調査を通じて芸術が(再)歴史化される状況そのものに目を向けた。		
セミナー・シンポジウム名	キュレーター・ミーティング 2016	開催年月日	平成 28 年 11 月 25 日 ～11 月 27 日
場所	国立国際美術館 講堂	聴講者数(人)	30
講師・パネリスト等の氏名(職名)	ゲイリー・キャリオン＝ムラヤリ/ニュー・ミュージアム(ニューヨーク) アンセルム・フランケ/ハウス・オブ・ワールド・カルチャーズ(バルリン) 片岡真美/森美術館(東京) マリア・イネス・ロドリゲス/ボルドー現代美術館 植松由佳/国立国際美術館(大阪) 藪前知子/東京都現代美術館		
内容	現代美術センターCCA北九州、国立国際美術館、独立行政法人国際交流基金の共催により3日間にわたって開催されたイベント。2010年から開催されており今回が6回目で国立国際美術館での開催は初。それぞれ異なる状況で活動している世界各国キュレーターたちが、一つのテーブルに集い、3日間にわたり交流を深めながら、現代アートを取り巻く様々な課題について話し合いを重ねた。今回のミーティングでは、歴史、そして現状をふまえ、未来に向けてどのような挑戦ができるのかについて議論を行った。		
セミナー・シンポジウム名	ボイス・グロイス来日記念講演シリーズ アートに力は内在するか? アートと共同性	開催年月日	平成 29 年 1 月 15 日
場所	国立国際美術館 講堂	聴講者数(人)	130
講師・パネリスト等の氏名(職名)	田中功起(アーティスト)、石田圭子(神戸大学大学院国際文化学研究所 准教授)、アンドリュー・マークル(ART iT 編集者)		
内容	日本における美術制度と共同性についての議論。アートは、市場や制度に取り込まれながらも、様々なかたちでそれらを無効にし、その無効性自体によって、アートは市場や制度に抵抗することができるということに、注目してきたグロイス氏を招いたパネルトークを実施。		
<b>オ 国立新美術館</b>			
セミナー・シンポジウム名	ダリ・特別講演会	開催年月日	平成 28 年 9 月 14 日
場所	セルバンテス文化センター東京	聴講者数(人)	150
講師・パネリスト等の氏名(職名)	ファン・マヌエル・セビリャノ(ガラ＝サルバドール・ダリ財団 事務局長) ハंक・ハイン(サルバドール・ダリ 美術館 館長) マリア・ボラーニョス(国立ソフィア王妃芸術センター 理事)		
内容	ダリ展を記念し、セルバンテス文化センターとも共催してシンポジウムを開催した。		

セミナー・シンポジウム名	展覧会とマスメディア	開催年月日	平成 29 年 1 月 21 日
場所	国立新美術館 講堂	聴講者数(人)	130
講師・パネリスト等の氏名(職名)	司会 青木保(国立新美術館長) 登壇者 井上昌之(日本経済新聞社 文化事業局 兼 経営企画室シニアプロデューサー) 高橋明也(三菱一号館美術館館長) 前田恭二(読売新聞東京本社 編集局文化部次長) 南雄介(国立新美術館副館長) 蓑豊(兵庫県立美術館館長) 村田真(美術ジャーナリスト)		
内容	1950年代以降の日本では、大手新聞各社が美術展を主催するようになり、やがて放送局も参入し、美術館とマスメディアが共同で展覧会を企画するわが国独自のスタイルが確立された。しかし今日、観客の志向の変化や展覧会の一層の商業化により、状況は大きく変化しつつある。本シンポジウムでは、マスメディア共催による美術展の歴史的な経緯や海外の事例をふまえつつ、今後の展覧会のあり方を考察した。		
セミナー・シンポジウム名	「アーカイヴ」再考 現代美術と美術館の新たな動向	開催年月日	平成 29 年 1 月 28 日
場所	国立新美術館 企画展示室1E	聴講者数(人)	85
講師・パネリスト等の氏名(職名)	登壇者 今井朋(アーツ前橋学芸員) 下道基行(美術家・写真家) 鈴木勝雄(東京国立近代美術館主任研究員) 中村史子(愛知県美術館学芸員) 長屋光枝(国立新美術館主任研究員) 橋本一径(早稲田大学文学学術院准教授) 横山由季子(国立新美術館アソシエイトフェロー)		
内容	現代美術の展覧会を訪れて気づかされるのは、世界の断片を拾い集め、その集積によって新たな世界を構築するような作品や、資料を提示するかのような展示の方法が確実に増えていることである。これらは、「作品」という概念を転覆させ、観者にまったく新しいアプローチを要求してくる。本シンポジウムでは、この「アーカイヴ」的な志向が、美術館という実践の場でどのように機能し、それが美術館の未来にどのような地平を切り開くのかを議論した。		

## 独立行政法人国立美術館(法人番号f12)の役職員の報酬・給与等について

## I 役員報酬等について

## 1 役員報酬についての基本方針に関する事項

## ① 役員報酬の支給水準の設定についての考え方

国立美術館は、美術館を設置して、美術(映画を含む。)に関する作品その他資料を収集し、保管して公衆の観覧に供するとともに、これに関連する調査及び研究並びに教育及び普及の事業等を行うことにより、芸術その他の文化の振興を図ることを目的としている。  
 そうした組織の中で、理事長は、法人全体の活動を総括する一方で、我が国における芸術文化の創造と発展、国民の美的感性の育成を使命とし、美術振興の中心拠点として、高いマネジメント能力やリーダーシップに加え、高度な専門性が求められる。  
 理事においてもこれら多岐に渡る業務を遂行する理事長の職務を補佐するにあたり、相当の能力と専門性が求められる。  
 以上により役員報酬の設定にあたっては、国家公務員の指定職、文化分野の保存・活用等を図ることを主要な業務とする他法人の長を参考とした。

## ② 平成28年度における役員報酬についての業績反映のさせ方(業績給の仕組み及び導入実績を含む。)

独立行政法人国立美術館役員報酬規則により、役員に支給される報酬のうち、期末特別手当においては、文部科学大臣が行う業績評価、役員としての業務に対する貢献度等を総合的に勘案して理事長が決定する評価に基づき、期末特別手当の額の100分の10の範囲内で、これを増額し、又は減額した額とすることができるものとしている。平成28年度においては、平成27年度の評価結果を基に検討の結果、業績に反映するほどの特に顕著な業績や失態がなかったと判断し、役員報酬の増減は行わなかった。

## ③ 役員報酬基準の内容及び平成28年度における改定内容

## 法人の長

役員報酬支給基準は、月額及び期末特別手当から構成されている。月額については、独立行政法人国立美術館役員報酬規則に則り、俸給月額(984,000円)及び地域手当(俸給月額の20%)の月額並びに俸給月額及び地域手当の月額に100分の20を乗じて得た額並びに俸給月額に100分の25を乗じて得た額の合計額に、6月に支給する場合においては100分の155、12月に支給する場合においては100分の170を乗じて得た額としている。また、文部科学大臣が行う業績評価の結果を勘案して、前項の規定による期末特別手当の額の100分の10の範囲内で、これを増額し、又は減額した額とすることができることとしている。  
 平成28年度においては、国家公務員の給与改定の状況を踏まえた改定として、①地域手当支給率の引き上げ(東京都特別区18.5%→20%)、②期末特別手当支給率の引き上げ(年間0.1ヶ月分)を実施した。

## 理事

役員報酬支給基準は、法人の長と同様である。月額については、独立行政法人国立美術館役員報酬規則に則り、俸給月額(761,000円から912,000円)及び地域手当(東京都特別区20%、大阪市16%京都市10%)の月額並びに俸給月額及び地域手当の月額に100分の20を乗じて得た額並びに俸給月額に100分の25を乗じて得た額の合計額に、6月に支給する場合においては100分の147.5、12月に支給する場合においては100分の167.5を乗じて得た額としている。また、文部科学大臣が行う業績評価の結果を勘案して、前項の規定による期末特別手当の額の100分の10の範囲内で、これを増額し、又は減額した額とすることができることとしている。  
 平成28年度においては、国家公務員の給与改定の状況を踏まえた改定として、①地域手当支給率の引き上げ(東京都特別区18.5%→20%、大阪市15.5%→16%)、②期末特別手当支給率の引き上げ(年間0.1ヶ月分)を実施した。

## 監事(非常勤)

独立行政法人国立美術館役員報酬規則に則り、非常勤役員手当として月額80,000円としている。なお、平成28年度においては改定は行っていない。

## 2 役員報酬等の支給状況

役名	平成28年度年間報酬等の総額				就任・退任の状況		前職
	千円	報酬(給与) 千円	賞与 千円	その他(内容) 千円	就任	退任	
法人の長	19,621	11,808	5,405	2,362 (地域手当) 47 (通勤手当)		H29.3.31	
A理事	17,389	10,944	4,653	1,094 (地域手当) 145 (通勤手当) 522 (単身赴任手当)		H29.3.31	
B理事	17,645	10,944	4,867	1,751 (地域手当) 83 (通勤手当)		H29.3.31	
C理事	15,229	9,132	4,180	1,826 (地域手当) 91 (通勤手当)		H29.3.31	◇
A監事 (非常勤)	400	0	0	0 ( )		H28.7.31	
B監事 (非常勤)	400	0	0	0 ( )		H28.7.31	
C監事 (非常勤)	560	0	0	0 ( )	H28.8.1		
D監事 (非常勤)	560	0	0	0 ( )	H28.8.1		

注1:「その他」欄には手当等が支給されている場合は、例えば通勤手当の総額を記入する。

注2:「前職」欄には、役員の前職の種類別に以下の記号を付す。

退職公務員「\*」、役員出向者「◇」、独立行政法人等の退職者「※」、退職公務員でその後独立行政法人等の退職者「\*※」、該当がない場合は空欄

## 3 役員報酬水準の妥当性について

### 【法人の検証結果】

#### 法人の長

国立美術館は、美術館を設置して、美術(映画を含む。)に関する作品その他資料を収集し、保管して公衆の観覧に供するとともに、これに関連する調査及び研究並びに教育及び普及の事業等を行うことにより、芸術その他の文化の振興を図ることを目的としている。  
 そうした組織の中で、理事長は、法人全体の活動を総括する一方で、我が国における芸術文化の創造と発展、国民の美的感性の育成を使命とし、美術振興の中心拠点として、高いマネジメント能力やリーダーシップに加え、高度な専門性が求められる。  
 また、理事長の年間報酬額は、事務次官の年間給与額(2,297万円)と比較してもそれを下回っており、文化分野の保存・活用を図ることを主要な業務とする他法人の長の年間報酬額(1,800万円超)とほぼ同水準となっており、こうした職務内容の特性や他法人等との比較を踏まえると、報酬水準は妥当であると考えられる。

#### 理事

理事の職務においては、上記理事長の多岐に渡る業務を補佐するにあたり、相当の専門性を求めている。また、文化分野の保存・活用等を図ることを主要な業務とする他法人の理事の年間報酬額(1,500万円超)とほぼ同水準となっており、こうした職務内容の特性や他法人等との比較を踏まえると、報酬水準は妥当であると考えられる。

#### 監事(非常勤)

監事(非常勤)については、国家公務員における指定職俸給表1号俸相当をベースに、業務内容、想定勤務日数等を総合的に勘案し算出している。また、文化分野の保存・活用を図ることを主要な業務とする他法人の監事(非常勤)の報酬額との比較を踏まえると、報酬水準は妥当であると考えられる。

### 【主務大臣の検証結果】

専門性の観点及び同等分野の法人との比較において報酬水準は妥当であると考え。また、国及び民間との比較においても報酬水準は下回っていること等から報酬額は適正であると考え。

4 役員の退職手当の支給状況(平成28年度中に退職手当を支給された退職者の状況)

区分	支給額(総額)	法人での在職期間	退職年月日	業績勘案率	適用	前職
法人の長	千円 該当なし	年 月				
理事	千円 該当なし	年 月				
監事 (非常勤)	千円 該当なし	年 月				

注:「前職」欄には、退職者の役員時の前職の種類別に以下の記号を付す。  
退職公務員「\*」、役員出向者「◇」、独立行政法人等の退職者「※」、退職公務員でその後独立行政法人等の退職者「\*※」、該当がない場合は空欄

5 退職手当の水準の妥当性について

【主務大臣の判断理由等】

区分	判断理由
法人の長	該当なし
理事	該当なし
監事 (非常勤)	該当なし

注:「判断理由」欄には、法人の業績、担当業務の業績及び個人的な業績の検討結果を含め、業績勘案率及び退職手当支給額の決定に到った理由等を具体的に記入する。

6 業績給の仕組み及び導入に関する考え方

当法人においては、期末特別手当について、独立行政法人国立美術館役員報酬規則に則り、文部科学大臣が行う業績評価の結果を勘案して、前項の規定による期末特別手当の額の100分の10の範囲内で、これを増額し、又は減額した額とすることができることとしている。

## II 職員給与について

### 1 職員給与についての基本方針に関する事項

#### ① 職員給与の支給水準の設定等についての考え方

独立行政法人通則法第50条の10第3項に基づき、業務の実績を考慮し、かつ、社会一般情勢(国家公務員の給与水準)に適合するよう、学歴、試験、経験及び職務の責任の度合いを基に給与水準を決定している。

#### ② 職員の発揮した能率又は職員の勤務成績の給与への反映方法についての考え方(業績給の仕組み及び導入実績を含む。)

勤務評定等の結果を踏まえた勤務成績を考慮し、昇格、昇給の実施及び勤勉手当の成績率の決定を行っている。

[能率、勤務成績が反映される給与の内容]

給与種目	制度の内容
俸給月額 (昇格)	従事する職務に応じ、かつ、総合的な能力の評価により1級上位の級に昇格させることができる。
俸給月額 (昇給)	昇給期間における勤務成績等に応じて、上位の号俸に昇給させることができる。
賞与: 勤勉手当 (査定分)	基準日以前6箇月以内の期間における、勤務成績に応じて決定される支給割合(成績率)に基づき支給される。

#### ③ 給与制度の内容及び平成28年度における主な改定内容

独立行政法人国立美術館職員給与規則に則り、俸給及び諸手当(扶養手当、地域手当、住居手当、通勤手当、単身赴任手当、超過勤務手当、休日出勤手当、夜勤手当、管理職手当、主任研究員手当、期末手当及び勤勉手当)としている。

期末手当については、期末手当基準額(俸給+扶養手当+地域手当+役職段階別加算額+管理職加算額)に6月に支給する場合においては100分の122.5、12月に支給する場合においては100分の137.5を乗じ、さらに基準日以前6箇月以内の期間におけるその者の在職期間に応じた割合を乗じて得た額としている。

勤勉手当については、勤勉手当基準額(俸給+地域手当+役職段階別加算額+管理職加算額)に勤勉手当の支給基準に従って定める割合を乗じて得た額としている。

また、平成28年度においては国家公務員の給与改定に準拠し、①人事院勧告による官民較差等の状況を踏まえ、俸給水準を平均0.2%引き上げ(平成29年2月期において平成28年4月に遡及して引き上げを実施)、②地域手当支給率の引き上げ(東京都特別区18.5%→20%、相模原市10.5%→12%、大阪市15.5%→16%)、③勤勉手当支給率の引き上げ(年間0.1ヶ月分)を実施した。

## 2 職員給与の支給状況

### ① 職種別支給状況

区分	人員	平均年齢	平成28年度の年間給与額(平均)			
			総額	うち所定内		うち賞与
				うち通勤手当		
	人	歳	千円	千円	千円	千円
常勤職員	89	44.4	7,709	5,750	162	1,959
事務・技術	38	40.7	6,339	4,724	177	1,615
研究職種	50	47.2	8,785	6,554	148	2,231
技能・労務職種	1	-	-	-	-	-
任期付職員	1	-	-	-	-	-
指定職種	1	-	-	-	-	-
非常勤職員	14	42.4	5,792	5,672	181	120
事務・技術	6	44.5	4,445	4,164	130	281
研究職種	8	40.9	6,803	6,803	219	0

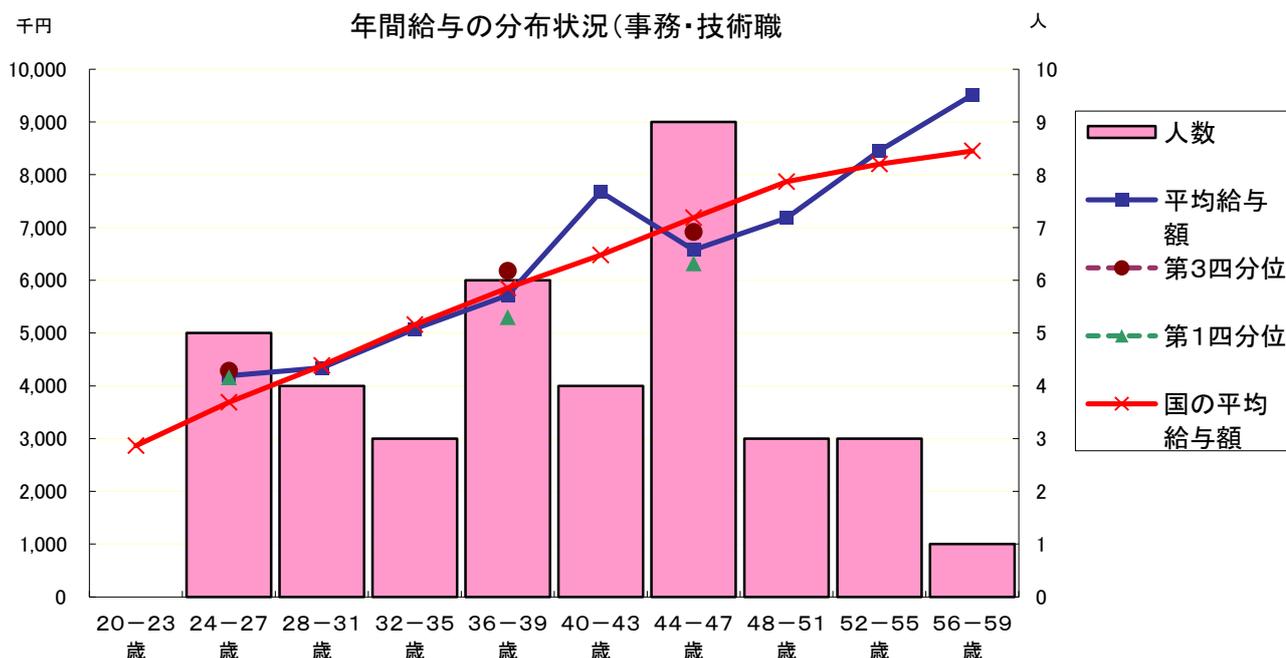
注1: 常勤職員については、在外職員、任期付職員及び再任用職員を除く。

注2: 技能・労務職種とは、守衛の業務、又は映写技術に関する業務に従事する職種をいう。

注3: 技能・労務職種、指定職種の該当者は1人の為、当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから、平均年齢以下の項目を記載していない。

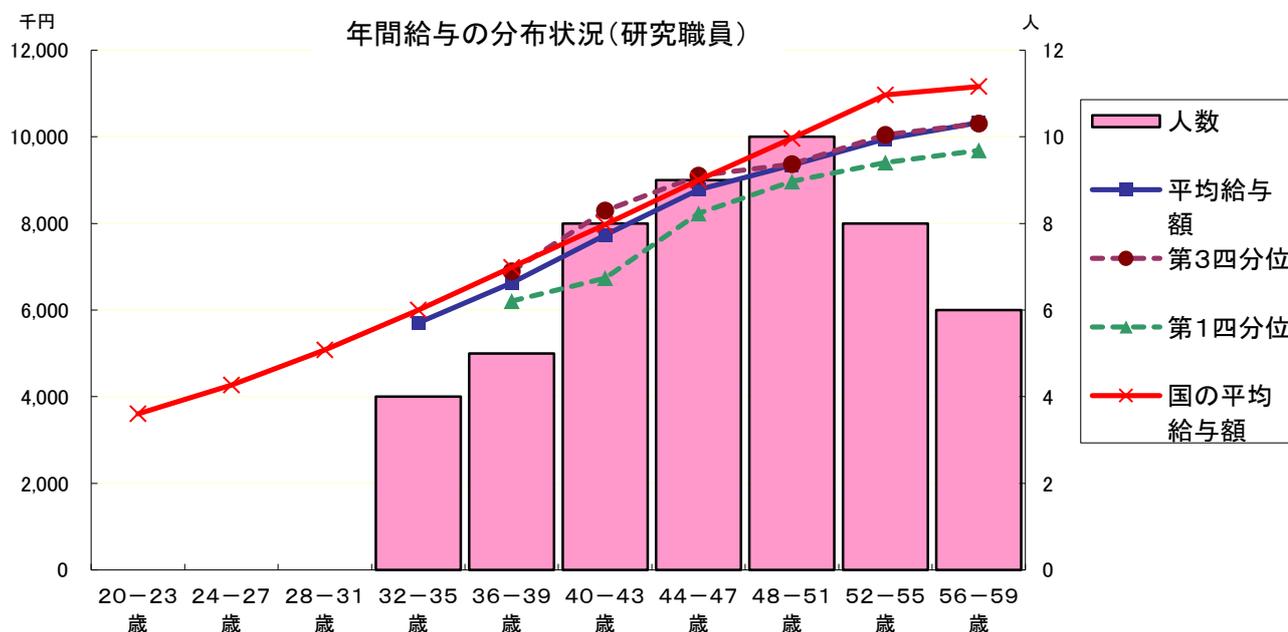
注4: 常勤職員、任期付職員、非常勤職員のうち医療職種(病院医師)、医療職種(病院看護師)及び教育職種(高等専門学校教員)、在外職員並びに再任用職員については、該当する者がいないため欄を省略した。

② 年齢別年間給与の分布状況(事務・技術職員／研究職員)〔在外職員、任期付職員及び再任用職員を除く。以下、④まで同じ。〕



注1: ①の年間給与額から通勤手当を除いた状況である。以下、④まで同じ。

注2: 年齢28-31歳、32-35歳、40-43歳、48-51歳、52-55歳及び56歳-59歳の該当者については4人以下のため、当該個人に関する情報が特定されるおそれがあることから、第1・第3四分位を表示していない。



注: 年齢32-35歳の該当者については4人以下のため、当該個人に関する情報が特定されるおそれがあることから、第1・第3四分位を表示していない。

③ 職位別年間給与の分布状況(事務・技術職員／研究職員)

(事務・技術職員)

分布状況を示すグループ	人員	平均年齢	年間給与額		
			平均	最高～最低	
	人	歳	千円	千円	千円
代表的職位					
本部課長	2	-	-	-	-
本部係長	5	41.9	6,290	7,187	5,303
本部係員	4	27.8	4,265	-	-
地方課長	3	50.5	8,656	-	-
地方室長	1	-	-	-	-
地方係長	13	45.0	6,466	7,829	5,026
地方主任	5	38.5	5,549	6,290	4,795
地方係員	5	28.3	4,253	4,511	4,002

注1: 本部係員、地方課長の該当者は4人以下のため、当該個人に関する情報が特定されるおそれがあることから、最高～最低を記載していない。

注2: 本部課長、地方室長の該当者は2人以下のため、当該個人に関する情報が特定されるおそれがあることから、平均年齢以下の項目を記載していない。

(研究職員)

分布状況を示すグループ	人員	平均年齢	年間給与額		
			平均	最高～最低	
	人	歳	千円	千円	千円
代表的職位					
副館長	2	-	-	-	-
学芸課長	7	53.5	10,429	12,312	9,103
本部主任研究員	1	-	-	-	-
主任研究員	33	46.9	8,544	10,044	6,507
研究員	7	38.1	5,901	6,235	5,292

注: 副館長、本部主任研究員の該当者は2人以下のため、当該個人に関する情報が特定されるおそれがあることから、平均年齢以下の項目を記載していない。

④ 賞与(平成28年度)における査定部分の比率(事務・技術職員／研究職員)

(事務・技術職員)

区分		夏季(6月)	冬季(12月)	計
管理職員	一律支給分(期末相当)	%	%	%
	査定支給分(勤勉相当)(平均)	%	%	%
	最高～最低	～	～	～
一般職員	一律支給分(期末相当)	60.4	60.5	60.5
	査定支給分(勤勉相当)(平均)	39.6	39.5	39.5
	最高～最低	44.7～36.8	42.0～36.6	41.9～36.9

注: 事務・技術職員の管理職員は2人以下のため、記載していない。

## (研究職員)

区分		夏季(6月)	冬季(12月)	計
管理職員	一律支給分(期末相当)	%	%	%
	査定支給分(勤勉相当) (平均)	%	%	%
	最高～最低	～	～	～
一般職員	一律支給分(期末相当)	60.0	60.2	60.1
	査定支給分(勤勉相当) (平均)	40.0	39.8	39.9
	最高～最低	44.7～37.1	44.9～37.5	42.1～37.4

注:研究職員の管理職員は2人以下のため、記載していない。

## 3 給与水準の妥当性の検証等

## 事務・技術職員

項目	内容
対国家公務員 指数の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年齢勘案 100.1</li> <li>・年齢・地域勘案 92.0</li> <li>・年齢・学歴勘案 98.6</li> <li>・年齢・地域・学歴勘案 91.3</li> </ul>
国に比べて給与水準が 高くなっている理由	<p>当法人においては、本部事務局及び5館の美術館のうち、3館が東京都特別区内に所在し、地域手当の1級地に勤務する職員の割合が国を大きく上回る(国立美術館:65.78%, 国:31.45%)ため、年齢勘案の指数において、国の給与水準をわずかながら上回ったものと考えられる。なお、年齢・地域勘案の指数は国を8ポイント下回っている。</p> <p>※国家公務員の勤務地の比率については、「平成28年国家公務員給与等実態調査」行政職俸給表(一)の都道府県別在勤人員及び構成比より引用</p>
給与水準の妥当性の 検証	<p>【国からの財政支出について】 支出予算の総額に占める国からの財政支出の割合 85.7% (国からの財政支出額 11,012百万円、支出予算の総額 12,840百万円:平成28年度予算) 累積欠損額 0円(平成27年度決算) 支出総額に占める給与・報酬等支給額の割合 7.8% (支出総額(平成28年度決算ベース) 12,140,799千円、給与・報酬等支出総額 947,002千円) 管理職の割合 0%(常勤職員数38名中0名) 大卒以上の割合 81.6%(常勤職員数38名中31名)</p> <p>(法人の検証結果) 俸給表、諸手当等の給与体系は国家公務員に準拠しており、対国家公務員指数においては、年齢勘案で国を0.1ポイント上回っているものの、上記のとおり、国と比較して地域手当の1級地(東京都特別区)に勤務する職員の割合が高いことに起因するものと考えられ、年齢・地域勘案では国を8ポイント下回っていることかからも、事務・技術職員の給与水準として適切なものと認識している。</p> <p>(主務大臣の検証結果) 地域差及び学歴差を是正した給与水準の比較指標では国家公務員の水準未満となっていること等から給与水準は適正であると考え。引き続き適正な給与水準の維持に努めていただきたい。</p>
講ずる措置	引き続き適正な給与水準の維持に努める。

## 研究職員

項目	内容
対国家公務員 指数の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年齢勘案 94.3</li> <li>・年齢・地域勘案 92.4</li> <li>・年齢・学歴勘案 93.8</li> <li>・年齢・地域・学歴勘案 92.0</li> </ul>
国に比べて給与水準が 高くなっている理由	該当なし
給与水準の妥当性の 検証	<p>【国からの財政支出について】 支出予算の総額に占める国からの財政支出の割合 85.7% (国からの財政支出額 11,012百万円、支出予算の総額 12,840百万円：平成28年度予算) 累積欠損額 0円(平成27年度決算) 支出総額に占める給与・報酬等支給額の割合 7.8% (支出総額(平成28年度決算ベース) 12,140,799千円、給与・報酬等支出総額 947,002千円) 管理職の割合 4%(常勤職員数50名中2名) 大卒以上の割合 100%(常勤職員数50名中50名)</p> <p>(法人の検証結果) 俸給表、諸手当等の給与体系は国家公務員に準拠しており、対国家公務員指数(年齢勘案)は国を5.7ポイント下回っており、給与水準として適切なものと認識している。</p> <p>(主務大臣の検証結果) 給与水準の比較指標では国家公務員の水準未滿となっていること等から給与水準は適正であると考え。引き続き適正な給与水準の維持に努めていただきたい。</p>
講ずる措置	引き続き適正な給与水準の維持に努める。

### 4 モデル給与

- 22歳(大卒初任給、独身)  
月額 178,200円 年間給与 2,638,000円
- 35歳(本部主任、配偶者・子1人)  
月額 337,500円 年間給与 5,518,000円
- 45歳(本部係長、配偶者・子2人)  
月額 433,900円 年間給与 7,081,000円

### 5 業績給の仕組み及び導入に関する考え方

昇格、昇給の実施及び勤勉手当の成績率の判定については、規則に基づく勤務の評定、または業務において特に優秀な成績を修めた職員の勤務成績を考慮している。

### Ⅲ 総人件費について

区 分	平成28年度
給与、報酬等支給総額 (A)	千円 947,002
退職手当支給額 (B)	千円 119,129
非常勤役員等給与 (C)	千円 415,260
福利厚生費 (D)	千円 198,057
最広義人件費 (A+B+C+D)	千円 1,679,448

注：中期目標管理法人及び国立研究開発法人については中期目標期間又は中長期目標期間の開始年度分から当年度分までを記載する。行政執行法人については当年度分を記載する。

#### 総人件費について参考となる事項

- ①「給与、報酬等支給総額」は対前年度比で0.02%増とほぼ同水準となった。
- ②「最広義人件費」は対前年度比で4.5%(72,884千円)増となった。増額の主な要因としては、退職手当支給額の増加(34,962千円)及び非常勤職員等給与の増加(24,641千円)による影響が大きい。

### Ⅳ その他

- 特になし。